

大江



'87

大阪経済大学同窓会

特集

座談会 心のふるさと、我が母校……………5
 ——魅力ある大学を目指して——

●同窓会本部だより……………20

昭和62年度理事会盛會裡に終了・支部長会開催
 母校50周年記念館で62年度同窓会総会盛大に開催

●同窓会支部だより……………27
 待望の尼崎・備後両支部が誕生

●学園の近況……………49

●ゼミ短信・先生の近況……………63

●キャンパスだより……………69

●同期生クラブOB会……………75

●北から南から……………88

●グラフィア ニューシンボル(50周年を祝って)……………1

創生期のアカデミックな伝統を脈々と継承……………20

同窓会会長 磯野 斉

風と雲によせて……………2

理事長 鈴木 亨

本学の将来像を「企画検討委員会」で……………49

学長 山本晴義

母校周辺ウォッチング……………18

話題の同窓生……………47

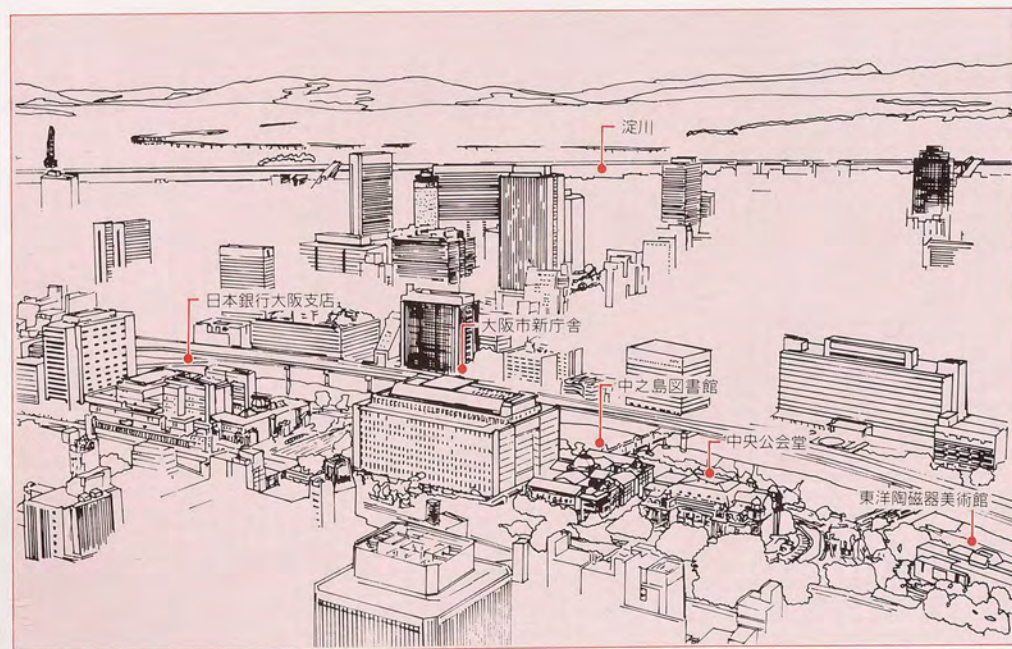
岡田佐市さん…44 物部秀恒さん…94 寄吉哲司さん…94

同窓会支部役員……………47

地域別同窓生分布図……………48

事務局だより……………95

ニューシンボル(50周年を祝って)



●表紙写真

中之島上空から、日本銀行大阪支店、大阪市役所新庁舎、中之島図書館、中央公会堂、等をとらえる。(昭和62年9月6日撮影)

●表紙題字

名誉会長の渡辺達好の筆によるもの。

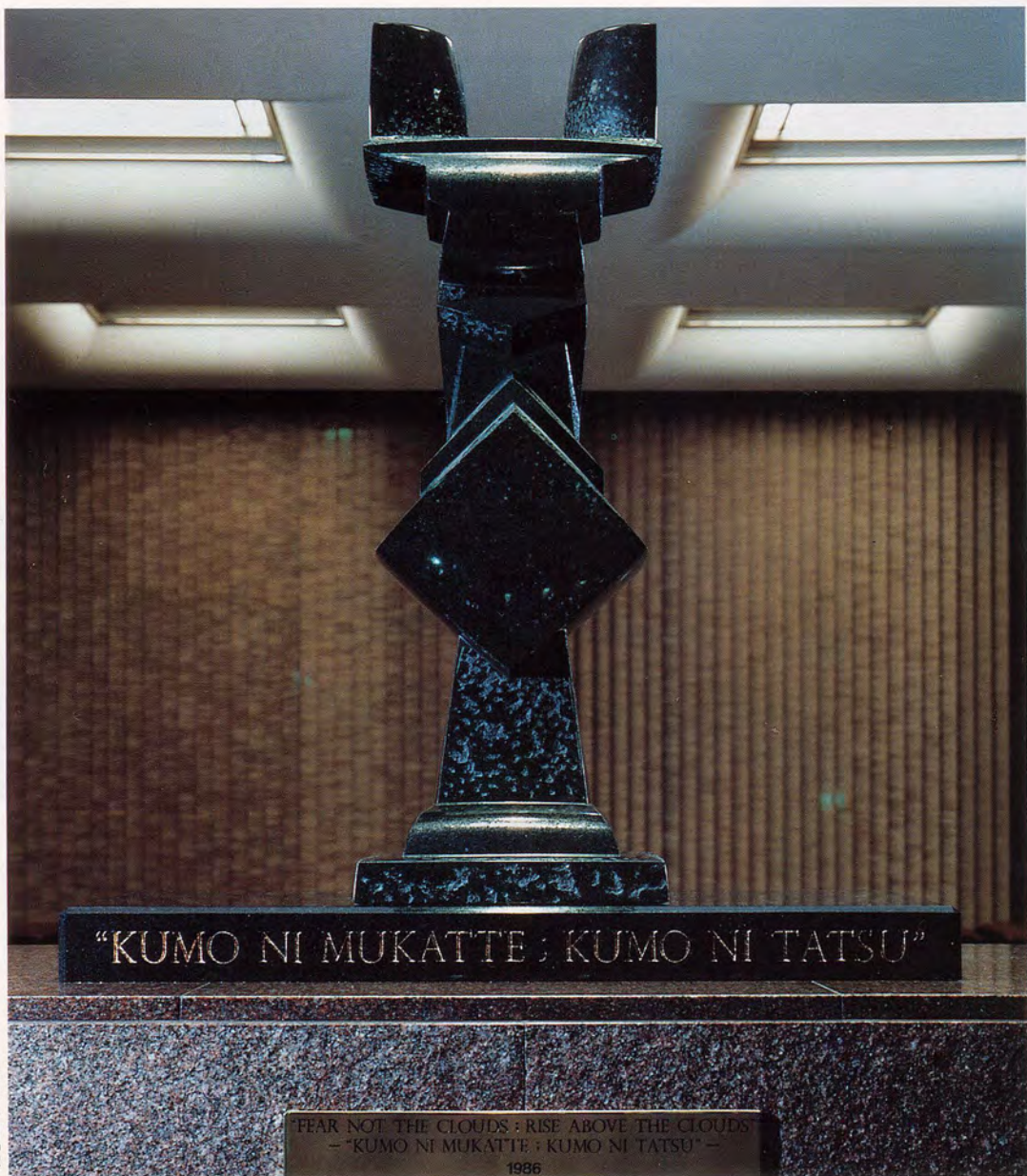


KAZI NI MUKATTE KAZI NI

風と雲によせて

話は奇妙なところから始まった。国際的に知られた彫刻家、流政之氏は私の実弟との古い飲み友達だった。そのためか、お会いした時から親近感をもっていらした。氏は、かねて本学の後援会からの依頼による彫像のイメージを浮かべるために、私に大阪経済大学の建学の精神をたずねられた。私はそれに対して「自由と融和の精神である」と答えた。氏はその時、「雲を把むような話だなあ」と、困惑の体を見せられた。瞬間、私は「そうだ、その雲を把む像を造って下さい」と言った。氏は「面白い、やりましょう」ということでイメージは湧き上がった。そこからあの「雲に向かつて雲に立つ」の彫像が出来上がったのである。それに加えて、同窓会からの寄付の話も私に一任されていた。そこで、いっせ流氏にペアでお願いしたらと思いつき、後日、お話ししたら、「お引き受けしましょう」ということになった。あの西門前に立つ、「風に向かつて風立つ」の彫像は、そんなことで今年の五月に出来上がったという次第である。この作品との出逢いにより、私は芸術作品のイメージの核が、ふくれ上がり形成されてゆく過程の、秘奥に触れたように感じた。さらに嬉しいことには、流氏の作品は多いが、大学に設置されたのは今回が初めてだということである。雲を呼び風をはらむこの二作品は、まさに本学学生諸君の、青雲の志を示すシンボルである。と同時に、わが大阪経済大学の行く手をも暗示し、永く本学の発展の糧となることを念じてやまない。

大阪経済大学理事長 鈴木 亨



記念彫刻「雲」



除幕



入魂



流政之氏アトリエ

●流政之氏プロフィール

1923年 長崎に生まれる。

1935年 父(中川小十郎:立命館大学創始者)の命により、古流武道・神道を学びサムライ教育を受ける。作刀・刀研ぎにも励む。第二次世界大戦末には、学徒出陣で露戦のパイロット。

1955年 10年間各地を放浪の後、戦没学生生活碑のため、飛行空筒による彫刻で、はじめの個展を開く。

1958年 アメリカの建築家イエロー・サーリネン夫妻の認めることとなり、作品《雲》がアメリカに渡る。

1960年 彫刻《雲》が、ニューヨーク近代美術館のパーマネントコレクションとなる。

1963年 ニューヨーク世界博覧会のため、800トンの秘石をたずさえて、彫刻《ストーン・クレイジー》を仕上げ、一躍世界に名を馳せる。

以来、日本・アメリカなど各地で多くの作品を制作。今や世界中に作品が展示・所蔵されている。

特集 座談会

心のふるさと、我が母校

魅力ある大学を目指して



日時 昭和62年10月3日(土)午後2～4時
場所 母校50周年記念館同窓会ホール
出席者 (大学側)

- 鈴木 亨(理事長)
- 山本晴義(学 長)
- 玉岡 浩(事務局長)
- 田所清市(総務部長)
- (同窓会側)
- 磯野 齐(会 長)
- 谷口一郎(副会長)
- 陰下嘉典(事務局長)
- 西本集一(総務部長)
- 前田悦子(広報部参与)
- 波根伸俊(広報部長・司会)
- 津秋靖博(広報部副部长)
- 故池田善雄(広報部)

62年度同窓会総会



▲▼記念館7階ホールでのパーティ



▲黒正夫人に『道理貫天地』を贈呈



▲松川圭一氏(逍遙歌作曲者15回卒)による歌唱指導



▲比企前事務局長はじめ功労者を表彰

創立50周年記念事業を振り返って

司会 本日はお忙しいところ、母校と同窓会の代表者にお集まりいただき、これから「心のふるさと、我が母校——魅力ある大学を目指して——」というテーマで、ざつとくばらんに話し合いたいと思います。これは大学と同窓会が、少しでも絆を深めて、お互いに理解しあつて、母校の発展を願うための座談会でございます。

さて、ここ数年のうちで、私たちにとつて最も大きな出来事は、母校の創立50周年記念事業を無事やり遂げたことだと思えます。そこで記念事業を振り返りまして、その成果なり、次回にはこうしたいというご感想をまず、話し合いたいと思います。では理事長から、お願いいたします。鈴木 まず何よりも、50周年事業が数年かけ



理事長・鈴木 亨

て行われ、同窓会、後援会、そして学内の皆様のお力添えをいただき、年史を除いて、ほとんどの記念事業が完成しましたことは大変慶ばしいことであり、その点を皆様に厚く御礼申し上げます。

この間、同窓会長はじめ同窓会の皆様から非常にハッパをかけられ、我々の対応がそれについていけないような点もございましたが、その点は深くおわびいたしたいと思います。ただ、何分にも大きな事業でありまして、この記念館がその中でも最も大きな一つであります。これをとにかく完成させ、情報化時代と言われるときに、文科系の大学としては、かなり誇れるような情報処理教育研究装置を導入し、またスタッフをそろえることができた。そしてそれにマッチした教室も、つくり上げることができました。

そのほか一階には、かねて私が学長時代からの念願であつた、学生諸君のいこいの場が我々の思っていたより以上に立派にできました。また、同窓会の皆様にご満足いただけただろうかわかりませんが、最上層の見晴らしのよい場所に、皆様のいこいの場、会合の場が完成しましたことを大変うれしく思っております。

さらにいろいろな式典、その他写真集や記念論文集や記念講演会、あるいは公開講座や日本経済史研究所の創立50周年記念事業も行いましたし、ほとんど所期の目的を達しえたと思っております。

さらに3億円の募金、この募金も当初同窓会の方々と、「半分までいけばいいんだがな」立派なものが出てきた。学長として非常にやりやすい条件をつくっていただきました。また記念講演会とか、公開講座には直接かわつたわけでありまして、開かれた大学づくりということなど、総合的な意味で、この記念事業は本学が今後さらに発展していく大きな転機と申しますか、そういう姿勢で受け止めなくてはならないと決意しているわけでございます。改めて皆様に御礼を申し上げたいと存じます。

司会 ありがとうございます。では同窓会の谷口副会長、感想をお願いします。谷口 理事長先生、学長先生、そしてわが同窓会の会長から、ただいまいろいろご苦勞のお話ございましたが、私見ではございますけれども、募金事業に関しては、磯野会長の情熱とその力の大きさが印象深いこの2、3年でございます。

それは全国35にまたがる支部総会でのご挨拶の中でも、ただお金を集めるんじゃなくて、同窓会の将来に非常に夢を託していらつしやる。そうですね、100年先にも磯野会長がいらつしやるというような、そういう情熱で一人一人に当たられた。その成果がこういうことではなかったのかと思います。

また、この50周年というのが、同窓会にとつても将来へ向けての大きなスタートになったと思えます。当然50年の歴史は同窓会にもあり、大学とともに両車輪でまわりましたけれども、同窓会の百年の計といえますが、たとえば人事、組織についても、この7月の常任理事会で新体制ができました。その意味で

と懸念しておりましたが、3億のうち75%ぐらいを達成することができ、ありがたく思っている次第です。

その間、田岡嘉寿彦元理事長が昭和60年7月27日、さらに藤田敬三前理事長も同年11月29日にお亡くなりになるといふ悲しい事柄もございましたが、とりあえずは諸事業を完成し、今後は60年あるいは70年、100年というふうな、これを機会に大阪経済大学がますます前進し、発展していくことを祈念するものであります。まずは話の糸口ということで発言いたしました。皆様も一致協力し、いろいろご助力願いたいと思うわけであります。司会 ありがとうございます。では同窓会を代表し、会長お願いいたします。磯野 私が話ししたいと思うことを、いま理事長がほとんどお話になった、そういう感じがいたします。

振り返ってみますと、「鈴木亨先生よくやっていただいた。」、まずこの言葉を申し上げたいと思えます。ことに募金を大々的にやったのは今回が初めてでございましたので、大変心配をしたわけで、先ほど同窓会にだいふハッパをかけられたというお話がございましたが、学長兼理事長代行の鈴木先生は大変だなしかし、この人をおいては、とても大学の内部はまとまらなだらう。そんな気持ちを強く持つておつたわけで、その点はぜひお許しをいただきたいと思います。

また、募金活動がスタートしたときに、「同窓会ではいったい何ぼぐらい集められるのか」と尋ねられたんですが、私は日本の経済50周年ということが、我々同窓会の組織の転機になった、これはありがたい成果だったと思っております。そしてこれも同窓会の活性化を求めた会長のご英断で、新体制ができたということでございます。

幸いにして、35支部でも、刷新という言葉は語弊がございますけれども、支部長さんが後進に道を譲るとか、「おれは一生同窓会支部の面倒は見るけれども、実際は若い人たちがやってくれ」というような、新しい体制づくりがこの2、3年進んできたように思います。当然陣容、組織が変われば、支部の活性化も、あるいは支部の百年に向かつての方針も、それぞれ大きな抱負をもつて進んでいくんじゃないか、そんな状況のように感じております。司会 では最後に、どんな事業にも、縁の下の力持ちといえますか、それを支える人が必要なわけですから、大学の事務局長、総務部長、何かご感想をこの機会にお願いしたいと思えます。

玉岡 皆さんのお力添えで、やっとここまでござつきました。「50周年宣言」を57年にやつてから5年、その間、式典、募金と記念館の建設を初め、少なくとも10ぐらいの事業があつたかと思うんです。

私どもにとりまして初めてのことでしたし、とにかく一つ一つがまさぐりで、やっと終わったなという感じしておりますが、この大きな事業に参画させて頂くなかで50年の重みをつくづく感じました。

記念事業を担当した事務局もずいぶん苦労があり、同窓会長からも、「独立した事務局



学長・山本 晴義

状態が大変不景気でしたので、「3億の中の5千万円ぐらいじゃないでしょうか」と発言したことを覚えております。いま結果を見ますと8千200万ぐらいですので、努力したかいがあつたな、という気持ちで一杯です。そして、トータル的にはだいたいうまくいったかと、私は思っております。

司会 いまお話がありましたように、記念事業中、鈴木先生は学長兼理事長代行ということで、本当に大変だったわけですが、幸い昨年の秋、新学長が誕生しました。その新学長の山本先生は以前から広報部長や理事などを歴任されておられました。そこで、新学長としてのご感想を一言お願いしたいと思います。山本 50周年記念事業に關しましては、いま理事長、同窓会長のお話で尽きるわけでございますが、現代の社会要請である情報化ということで、学内の期待にもこたえてこれだけ



(大学側) 事務局長・玉岡 浩

をつくれ」というお話まであったんですが、結局それをしないままできました。総務部長あたりもずいぶん苦労だったんですが、何とか乗り切って記念事業を無事終えることができました。その間、藤田前理事長がご逝去になり、結局50周年記念館をごらんになれずに亡くなってしまいました。そのことを思いますと、残念でなりません。

ところで、近畿の他大学から見た場合に、どういう感じであったか。たとえば関大、関学さんあたりは100年を超えており、甲南が65年ということですが、本学もそれに次ぐ古さを持ったわけですし、新興の大学の方たちからは非常にうらやましがられております。それだけの歴史を持った大学を、我々一人一人が頑張つてよい立派な大学につくり上げていかねばならない、ということを感じしております。

田所 一連の記念事業が無事終り、ホッとい



(大学側) 総務部長・田所 清市

たしておりますが、多々不手際があったと反省いたしております。しかし、不慣れながらも関係職員ともども最善を尽くしたつもりでおります。

ことに、募金に深くかかわった立場から、目標額には達しなかったものの、予想額(?)を打ち破ることができ、大変ありがたく思っております。

また、うれしくも予想に反し、定年後の古い卒業生諸氏の熱意と、若い卒業生諸君の意外な程いただいたご協力が大変印象深く心に残っております。

そして、この経験が、60年、70年へ向けての貴重な財産になったと思っておりますので、機会あるごとに関係者に伝えていくのが私の責務であるとも感じております。

たしてありますが、多々不手際があったと反省いたしております。しかし、不慣れながらも関係職員ともども最善を尽くしたつもりでおります。

記念彫刻と母校の学風に望む

司会 もっとたくさんのお話を伺いたいところですが、次にこの記念事業では立派な記念館と同時に、世界的彫刻家流政之氏制作による作品が記念彫像として据えられました。これは大学の後援会と同窓会からの寄贈によるものですが、これの設置にあたっては鈴木理事長があつてこそうまくいったというようにすることも伺っています。そのへんのことをご披露いただけたらありがたいと思います。

鈴木 ……本誌グラビア頁に鈴木理事長の当該文章を掲載しましたのでご参照下さい。(編集部)

…

司会 いま理事長より、「本学の建学の精神は雲をつかむようなものだ」というご指摘が彫刻家の流政之氏よりあつたことですが、3回卒の磯野会長、本学の学風についてお伺いいたします。

磯野 「風雲急を告げる」という言葉がありますが、もう5年もたつたら受験生が急激にダウンするというのが、学内外で話題になっております。かかる時、風雲急を告げるような彫刻が理事長の発案で大学に据えつけられた。これは何か因縁があるんじゃないか、そういう気持ちもするわけです。

したがって、そういう危機が到来するにあつたって、大学のトップの二人がどういってお考えをお持ちになつて、この危機を乗り越えられるのか、そういう点をご披露願えたらと思っております。

実は最近、広島と愛媛支部の会合にまいり

ました。広島支部では広島商業の野球部長をしている同窓生から熱心な発言がありまして、「いつもシーズンになると新聞を開くんだけ。そして自分の高校からも、いい選手をぜひ母校に採っていただくように努力しておるけれども、うちの大学は試験が難しい。そして推薦入学があるのもよく知っておるけれども、同志社などと違うように思う。もっと母校のOBが推薦する学生については、プラスアルファを考へてもらえんもんか」と。

また、愛媛支部では、支部長の息子さんとその友達に本学を勧めたらしいですけども、「大阪経済大学はあまり魅力がないし、試験を去年受けた友達が本学をスベった。ところが、お父さんが同志社を出ておつたので、そのお父さんの紹介で同志社を受けたら同志社には入学した。聞くところによると、同志社ではそういうプラスアルファをつけておるらしいということがわかった。何かの機会に大学にお話をしてもらえませんか」ということでした。

「うちの大学はそういう点はなかなか難しいんだ」ということで説明はしましたけれども、こういう私学の行き方ということについて、いまま少し柔軟な体制をとっていただけないか、そのように思います。

司会 理事長、学長の抱負は後ほど伺うといたしまして、私も学生時代、本学は国公立的な雰囲気をもった大学だということ聞いた覚えがあるんですが、本学の学風について、学長のお考えをお願いいたします。

山本 いま磯野会長から具体的なお話がござ

いまして、私自身も私学の出身で、いま會長さんのおっしゃいましたような諸問題、端的に言えば本学はまじめだがダサイと言われたいことですが、ことに私学の場合、若い青年層への魅力が必要である。女子学生が少ないことや、いまの特別推薦の問題もそれと関係があると思えます。

そのほか、たとえば社会人教育、これも国公立、を含めずに100校がやっておるわけで、これだけ時代が急激に、ザ・サードウェーブ、第三の波というところで、どんどん変わつてまいりますと、二部夜間教育のあり方についても今後手のつけられる所から手をつけていく必要があります。先ほどお話のございました情報化や国際化の問題も然りです。

ただ、問題は近代科学のこれだけの発展が、逆に公害とか、人間疎外とか、いろんな問題を含んでいるわけでございまして、ハードからソフトへの時代ということが言われているわけです。

同窓会からご寄付いただきました「風に向かつて風に立つ」あるいは後援会からの「雲に向かつて雲に立つ」という記念彫刻、これは本来、本学の創立の黒正イズムだったと思ふんです。当時の状況を、調べましたら、相当大胆にいろいろな問題を掲げているわけです。たとえば「国家自身の転換の中で、それを先取りしていくような、そういうスケールの大きい人間形成をやらなくちゃならん」というようにです。そういう点で、現代における個性的な人格の形成という、これは創立の

精神と全く一致する。彫刻は、その現代における象徴であるというように感じております。それをどう具体化していくか。この具体化していく問題につきましては、67年までの勝負であるという意気込みでやっていきたいと思っております。

司会 だいぶ当座談会も力が入ってくると思いますか、前向きな話が増えてきたと思ふんですが、同窓会から、西本総務部長、本学の学風なり彫刻について、何かご感想がありましたらお願いします。

西本 いまご用意いただいた『大学要覧』の1ページを開いてみますと、歯ブラシと歯磨きが置いてある。50周年を迎えたそういう時期に、もう一度あか落とし、丈夫な歯を磨いて、そして健全な体を鍛えようやないか、そういう意味があるんじゃないかと思つて見



(同窓会側) 総務部長・西本 集一

磯野 顔洗って出直せということじゃないか。
(笑)
西本 いろいろな面で、一つのものを見る場合でも、50周年という中で物事をとらえてみたいと思っただけです。

さて、理事長先生から記念彫刻についてのいきさつ等々、非常にいいお話を聞かせていただいたわけですが、これこそ、これから我が母校の校風にし、建学の精神というものをそこに求めて、我々でつくっていくかなきゃいけない時期にきたんだなと思います。よく先輩から聞く黒正イズムとか「自由と融和」の精神とかを大切にしながら新しい学風なり風土というものをつくっていくのが、これからの学風づくりだろうと痛感する次第です。

各大学にもそれぞれ建学精神がございまして、同志社は同志社なりの、関西学院は関西学院の精神があります。宗教校のばあい精神的なものを強く表に出すことができるわけですが、そうでない本学のばあいはなかなか難しい。とすれば、教職員・学生と同窓生が、精神とか学風を自らの手で守りつくっていくかなきゃいけないだろう。そういう意味におきましても、非常に彫刻の意義は大きいと思っております。

先般、池田高校の葛監督の「チームづくり」という話をお聞きしたんですけれども、高校野球でも、宗教校は非常に強い。それはなぜなのか、人間は技術だけではだめなんだ。精神的な面と技術面が必要なんだ。その精神的な面をまとめるのが大変なんだ。

るのはかは、はっきりわからないんですけども、そういう気持ちにさせる部分が多ければ多いほど、この学舎で学んでよかったという気持ちがあるわけです。

社会に出まして、いろんな人とかなり深くお付き合いをさせていただいてるんですが、先輩であれ、同輩、後輩であれ、同じ学舎から巣立った同窓生という場合は、心の垣根がすべて取れてしまうんです。こちらへんも心のふるさとといいますか、そういういいものが経大にはあったんだし、いまもあると思います。

また、先ほどからハードな面とソフトな面というお話が出ておりましたが、ハードな面のは、お金さえかけて、一つの企業経営として考えれば、幾らでもすばらしいものができると思うんですけれども、ソフト面というのは、人間の精神面、情緒面、そういう所は、やはり50年の歴史がつくり出すものだと思うんです。

そこらへんをこれからも大事にしていきたいだきまして、先ほどからお話がありますように、何とか同窓生と縁故のある方が、一人でも多くここで学んでもらえれば、そういうつながりも増えていくんじゃないかなろうか。そういう縦糸と横糸の組み合わせで、ますます経大そのものがいい心のふるさとになるんじゃないかなろうかと感じてるわけです。

司会 次に、このたび同窓会のために新事務局局長としてご就任いただきました陰下事務局長にお願いしたいと思います。



(同窓会側) 事務局長・陰下 嘉典

また、野球の場合でも勝ちどきというのがあるようにございます。その一瞬の「とき」でございます。先ほど先生から、情報化社会での大学のあり方などお聞かせいただきましたけれども、勝ちどきという、そういうタイムリーな「とき」というものがあると思えますので、風雲の両彫刻をみすえながら、新しい学風づくりに、我々同窓会としても努力いたしたいと思えます。

母校は心のふるさと

司会 それではこのへんで「心のふるさと、我が母校」というテーマに戻りまして、だいぶ難しい話もありましたので、気楽にテーマに沿った体験とか、希望をお聞かせいただきたいと思えます。

私自身思い返しましても、大学でよき師と出会い、学生寮におりましたので、いい友達とも出会いました。そのように母校とか、同窓会というものは、利害を超えた、また社会で傷ついたりしたときの、英気を養う心の基地であると思えます。また青春時代のよき思い出の場であり、師や友達との出会いの場が我々の母校で、心のふるさとだと思うんです。そこで各世代からお話いただきしたいと思います。津秋 先輩お願いします。

津秋 たまたま今日の座談会に出席するということで、下の駐車場まで車を止め、2、3歩歩くと、体育館から非常に元氣な掛け声が聞

事務局長を引き受けさせていただくことになりましたが、私がおそらく大学の移り変わりの一番重要なときに学生生活を送らせてもらったんじゃないかと思えます。といえますのは、大阪女子経済専門学校の名残ある大阪経済専門学校に入学し、新制の大阪経済大学を卒業した、という思い出がございます。

そして、母校は心のふるさとということで、学校を出て過去40年間、社会でいろいろの仕事をしましたが、仕事をやる上で、いかに大阪経済大学のおかげをこうむったかということを痛切に感じるわけです。

最初に会社に就職する際に西島弥太郎先生の紹介状のおかげでその会社に入れてもらった。また、その後大学の評議員をさせてもらっているばかりに大きな信用を得ることができた。そして最後にまた同窓会の事務局に務めさせていただくことになった。それほどこ



(同窓会側) 広報部副部長・津秋 靖博

こえるんです。それを聞いた瞬間、体育館に行けば2、3分しかおれないんですけれども、自然に足が体育館に向かいます。入ってみますと、空手部と、私の出身母体である日本拳法部が稽古してある。学生が「オッス」と挨拶してくれまして、「元氣やな」ということで、3、4分座って見てたんです。

そういう何も考えない、難しい理屈は抜きで、足がそちらに向いて行った。体育館で靴をぬいで、学生時代と同じように、入口ではちゃんと頭を下げて、気持ちは25年前にタイムスリップしてるわけです。頭を下げて入った瞬間、肉体は衰えてますけれども、気持ちが在学当時の気持ちに、スーと返っていった。ここが理屈でも何でもなく、同じ学舎で学んだ同窓生、そして年代はみんな違うんですけども、我が心のふるさとだと思うんです。そういう雰囲気は何から出て、なぜそうな

の学校とは縁が深いと申しますか、非常にお世話になって人生をすごしました。このたび事務局の仕事を務めるにあたって、何と母校が立派になったことかと感心しております。私の学生時代は職員室、教務部、学生部などはすべて一カ所にあり、校長室も廊下一つへだててすべての用事がすむような学校だったんですけれども、現在は同窓会事務局から関係各部へお伺いしようと思えば、パスの1停留所か2停留所ほどの距離を歩いてお伺いしなきゃならん。本当によくここまで立派になったものだと感激しています。

先程、谷口副会長が「会長は100年先のことを考えて、情熱を燃やしておられる」とおっしゃいましたが、我々も100年先を考えて情熱を傾けねばと思えます。

そして、各支部総会に出席しましても、先輩が先輩を立て、時には先輩に対する甘えから少々非礼な態度があっても、先輩がそれをそつとたしなめ指導してやる。また、「各支部総会に出席される諸氏が一堂に会して団結されたら、これはものすごい力になるのではないかと思っています」。これらの人は、人それぞれ、考えに違いはあっても、母校愛、同窓の友情ということには共通のものをもち、これこそは、同じ学校を出たものの貴重な資産ではないかと思えます。

司会 一番若い世代を代表して、池田さんどうぞ。

池田 私は昭和41年に入学しましたが、ちょうどD館ができ上がり、そこで入学試験を受けたんです。古い高等学校からきましたので、

ホテルみたいな感じを受けました。ちょうどその前年ぐらいに学生会館ができたときで、全学に新しい建物次々とでき上り、ものすごい活気があったように記憶しております。

そしてすぐに簿記会計研究部に入りまして、B館の地下のクラブボックスに授業の合間になつたらたむろしていましたが、それも1年生の終わりぐらいに、図書館裏に、新しいクラブボックスができ上がって、全クラブがそっちへ引越しました。そういう思い出とともに、入学した年は学生会館の管理運営権の紛争をやっており、卒業するときには大学紛争で、そういう騒然とした活気があり、かつ混乱もしてたという中で4年間をすごしました。そういう意味では既定のレールがすでにあつて、その上を進んでいくんじゃないかと、いろんな人がいろんなことを言い、語り合い、もちろんクラブに入りましたから、友だちの下宿へ行ったりして、わりかたおもしろい時期をすごしたと思います。



(同窓会側) 広報部・故池田 善雄

と苦楽をともにできたということが、何にも増して、ほかの同窓に比べ、一番幸せであつたのではなからうかと、いましみじみ思っております。

誇れるふるさと母校とは

司会 いろんな角度から「心のふるさと、我が母校」について語っていただきましたが、そろそろ本日の座談会のまとめに入っていきたいと思えます。さて、私たちにとって大切な心のふるさと、母校は、当然日々発展し、誇れるものであつてほしいとだれもが望んでいると思えます。そこで母校が伝統を大切にしながら、未来に発展していくために、理事長、学長の抱負をご披露いただき、それに対して我々の希望をお話し、逆に大学側に望むばかりでなく、同窓会では母校に対してどういふことができるのか、また大学側は同窓会に何を期待しているのかについてお話し合いたいと思います。まず理事長からお願いたします。

鈴木 いまいろいろと皆様のお話を承りまして、ますます大阪経済大学の発展に対する意欲といいますか、そういうものを感じさせられました。

先ほど私どもの大学の建学の精神は自由と融和である、そういう雲をつかむような、先輩の方々でも漠然としたものでありながら、つまり感覚的にはわかっているけれども、説明し難いということが、このたび流さんの彫刻「雲に向かって雲に立つ」と「風に向かって風

その当時から比較的図書館のほうにはよく行かしてもらつてたんですが、いまま母校の図書館勤務になつて、不思議な感じを受けております。

司会 池田さんと同じように大学の職員として、また女性として同窓会での重要な立場にいらつしやる前田さん、最後に体験なり、ふるさととはこうあつてほしいという希望がありましたらお願いします。

前田 私は、年代からしますと、陰下さんの前なんです、昭和19年にこの学校に入つてきました。当時の学校は昭和高商の人たちが学徒出陣とか、軍需工場への動員ということで、一人一人減つていくわけです。そこで、建物、先生方をそのまま温存する形で、生徒を、男性から女性に切り換えた、いまで申します世間のニーズの先取りで生まれた大阪女子経済専門学校へ入学したわけです。

当時の学校周辺は空襲で痛めつけられ、校舎は日立造船の学校工場ということで全部迷彩を施してある状態での学生生活でした。

そして終戦までは、動員に出まして、地方からきておりました人たちは、特別防衛隊という形で、いまの大学院館に宿泊して、空襲のときには学校を守る、そういう体制を取つた時期もございました。現に昭和20年6月には空襲で、それまでみんなが使つておりました部室なんかは焼失しました。

そして、8月15日を契機に自宅待機で、みんな自宅に帰つたわけですが、9月になって、出てこいという連絡をもらいました。そのときは再開の喜びといましようか、また学生

に立つ」という二つの彫刻が、それを感性的に具体化したということで、だんだん抽象的なものが具象化されてきた。それを我々はよりどころにして、さらに前進していきたい。

母校というのは一つの港ですから、社会へ出て行った学生諸君が、巣立つていって、我々としては、巣ごもりをしていたひなが、荒波の中へ、あるいは風の中へ飛び出していって、のを見守っている。また傷ついたら、学校へきて、ゆつくり羽を休めて、また思い直して勇敢に飛び出して行つてほしいものだと思つています。

そういう意味で、この大学が、学生諸君のあるいは卒業生諸君の母なる港なんだというふうに考えているわけです。その港が、先ほどの自由と融和から、風雲をはらむ映像にまで具体化してきましたけれども、もう一つ、大阪というのは、いま何にしましても東京が中心で、関西が少し後れてきている。地価の高騰によつても見られるように、何事も中心は東京にいつている。

しかし、関西というのは反骨の精神を持っている所なんです、学問について言えば、たとえば大阪大学の前身と言われる、緒方洪庵が開いた適塾というのがありますが、適塾は決して官学ではなくて、個人が開いた、明治維新の志士を育てた小さな塾であつた。そこからあの偉大な後輩たちが出てきた。

また山片蟠桃であるとか石田梅岩、京都で言えば山崎闇斎であるとか、伊藤仁斎であるとかいうような人々が、当時の江戸幕府の官学に対して、町方の学問を開いて、決して一



(同窓会側) 広報部参与・前田 悦子

生活が続けられるという喜びは、窓ガラスは全部壊れて、窓枠だけにはなつてましたけれども、そんなこと苦になりませんでした。とにかく活字に対する喜びといいますが、学生生活が続けられる、そういう喜びで集まったことを記憶しております。

それから2年下の学生を募集しますときに、経済専門学校か、商業専門学校かという校名問題でかなり、ときの校長、菅野和太郎先生と対立いたしました。結局大阪経済専門学校になりました。

そのときの学生運動が徐々に後輩へ引き継いでいかれ、それが昭和24年の新制大学へ向けての昇格のエネルギーになつたと思います。そういうときに女子学生としてここで勉強したという喜びと、またご縁がございまして、卒業後、いったん社会には出ましたけれども、30年近い間、またこちらに勤めさせていただいて、現在まできているわけで、まさに母校

歩も譲らなかつたという伝統があるわけで、関西というのは江戸時代から、東京の官学に対して、民学の精神というものを育てていった。しかも、小さな塾である。そこから立派な人を輩出している。そういう精神を、大阪というのは日本経済の大動脈でありますから、そこに実学という、抽象的なものでなくて、現実の学問としての、実学としての精神が脈々として江戸時代から現代に至るまで流れており、我が大阪経済大学というのは、小なりといえども、その精神を継いでいるんだ。それが数百年にわたる伝統を持っているんだというふうに、私は考えています。それがまさに建学の精神の裏に流れている精神、その血脈を引き継いで、さらに発展させていくということが、一つの大きな校風であると思えます。

つぎに50周年記念に我々が全力を尽くし、このような我々にとって立派な設備をつくりました。それができ上がつてみると、残つた所、いまの研究所であるとか、B館であるとかいふのが、逆に老朽化が目立ってまいりました。これを何とかしないといけない。ですから場所はともかく、もう一つこれぐらいのものを建て、できればB館あたりは逆に緑化地帯にして、学生諸君の戸外のいこの場にしたいというふうに、一つは考えているわけです。

もう一つは、いままで経済系の単科大学でしたけれども、何か新しい学部なり、学科なりというものが考えられないだろうか、これがもう一つの考え、その二つの方向がうま



くいきますと、経大としてはさらに大きな発展になるんじゃないか。

しかし、ここでは非常に狭いですから、茨木の校地をはじめいろんなことが考えられます。そこで先ほど学長がふれられたように、企画検討委員会というものができておりますので、その方たちに考えていただいているわけです。一方、茨木市も文化、観光などいろんな設備を考えておりますが、何分にも茨木市の動きと本学の動きとが一致しませんと、簡単に本学だけでどうこうするということは困難です。ただそういうことができれば、一層大きな経大の発展になり得るんじゃないか。そういうことをいま考えているわけです。

山本 先ほど来のお話を伺いまして、4万8千人という卒業生の重みと申しますか、事実上場企業における役員数が、全国の有名大学の中で、真中を占めておることから考えましても、大変な歩みを持つておると思います。

その本学の将来につきまして岸大阪府知事も4回ほど会う機会があったわけですが、れども、東京に立ち後れておるとい問題意識は、府自身も持つています。それに対応し得るような大学づくりということ、我々自身が、大阪市の中にある、少なくとも拠点を持つておる。そういう大学として、今後どういふふうな個性のある、ただ大きければよいというものではないわけですので、こういう伝統に依拠して、どう対処していくか、という学部・学科が可能か、最も適切であるか、ということとを全学的な「企画検討委員会」に、

これで5回目、定員が150人のところが、今年も70人の応募がありましたけれども、そういう点は大阪府の中でも評価されておるわけですので、そういう大阪府との結びつき、外との結びつきというのが、本学の場合いままでも十分であったんではないか。だから今後その方向の努力をやっていききたいと思っております。

いま一つの問題は、社会人教育、生涯教育です。ただこれは同時にカリキュラムもどんどん考えていかなくちやならん。そのための教員も確保していかなくちやならんということで、ある意味で大学院では、すでに実行されつつあります。

それと同時に先ほど申した特技推薦という問題です。私学の個性というものを発揮させること。それをどういふように具体化していくか、人材を確保するか、という問題をすぐ委員会でも検討していく必要がある。

国際化の問題にしてもそうです。この夏休みまいったのは、企業が海外進出してまいりますので、英文の卒業証明書が必要だといふので、それへのサインの電話が学校からすぐにかかってくる。また先生方が毎年イギリス、アメリカ、中国あるいは西ドイツなどに留学されておりますし、短期留学ではいろいろの先生方が始終行っておられるわけです。

逆に、中国北京の社会科学学院、上海の復旦大学、アメリカのニューヨーク市立大学、あるいはオーストラリアのラ・トロップ大学とか、近くはこの15日に、西ドイツから国際的な経営経済学者シュナイダー教授が本学にお

理事長ともども諮問しましたので、今後理事会、教学執行部と討議しながら、具体化を進めていくということになります。

ほかたとえば企業との懇談会などにまいりました場合、本学のよさというのには、はっきりとおっしゃっていただいています。これはいままでの伝統が育んだもので、派手ではないけれども、非常に誠実でまじめだ。これは結果として就職活動におきまして、いつも100%という形でそれを享受しているわけです。しかし、そういう伝統を享受しているだけでは、1年、1年後れていくというのが現状です。まず私としましては、現在すでに半分宣言しているわけですが、女子学生の増加策を早急に入試部等と相談し解決をはかっていく。またそのための設備も建てていただくということです。

同時に地域社会への開かれた大学ということとです。これは東淀川区の区長さんや、近辺の高等学校の校長会からも言われているわけですので、たとえば東淀川区では、4年制の大学は本学だけなんです。そこで講師の依頼とか、こちら側がいろいろな企画を立てて、地域社会の方々にどんどんと大学の中において願うということとです。そういう具体的な計画もすでに進んでおりまして、東淀川区の婦人学級の方々が大学を見学されるとか、あるいは図書館の開放というようにことで地域社会において、大阪経済大学が愛され、町会長さんも大阪経済大学のために一肌脱ぐという、そういう結びつきが必要だと思っております。幸い大阪府立文化情報センターと共催の公開講座は

いになり、講演会や先生方との間のディスカッションをやったりしている。ただ、そういう活動を今後、留学生もふくめ学内に国際センターなら国際センターというものはつきり確立して、きちっとパイプをつけ姉妹校というような形にまで提携を進めていくというようなことを考えておるわけでございます。とにかくこういふようなものが全部総合されてはじめて、現在の情報化あるいは国際化に対応する人材というものが形成されるんだ。また本学の伝統を継承し、さらに発展させていくということができるんだというように考えておる次第でございます。これをできる所からやっていくということで、ちよと新しい学部長、部館長、評議員会、理事会というのが先日確立いたしましたので、それに向けてダッシュしていく体制ができたというように考えております。

司会 理事長、学長から抱負を述べていただきましたが、同窓会側からの注文と、併せて同窓会としてはこういうことを母校のためにしてみたいということ、会長、副会長からお願いたします。

磯野 大変いいお話を、両先生に聞かせていただき感謝しております。

私は鈴木理事長と山本学長、これは名コンビができたな。これから難しい私学の対応が要請される時期に、これは期せずしてそういうことになったんだらう。これはなかなかつかろうと思ってもできない人事ではなからうか、大変ありがたいことだなと思っております。



(同窓会側) 会長・磯野 斉

なぜかと申しますと、50周年記念事業を果敢に難しい中でやってこられた鈴木先生は、本学において中興の士的なことをよくやっていただいたなど感謝をしておるわけです。そこにもつてきて、今度初めて私学出身の学長が誕生した。この際大いに私学的な感覚を発揮していただけるということで、同窓会では大きな期待を持っております。

そういう意味で、これはぜひとも大学のためにやらなければいかんのだということは、お二人で手を組んで、力強く実行していただきたい。それには同窓会も全面的に協力を惜しみません。大学と同窓会というのは、もともと表裏一体の関係であって、互いに手を強く握り合ってこそ、立派な大学をつくっていくけると思うのでございます。

そういう意味で、このお二人の立派な人事ができて上がりましたので、これが2年や3年



(同窓会側) 副会長・谷口 一郎

そしてこれを節目に、ぜひお願いしたいということをたくさんお話しいただきましたので、副会長の立場の私も、九分九厘、会長のお言葉どおりでございます。

今後磯野会長を中心に、母校の発展のために、気持ちの上でも、物心両面からでも、一枚岩になって、頑張っていきたい。そして何か百年に向かってやっていけたらいいなという気持ちを持っております。

司会 時間も過ぎましたので、これで座談会を終わりたいと思います。ふつつかな司会でしたが、長時間のご協力ありがとうございました。

で崩れるようでは、立派な大学にはなれない、そういう気持ちを持っております。したがって、ここで話するのは的はずれかも知れませんが、理事会における地位、そういうことも考えていただきたい。大学の学長、理事長が、2年や3年で任期がきて交代するといふようなことでは、この難局は乗り切れない、そういう気持ちを持っております。

また、記念彫刻を制作いただいた、流先生が日経新聞の「私の履歴書」に、自分の生い立ちから、今日に至る経歴を30回連載で書いておられました。最後の8月31日号に、大阪経済大学の名前が出てまいりました。そこに鈴木亨先生が出ていました。その中で、「大阪の適塾というのは私学だ。大阪経済大学はその流れを汲んでおる。関西の学生諸君、寝転んでいないで立ち上がれ」というようなことを書いておられたの思い出すわけですが、ぜひとも大阪で生まれた適塾の精神を、わざわざ流先生が書いて外部からもそういう協力的な発言をして頂いておりますので、本学を何とか関西における有数の私学に推進されるよう、我々も努力いたしますし、大いに腹を据えて、両先生にこの際頑張ってくださいたいとくれぐれもお願いいたします。

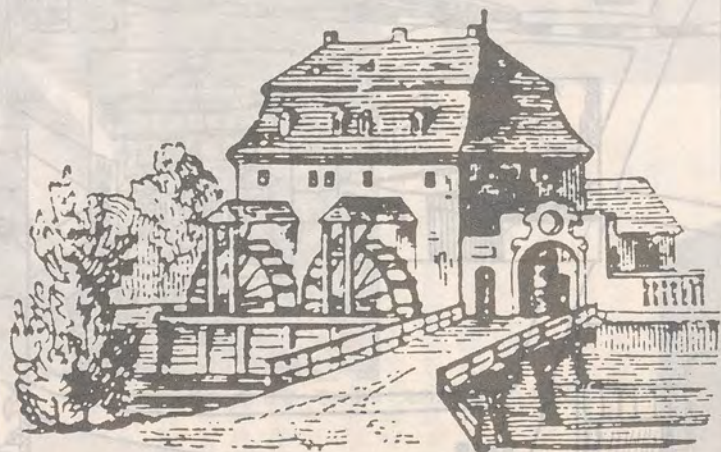
また先ほど学長からお話ございましたが、国際情報化に関しまして、最近各私学では情報学部とか、いろんなこれに似た名称の学部がどんどん増えてきておるようございます。我々の過去を振り返ってみますと、我々が学校におりますときには、外国語を2カ国語はわからんことにはだめだというようなことを、



(同窓会側) 広報部長・司会・波根 伸俊

追記

この座談会に出席の池田善雄氏(36回)は、昭和62年11月10日急逝されました。これが公的な最後の記録であることを申し添えます。



やかましく言うておりました。そういう伝統をうちの学校は持つておると思っていますので、うちの大学を出れば、少なくとも英語ぐらいはしゃべって、書くというようなものをつくってもらわんことにはいかんのかな。大学というのは学者を育てるばかりじゃございませんので、ブラクテイカルな人間をもつとつくつていただきたい。それにはコレポンをすぐやれるとか、あるいは税理士になれるとか、会計士になれるとか、そういうような人材を、いわゆるコーポレートアイデンティティという言葉はそういう所にあるんじゃないかと思っております。そういうことで、ぜひともこの際学長にお願いしたい。また理事長にもこの点をお願いしたいと思います。

またうちの大学は、女子の経済専門学校時代がございまして、その卒業生の中には、現在神戸大学、大阪市立大学の教授になっておる人もおりますし、会計士として大蔵省の審議委員になっておる人もおります。税理士会の婦人会長も、初代、3代目をうちの卒業生がやっております。こういうような極めて立派な人材を世に送っておる、誇りある大学だと思いますので、そういうアイデンティティのあるものを生かしていただきたいと思っております。

いろいろと感謝することはたくさんありますけれども、目の前に危機が迫つておるといふことを、どこの支部に行つても言われるものですから、私もそういうことを踏まえて、この場でお願したいという次第です。

谷口 会長が、感謝とお願という言葉で、私ども同窓会が日ごろから思つておること、

母校周辺ウォッチング

■平太の渡し跡



■平太の渡し(閉鎖前) S.45・i 写真提供…大原宣孝(図書館)



をみると、もとは身分の高貴な女性なのだろう。この歌が縁になり、西行と遊女・妙の前は長雨の一夜を歌のやりとりで過ごした。

その君塚、西行塚のあるのが江口の君堂。正式には宝林山普賢院寂光寺。西行贈答歌碑もあり、しっかりと落ち着いた雰囲気は都心の喧騒を忘れさせてくれる。

その他、この周辺には由緒のある名刹が多く、江口コースとして大阪市の歴史散歩道にも指定されている。その江口コースをレンガ石畳いに歩くと、大陣神社を経て、逆巻の地藏尊。

ここは淀川河口の難所で難破した犠牲者の冥福を祈って建てられたもの。

今でこそ治水が行き届いているが、昔の淀川のすさまじさの一端に触れる思いだ。地藏尊の横手には、涼しげに流れる人口の川や遊歩道が作られ、散策の疲れを和ませてくれる。

わが大経大を通り過ぎ、上新庄へ向かうと、雪鯨橋で有名な瑞光寺。橋の欄干が巨大な鯨の骨でできている。次に細長い阪急・上新庄駅を越すと、迷路のように細い道が折れ連なっている。時代の波で母校周辺の風景も変化していくけれども、この一角だけは昔ながらの大阪下町風景が残っている。

そんな懐かしいたすまいの中にあるのが、春日神社と保存樹くすのき。巨大なくすのきの古木が空を覆うように

そびえ、悠久の時の歩みを実感させてくれる。

大経大周辺には、まだまだ古い歴史を秘めた見所が多く、足利六代將軍義教の首塚がある崇徳寺、石山合戦由来の瑞光寺、菅公ゆかりの菅原天満宮なども見逃せない。そこで最後に、オリエンテーリング気分を楽しめる「東淀川七社めぐり」を紹介。

大陣神社、中島惣社、柴島神社、菅原天満宮、大宮神社、松山神社、春日神社の七社を参り、各社のスタンプを集めると七難消除・七福即生のご利益があるというもの。

母校に寄られた折りは、懐かしい母校周辺ウォッチングも是非どうぞ。

■瑞光寺の雪鯨橋 S.62夏 写真提供：滝内大三教授



■逆巻の地藏尊



■西行塚と君塚

母校・大経大のある「江口の里」周辺は、かつて淀川の河口だったことから、淀川を上り下りする船の発着場、交易所、すなわち商都・難波の玄関口として大いに栄えたところ。

平安時代にはそんな商人、また四天王寺や住吉神社へ参る京の貴族たちが歌や船遊びの宴を張ったので、遊興の地として大いに賑わい、江口の君と呼ばれる遊女たちが多数集まった。

「江口は、けだし天下第一の楽地なり」と「遊女記」や「栄華物語」に書かれているように、当時の江口の里は、和歌や今様が盛んに歌われ、まさに最新流行情報の発信地でもあった。

こんな歴史を振り返ってみると、な

まめかしさはともかくとして、経済文化の中心地だったところ、わが大経大が位置するのにもむべなるかなという感じ。

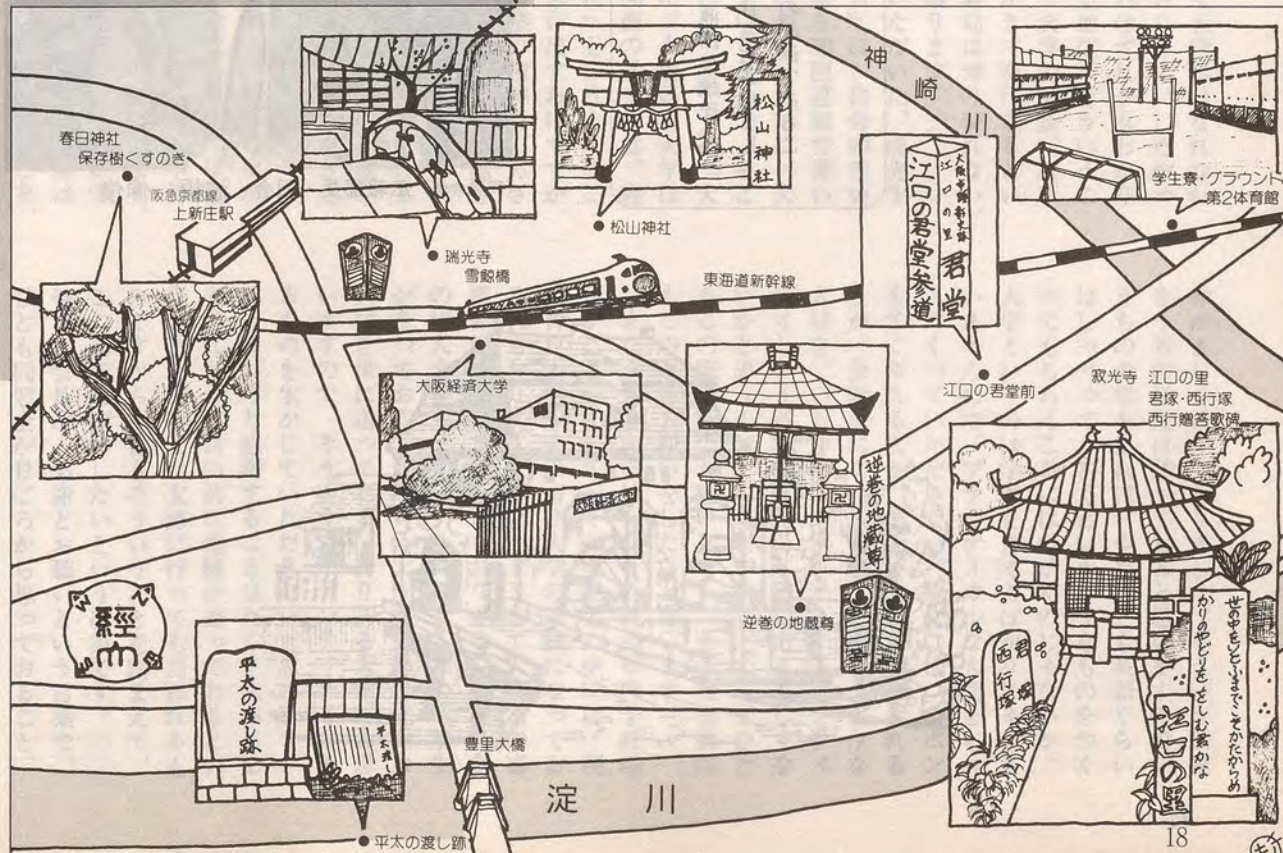
当時のエピソードでとりわけ名高いのは、西行法師と江口の君の言い伝え。西行法師が天王寺へ参拝する途中、江口の里で雨にあい、ある遊女に雨やどりを頼むが、すげなく断られてしまふ。途方にくれた西行が、

「世の中をいとふまでこそかたからめ飯のやどりをとおしむ君かな」と詠むと、さっそく返歌があった。

「世をいとふ人としきけば飯のやどに心とむなとおもふばかりぞ」

西行の歌に、すぐ返歌できるどころ

■松山神社 S.62初秋 写真提供：伊藤都(教務部)



創生期のアカデミックな
伝統を脈々と継承

同窓会会長 磯野 斉



国際理解、国際協力、国際親善、国際平等々々国際を冠する言葉が、今日ほど頻繁に、私達の生活にもちこまれたことは、嘗て無かつたことです。

このような時代感覚を踏まえて、各大学では、互いに先端性を競うかのように、国際関係学と言われる学部の新設によって、国際性豊かな人材の育成を目指しているようでありま。

しかもこれが、現代学生の共感を呼び、人間的になつていると伝えられています。国際的知識を培い国際感覚を養うことが、大学教育のなかで大切であることは、今に始つたことではありません。

それにも拘らず、最近になつて、大学で特に新しい学問として位置づけられたのは、わが国が経済大国となり、いやおうなしに、国際問題解決の重要な役割を果たすことになつたことが、その背景をなすのでしようか。

ふり返つて考えますと、半世紀も以前に、わが学園では、黒正先生を先頭に、新進気鋭の先生がたが、ずらりと顔を揃えておられたが、教養の中心的課題として、英語をはじめ外国語修得に力を注がれたことを思い出します。

経済学の講義を通して世界に目を開くことを教えられました。いま流行の言葉を使えば、国際経済学ということになりましよう。

当時のわが国は、政治、経済、科学、教育等すべての領域で、まだまだ多くのことを欧州諸国に学ばねばならぬ状態でありました。従つて、国際知識、感覚を積極的に吸収することの大切さは、海外資産国になつた今以上のものがあつたらうと思ひます。

50周年記念事業の一環として本学が展開した一連の社会活動のなかで、一般市民を対象にした記念講演会につづく公開講座は、当局の予想を遙かに越える反響を

呼び経済大学ならではの実現出来ぬ内容だと高い評価を受けましたが、このことは、大学創生期のアカデミックな伝統が脈々として継承されている証左であらうと思ひます。

また記念事業の仕上げのなモノユメントとして「雲に向かつて雲に立つ」「風に向かつて風に立つ」の両彫刻は、流先生の心魂を傾けた作品と言われるだけに、これから先、難題を抱える私学の未来に、雄々しく立ち向かう気概を感じます。

日経新聞「私の履歴書」に流さんは、大阪経済大学鈴木亨先生との出会いを述べ、大阪町人の大学適塾について触れ、郷土の血を絶やすなど、わが大学に伝統を受けつづけと激励される一節があり実に感動的でありました。

国の内外で活躍する同窓生は、本年社会人となつた1,200名の新入会員の参加により4万8,000名を数え、北海道から沖縄まで先輩、同輩、後輩の温かい交流のオアシスとなつている同窓会支部は目下35であります。

より強く、より広い、同窓会の輪を拡げて行きたいものであります。昭和61年度決算および62年度予算を決議する理事会は去る6月27

日全国各地から100名のご参集を得て、会議案すべて滞りなく可決承認されました。本年は役員改選期に当たり同窓会活性化のため本部役員若返りを期待する声が高まり大幅な人事異動になりました。

長年お馴染みの比企事務局長(7回卒)の勇退に伴い、陰下事務局長(19回卒)が選任されました。50周年記念事業のすべてを終わりに、募金をはじめ、少なからぬご協力を賜りましたことに対し、会員の皆様には厚く御礼申し上げます。

本学創立者黒正先生の思い出を活字にできたらとの念願から、記念発刊にとり組みましたが、広報部の皆さんは、総会に間に合わせたとい日夜を分かたぬ涙ぐましい努力をされました。時を同じくして、沢山の行事に追われながら『澁江』編集にご尽力頂いた方がたに深く感謝申し上げます。

終わりになりましたが、全国各地でご活躍の同窓生各位のご多幸をお祈りいたします。

昭和62年度理事会盛會裡に終了

— 昭和61年度決算・昭和62年度予算(案)、規約改正、磯野会長再選を満場一致で可決 —

◇ 昭和62年6月27日(土)
◇ 新阪急ビル12階、レストラン・パレス

◇ 議案

- 第一号議案 昭和61年度決算について
- 第二号議案 昭和62年度予算(案)について
- 第三号議案 規約改正
- 第四号議案 役員改選
- 第五号議案 その他

司会 比企事務局長

- ◇ 定刻6時、司会者より開會宣言。
- ◇ 磯野会長挨拶。
- ◇ 司会者より議案審議のための議長選出方法について提案、司会者一任を満場一致で承認。司会者より議長に広田実氏(1)を選出指名。
- ◇ 広田議長就任挨拶のあと、ただちに議案審議に入る。

◇ 第一号議案

中村敬會計部長(3)より昭和61年度収支決算について各項目別に説明された。

山上監事(2)より監事報告が行われた。

◇ 議長より時間の関係上、第一号議案、第二号議案の一括審議が提案され、満場一致でこれを承認。つづいて、第二号議案の審議に入る。

◇ 第二号議案 谷口総務部長(2)より昭和62年度予算(案)につき、予算編成の趣旨を各項目別に説明、提案された。

◇ 第一号、第二号議案について一括審議に入り、議長より第一号、第二号議案に対する賛否提案の結果、満場一致で原案通り承認、可決。

◇ 第三号議案 谷口総務部長(2)より規約改正(案)について、左の3件を提案。

- (1) 会則第7条 本会に名誉会長、相談役、顧問を置くことができる。
 - (2) 会則第17条 名誉会長、相談役、顧問は常任理事会に出席して協議にあずかることができる。
 - (3) 会則第19条 常任理事会は会務を円滑ならしむるために次の部を置く。
 1. 総務部、2. 広報部、3. 会計部、4. 財務部、
 組織部。
- ◇ 第四号議案 役員改選の選考方法について議長より提案されたが、議長一任を満場一致で承認。
- 議長より新常任理事、新監事選出のために左記の選考委員を任命、委嘱。(敬称略)
- 委員長 中村源(4)、委員 土手(6)、萩原(10)、奥村(13)、陰下(16)、奥山(21)、村井(25)、大久保(28)、齋(30)、森(33)、鈴木(36)、松井(41)。
- 別室にて選考委員会を開催、協議の結果、新役員11名を常任理事20名、監事3名を選出決定し、本会議席上で中村源委員長より報告された。(敬称略)
- 常任理事 磯野(3)、比企(7)、前田(13)、小松(14)、陰下(16)、松本

◇ 支部長紹介 比企事務局長より本日ご出席いただいた支部長を紹介。

監事 山上(2)、長尾(8)、中村美(13)。

審議の結果、満場一致でこれを承認、可決。

議長より新役員に新会長選出を委嘱。

別室にて新役員会を開催。互選の結果、磯野現会長の留任を決定。新役員会の審議結果を新常任理事を代表して比企常任理事(7)より報告、満場一致でこれを承認、可決。

議長より磯野新会長就任挨拶の要請があり、磯野新会長より就任挨拶があった。これをうけて、満場の拍手をもって、新執行部に対する期待と激励が表された。

◇ 第五号議案 特別審議事項なし。

◇ 以上で昭和62年度理事会の議案審議終了を議長より宣言され、終了した。

昭和61年度収支決算書

自 昭和61年4月1日 至 昭和62年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	決算額	予算額	科目	決算額	予算額
前期繰越金	4,535,191	4,535,191	総会費	6,220,949	5,000,000
会費収入	42,010,000	40,000,000	役員会費	1,052,310	1,300,000
総会収入	852,500	500,000	支部費	5,580,225	6,500,000
利息収入	723,185	700,000	事務費	766,107	700,000
濶江収入	440,600	500,000	人件費	7,369,440	8,200,000
名簿収入	5,218,830	4,800,000	旅費交通費	2,274,240	3,000,000
雑収入	322,000	0	濶江編集費	11,935,000	13,000,000
特別基金借入れ	0	8,000,000	名簿追跡調査費	1,667,623	2,500,000
特別基金取崩し	6,000,000	0	学対費	2,470,000	3,000,000
			諸会助成費	720,060	800,000
			50周年対策費	6,329,329	2,000,000
			名簿作成費	11,240,980	10,000,000
			名簿編集費	286,760	500,000
			慶弔費	123,500	300,000
			子備費	(6,857,365)	2,235,191
			次期繰越金	2,065,783	0
合計	60,102,306	59,035,191	合計	60,102,306	59,035,191

昭和62年度収支予算表

自 昭和62年4月1日 至 昭和63年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	予算額	摘要	科目	予算額	摘要
前期繰越金	2,065,783		総会費	5,000,000	
会費収入	47,000,000		役員会費	1,500,000	理事会・常任理事会・各部会
総会収入	500,000		支部費	6,500,000	運営費・支部総会援助
利息収入	700,000		事務費	700,000	
濶江収入	500,000		人件費	8,300,000	事務局人件費
名簿収入	1,200,000		旅費交通費	3,000,000	
			濶江編集費	13,000,000	
			名簿追跡調査費	2,000,000	
			学対費	3,500,000	大学祭・クラブ活動援助
			諸会助成費	800,000	
			50周年対策費	5,000,000	
			慶弔費	300,000	
			子備費	2,365,783	
合計	51,965,783		合計	51,965,783	

東海、岐阜、豊中、大阪市、大阪府役所(代理)、尼崎、東播磨(代理)、姫路、岡山、備後、広島、山口、北九州、南九州、福井、香川、愛媛、徳島、丹有、奈良、泉南

全員が拍手でもって日頃の支部長のご尽力に敬意を表した。

◇松原和男就職部長よりご挨拶
新卒業者の就職に対する現状と協力依頼とともに従前通りのご尽力に対する謝意表明をかねたご挨拶があった。

◇中谷和一入試部長よりご挨拶
母校の地方入学試験に際して同窓会の協力に対する謝意と推薦入試に対する説明があり、なおより一層の支援要望のご挨拶があった。

◇司会者の閉会宣言でなごやかな雰囲気の中に昭和62年度理事会を閉会した。

◇別室にて、渡辺名誉会長(3)の乾杯で懇親会に入り、大いに歓談、懇親のあと、お互いの健康を祈念し万歳を三唱し、比企事務局長の挨拶で散会した。

新しい同窓会役員

昭和62年度理事会並びに62年度第2回常任理事会において、左記の通り決定しました。

- 記
- 会長 磯野 齊(3)
 - 副会長 比企 重(7)
 - 事務局長 陰下 嘉典(16)
 - 事務(総務) 前田 悦子(13)
 - 事務(報務) 小松真佐江(14)
 - 事務(組織) 山中 良夫(19)
 - 事務(総務) 西本 集一(23)
 - 総務部長 神田 博(30)
 - 総務副部長 多田 浩二(27)
 - 組織部長 水納 敏也(25)
 - 組織副部長 中村 敏啓(31)
 - 組織部 永田 繁樹(34)
 - 財務部長 平尾 哲男(28)

- 財務副部長 森 政彦(33)
 - 財務部 白井 正幸(26)
 - 広報部長 波根 伸俊(32)
 - 広報副部長 津秋 靖博(29)
 - 広報部 池田 善雄(36)
 - (以上20名常任理事)
 - 監事 山上 善彦(2)
 - 長尾 晃(8)
 - 中村美智子(13)
 - 名誉会長 渡辺 達好(3)
 - 相談役 広田 実(1)
 - 顧問 萩原 市郎(10)
 - 桑津 昇(11)
- なお、広報部池田善雄氏(36)は、去る11月10日憩室炎のため急逝されましたので付記するとともに、心よりご冥福をお祈りします。

62年度全国支部長会開催され、活発な意見交換の後、要望事項取り纏め学校当局と懇談

北は北海道から、南は南九州までの支部長が一堂に会し、全国支部長会を開催、活発な意見交換が行われ、盛會裡に終了。

◇日時、昭和62年10月17日(土)、午後12時30分より。
◇場所、新阪急ビル12階、レス



トラン・パレス。

◇出席者
大学より

鈴木理事長、山本学長、内海教務部長、玉岡事務局長、田所総務部長。

同窓会より

井阪東京支部長、加藤東海支部長、深田京都支部長、石川北摂支部長、筒井豊中支部長、南部大阪市支部長、倉田大阪市役所支部長、神代尼崎支部長代理、桐月神戸支部長、永川姫路支部長、村上岡山支部長、佐々木広島支部長、串田山口支部長、宮田南九州支部長、内田福井支部長、和田香川支部長、河野徳島支部長、梶村丹有支部長、淵上奈良支部長代理、北野泉南支部長代理、田中北海道支部長、〔以下本部〕磯野会長、比企、松本、谷口副会長、前田、西本(総務)、小松、水納、中村(組織)、山中、平尾、白井(財務)、波根、津秋(広報)、陰下(事務局)

◇報告

今回の支部長会は、特に昭和62年度の常任理事会役員改選に伴う新執行部組織の説明並びに各支部長との意見交換に重点をおいて開催され、陰下事務局長が開会のことばを述べ、磯野会長より新執行部組織の説明を兼ねて、台風接近の折にもかかわらず多数の支部長の出席を得たことに感謝の意を表された後、ざつとばらんな意見交換の上、建設的な意見を取り纏め学校当局に要望する事項などについては一括して具申したい旨の挨拶がありました。

その後、事務局より配布の各項目別の協議事項について審議をすすめるため座長の選任を諮ったところ、全員一致で梶村丹有支部長(8)を推挙し審議に入りました。

1. 本部と支部との連携ならびに同窓会の充実発展について。本件については、同窓会組織の中で支部長会の位置づけを明確なものにしてほしい旨、要望があり。今後は、全国支部長会を定例的に開催する件、並びに同窓会々則に全国支部長会を年1回開催する旨、明記するよう要望があり、常任理事会において検討することとしました。

2. 同窓会運営上の諸事情について。

本件については、支部活動が母校のPRにつながると思うので、今後積極的に活動したいと思うが、支部の存在を知らない卒業生が意外に多い(神戸)。支部活動を充実させるためには支部組織を細分化するのみの方法で、広島支部を備後支部と分割したことは結果的には良かったと思っている(広島)。

3. 母校発展のための協力と支援について。本件については、学校当局の将来展望についての具体案があれば支部としては協力を惜しまない(東海)。地方から大学院へ進学を希望する者で、支部長が責任をもって推薦する場合には、或る程度の配慮をもらえれば支部の存在価値を高める要素ともなり、ひいては母校のPRにもなるのではないかと(福井)などの意見が寄せられました。

- (要望事項)
1. 大学の社会的評価の向上をはかってほしい。
 2. 大学の積極的なPR活動、特に高校への働きかけ。
 3. 特色をもった学部・学科の増設、女子学生の応募者増加策の検討。
 4. 高校教職関係者(OBを含めての)との懇談会を再開してほしい。

その後、懇親会は至極和気あいあいのムードで進められ、各支部長のユニークな自己紹介で予定時間を30分以上も超過し、最後に玉岡事務局長の万歳三唱で閉会しました。

母校50周年記念館で62年度同窓会総会盛大に開催

「新しいミニユメント記念館で87同窓会総会を盛りあげよう」との呼びかけのもと、母校50周年記念館の4階大会議室、7階同窓会ホール・黒正展示室で、昭和62年度同窓会総会が盛大に開催されました。



前年度の総会準備委員会でも、50周年記念館での開催が検討されましたが、諸条件が整わず、止むなくレストラン・パレスで開催した経緯もあり、今年当初から記念館での開催をめざして着々と準備が進められました。

西本集一総務部長(2)が総会特別委員長に就任し、学内卒業生はもとより、従来から応援を依頼していた女性会員に加え、新しい卒業年度の女性会員にも協力を要請し、前後2回に亘る準備委員会できめ細かい準備が整えられました。

総会当日の天候は早朝から曇天で、準備委員一同出足を気にしながら受付の準備を整え、待機していたところ、10時30分の受付開始前に、すでに数名の来会者があり、11時のセレモニー開始前には、さすがに広い1階ロビーも参会者でごったがえす状態となり、案内・誘導係の委員がセレモニー会場へ案内するのに一苦労する場面もありました。

総会セレモニーは、定刻11時、森政彦総務副部長(3)の司会で始まり、西本総会特別委員長の開会のことば、グリーククラブの学歌斉唱に続いて、磯野同窓会会長から「昨年に引き続き、会員諸氏と総会で再会できたことを喜ぶと共に、今後更に同窓会の発展充実に協力を望む」旨の挨拶がありました。会長挨拶の終わる頃にはセレモニー会場は超満員となり、会場後部の入口付近には入りきれない参会者が溢れる始末となりました。

そこで、鈴木亨理事長並びに山本晴義学長からお祝辞をいただきました。鈴木理事長からは「50周年記念事業は概ね完了し、本年度からは臨時増を含めた定員増も認められ、更に大学の将来展望については、企画検討委員会において検討中である」旨、山本学長からは「開かれた大学として、公開講座を開講したところ大変な好評を博し、今後は大学院の強化・充実をはかると共に、国際化をめざし、また、地域に密着した大学として発展させるよう努力したい」旨のお話で、両先生のお言葉にも熱のこもった力強さが感じられました。

いよいよ、セレモニーの盛りあがったところで、昭和商初代校長、黒正先生のご令室黒正光様に、同窓会の50周年記念出版物「道理貫天地」を贈呈。その後、各支部長並びに常任理事の20年以上の永年勤続者に対する感謝状の贈呈。比企重前事務局長への功労表彰が行われました。参会者の多さに司会者もいささか興奮気味で、来賓紹介が、感謝状贈呈・功労表彰の後になるという一幕もありましたが、最後に陰下新事務局長から、来賓並びに支部長の紹介があり、セレモニーは25

支部 だより

待望の尼崎・備後両支部が誕生



昭和55年より支部長を務めていただいた、
 鮫島圭氏(18)が高砂熱学工業(株)の名古屋支店長
 (常務取締役)に栄転されましたので、昨年度
 総会において、井阪健一氏(19)が後任に指名
 され、満場一致でこれを承認し、同氏が新支
 部長に就任されました。

新支部長誕生後、初めての支部総会を10月
 27日、午後6時より、副都心の超高層の新宿
 野村ビル48階「野村クラブ」に於いて、本部
 より磯野会長と陰下事務局長が、また、大学
 より渡辺理事のご出席を賜り、同窓会の活躍
 ぶりと大学の近況を伺い、懐かしく、また、
 心強く、同窓の絆を一層深めることが出来ま
 した。

支部会員60名共ども盛大に、且つ、賑々し
 く本年卒業の安西氏の発声で乾杯をやり、懇
 親会にうつりました。

会場より眼下に広がる新宿のきらびやかな
 夜景は国際都市「東京」の面目躍如たるもの
 があり、千変万化の光のパフォーマンスは見
 るものに飽きること知らない素晴らしい眺
 めを満喫させてくれ、次なる経済講演会は、
 野村証券投信委託(株)社長としての、支部長、
 井阪健一氏に「これからの株と円の問題点」
 と題するホットで、且つ、具体的な表現で「株」
 大暴落後の見通しを色々な角度からお話し
 いただき、多くの方々の耳をしばしの間、とり

新宿の夜景を眼下に 東京支部総会盛大に開催

東京支部
 代表幹事 西山 昭吾

ここにしてみました。
 既にお気付きの通り、新支部長は野村証券
 の株式会社専務までお務めになり、この
 業界では定評のある論客として活躍中の株式
 界の「ヌシ」であります。同窓生ならではの聞
 けない、他所では語れない興味深々のお話を
 どうも有難うございました。

なお、今後の支部総会は、井阪氏の口利き
 で種々便宜をはかっていただけ、新宿野村
 ビル48階の「野村クラブ」で、素晴らしい夜
 景と料理を賞でながら行いますので、来年10
 月下旬をお楽しみに沢山の方々のご参加をお
 待ちいたしております。

最後になりましたが、昨年度総会の後、本
 部より出席の松本義和氏(18)と共に銀座で盛大
 に二次会をやったことなどを思い出しつつ、
 永らく支部長を務めていただいた鮫島圭氏に
 心よりお礼を申し上げます。

また、同窓会総会のご案内が届かなかった
 方は
 03-5511-9277 西山までご一報
 下さい。

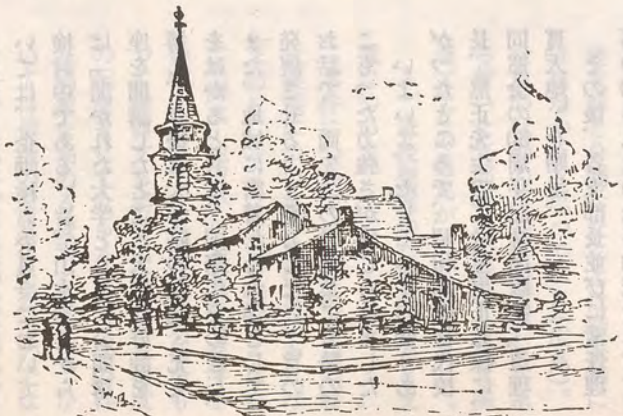


無事終了しました。
 続いての懇親パーティーは7階
 会場に移り、津秋広報副部長(20)の
 開会のことばの後、鈴木理事長・
 山本学長・渡辺名誉会長・磯野会
 長による鏡開き、広田相談役の乾
 杯で会場の雰囲気は一転、ビール
 を酌み交し、水割りをかたむけ、
 予想外に多い参加者で会場は熱気
 に溢れかえりました。

会場の一隅に設けられた屋台に
 人がむらがり、「経大生協」心づく
 しの料理も好評で「来年も学校で
 総会をやろう」という声があちこ
 ちで聞かれました。

宴たけなわの中、逍遙歌の作曲
 者松川圭一氏(15)の歌唱指導もあり
 パーティーはいやがうえにも盛り
 上がり、予定時間はまたたく間に
 過ぎてしまいました。

佐々木一義広島支部長(9)の音頭
 で万歳三唱し、一応閉会しました
 が、しばらくは、名残を惜しんで
 三々五々あちこちで談笑する姿も
 見かけられ、また、4階視聴覚教
 室では、大学PR映画「大淀の水
 は春ゆく」40分を上映、希望者の
 みでしたが20余名が視聴しました。
 なお、1階ロビーに設けられた学
 生茶室の茶席も満席の盛況で、
 午後3時過ぎ、62年度総会は無事



終了しました。
 最後になりましたが、総会開催
 にあたり会場設営その他の準備で
 お世話になりました関係各位に心
 からお礼を申し上げます。



「複合選抜制度」に思う

東海支部
支部長 加藤 正秋

ふつう国際関係や国内政治のトピックニュースで飾られる日刊新聞紙の第一面に、愛知県下の公立高校入試改革案が突然登場して、県民をびっくりさせた。「複合選抜制度」と名付けられ、好きな公立校を4度も受験できるという全国初の試みである。県教委は昭和64年春の実施をめざし、12月に正式決定すると思気込んでいる。

当然賛否両論が社会面まで割いて、デカデカと報道されていた。なかでも目をひいたのは名古屋大学文学部長のU教授で、彼はわが国の教育界にはいまなお「官尊民卑」の思想が支配していると前置きして、これでは私学の首を締めるだけだと結論づけていた。国立の教授が私学へこのように暖かい目を向けてくれることは、まことにありがたい話で、同教授は間もなくやってくる生徒減で頭が痛い私学に、今度はらしい生徒をこっそり公立へ引きぬこうという言語道断の考え方だとおっしゃる。

私学の理事長はもちろん時代逆行の暴挙であると反論しているが、このなかで高校では大学のように、学校自体の特殊性を持たせて生き残ることは不可能だ、と注目される発言を行っていた。

私はとたんに母校、大阪経大を思い出し、りつ然とした。「官尊民卑」「大学のような独

自性」など他人事とは思えぬ話ばかりである。エリを正してことの成り行きを見守りたいと思う。

さて東海支部は定期的に幹事会を開いて支部行事を決めるが、このほどお隣りの坪内岐阜支部長をお招きして今年度の合同支部総会の打ち合せを行った。詳細は来年の瀬江でお知らせすることになるが、このほか役員人事として副支部長制を敷く、支部長の任期を2年とするなどを決め、初代副支部長に久保康夫さん(23)を選出した。副支部長は当然支部長代行を兼ね、支部長同様、幹事会で選出し、支部総会で承認を得ることを申し合わせた。



一泊二日の総会、同好サークルで親睦を深める

豊中支部
支部長 筒井 英夫

昨年からの行事報告をします。昭和61年10月19日、同好サークル活動の第一弾として、浄瑠璃寺から岩船寺へのハイキングを実施、ヤブの三尊仏・わらい仏等石仏を訪ねました。委員・丸本桂三氏(30)の企画で、特ダネは上野満里子さん(14)の仏さんより100円山菜の買い出し、刀弥啓一氏(19)が空になったリュックでそ

の荷持ち、丸本・刀弥・上野・前田・筒井の僅か5人の参加でしたが、何とも面白く楽しいハイキングでした。目印には、豊中市のマークと経大マークを組合わせた紙製の支部旗(丸本氏作成)が役割りを果たしました。11月23・24日は「連れもって行こう」淡路島旅行。阪急曾根駅前から、実年・中年・若

年組とマイカー3台に分乗して出発、甲子園フェリーで州本・四州園(OB経営)へ、応援団数え唄からカラオケへ、底抜けに愉快な一夜を過ごし、翌朝若年組は「淡路カントリー」へゴルフに、他の2台は観潮ドライブと観光サークル活動、船に乗ったものの折角の鳴門渦は見られなかったが、帰途のフェリーで若年組と合流、大いに親睦を深めることができました。参加者はゴルフ・西村敏一(31)藤敬一郎(31)金子実(44)関谷宏之(42)、観光・丸本桂三(30)塩見道弘(31)三原健太郎(29)足立健人(27)山本雄三(28)笠井二郎(26)黒田稔(15)上野満里子(14)前田悦子(13)筒井英夫(11)でした。

62年5月16・17日には第2回通常支部総会を有馬温泉「有泉閣」で開催。従来のタイプを変え親睦を主にした総会を実施しました。

磯野会長をはじめ玉岡事務局長、石井就職副部長、特別会員松川圭一氏らを迎えて総勢24人が出席。マイカー、バスで現地集合、中には何と豊中有馬間50キロを徒歩で往復した猛者の笠井氏もおられました。4時半開会、総会では斎貞文氏(30)の司会で、議事をスムーズに審議可決。あと温泉で汗を流して6時から広間で親睦パーティー、程々にアルコールも入って談笑の輪があちこちに、締めくくりは恒例の松川氏指導による正調道遙歌で和やかに幕。8時半からは部屋をかえて各サークルごとに、片一方は読書サークル。推薦書ロバート・M・マーチ著『ニッポンの誤解』の感想発表。委員上野・塩見氏の名コンビで話はずみ、はては経大の誤解現象に話題が集中、新旧の別なく愛校精神あふれる熱弁がとび交



い、会員一人ひとりが各職場で頑張ろう、それが母校の評価向上につながるのだと、時の経つのも忘れて懇談、見かねた支部長が閉会宣言をされた時は12時を回っていました。別室では麻雀サークル、途中から読書メンバーも合流して朝方2時まで。藤敬一郎氏(31)が喜び、結城義朗氏(30)が泣いた結果となりました。翌朝はあいにくの雨で、ゴルフ組は「六甲国際ゴルフ場」のハーフで解散、他は有馬ヘルスセンターで雨宿り。1泊2日の総会を有効に過しました。

お知らせ……前記総会で提案可決された「支部会費」の徴集について。支部会員の意識向上のため、構成員自らの浄財・会費で支部を運営しようというものです。年額2,000円です。皆さん方のご協力により豊中支部を育てていきましょう。62年度分会費は63年2月末日までに左記へ振込んで下さい。

豊中支部 代表 筒井英夫
なお、次回読書会は「愛について」の本を何れご紹介いたします。
支部会員の皆さん、どしどしこれらの同好サークルに参加してみませんか。

大阪市支部ブロック会の先陣をきって東北ブロック会開催

大阪市支部
幹事 陰下 嘉典

昭和61年5月、常任理事会組織部が中心となり、母校の地元大阪市在住者を対象に、大

阪市支部が結成されました。しかし、会員数4,000名を越す状態では全域を対象にし

では到底きめ細かい対応は不可能ということ
で幹事会の決定通り、大阪市を6ブロックに
分割し、旭・都島・鶴見・生野・城東・東成
の6区を東北ブロックとし、越川昇氏(55)が、
大阪市支部の東北ブロック担当副会長として
代表幹事に就任され、幹事全員が35回率以降
の若手ということもあって企画は大変ユニ
クなもので、木戸淳一氏(55)の世話で「会費は
最低にして愉快に」をモットーに、10月18日
(日)午後2時から梅田の「ラウンジ・ドルまん」
を借り切ってブロック総会が開催されました。
当日は、開会前に出席予定者全員が顔をそ

37年余の歴史・ 三百数十名の会員

当支部は、昭和25年1月、初代支部長・広
田実氏(1)をはじめ、十数名の諸先輩が設立さ
れ、爾来、37年余の歴史を持ち、会員も年々
増え、現在、特別会員26名(市役所O・B・
市会議員等)、一般会員220名の大職域支部
となりました。

この歴史と、伝統を育てあげられた、先輩
諸氏に深く敬意を表します。
現在は、第6代支部長・倉田秀太郎氏(2)の
もと、幹事12名で支部の運営を行っておりま
すが、何分にも、大企業なみの大阪市役所の
ため、局・事業所・出張所・区役所等に分割
されており、毎年の人事異動による会員の所
属職場を把握するだけでも、大変な手間のか
かるのが悩みのたねであります。

ろえ、南部俊一支部長(9)・丸石正氏(7)の両先
輩を中心に参加者は少数ながら、同じ地域に
住む者同士の親しさで和気あいあいの雰囲気
の中、同窓会の現状・今後のあり方が議論さ
れているかと思えば、一方で、K氏のジョギ
ング仲間がM氏の仕事の下請先のご主人だと
か、H氏のすぐ横の空地が売りに出ているが
少々高過ぎるとか、地域住民の会員同士らし
い話題に花が咲き、用意されたカラオケを使
う間もないうちに予定時間が過ぎ去り、あま
りのあつけなさに「新年宴会でもやりましよ
う」ということで、午後5時前散会しました。

大阪市役所支部 支部長 倉田 秀太郎

本年は、去る、2月9日、磯野斉会長、渡
邊達好理事をお招きし、北区の「とり菊」で
恒例の支部総会を開催しました。

歴代支部長等40名の出席があり、思い出話
や近況を語り合い、楽しい一夜を過ごしてい
ただきました。

また、その席上で当支部特別会員松本義和
理事から、50周年記念事業募金の要請があり、
全会員に募金要項、納付書の送付を決定し、
その後幹事が実行に移し、わずかながらも記
念館建設に寄与したものと自負しております。
この伝統ある大阪市役所支部を、倉田支部
長以下、同じ職場に働く同窓生として職域に
活用すると共に支部の発展を期していきたい
と考えております。

(文責 角谷 泰秀(29))

念願の尼崎支部誕生

889名、この数字は、尼崎市内在住並び
に在勤者の会員名簿記載の会員数です。
去る、4月5日(日)、尼崎商工会議所3階
大ホールは、大阪経済大学同窓会尼崎支部発
足総会に集まった仲間達で熱気にあふれてい
ました。

大学からは、山本義晴学長に、同窓会本部
からは、磯野会長、比企事務局長のご臨席を
得、若い卒業生の姿も多く、年齢差を感じさ
せない、大変盛りあがった意義ある楽しいひ
とときでありました。

尼崎支部の結成は、早くから卒業生の間で
要望されていた念願の一つでありました。
5年前には、尼崎市役所内部で、100名
近い卒業生による「大樟会」が活動し、積極
的な交流を通じて、市政の推進に大きく寄与
しております。

その外、ライオンズ・クラブや、サークル
活動を通じての、諸会結成の動きもあります
が、未だ実現には至っておりません。

昨年11月の、山本晴義先生の学長ご就任は、
同じ尼崎市内在住する卒業生にとっては、
大きな喜びであり、尼崎支部結成の、大きな
きっかけの一つでもありました。

市内在住者の一部の方々に、準備世話人会
の結成を呼びかけましたところ、33名の会員
諸氏のご参加を得、磯野同窓会会長のおひざ



尼崎支部 支部長 小谷 芳男

元ということ、色々ご指導をいただき、
一気に結成へと進みましたことも幸いいたし
ました。

懇親パーティー会場は、終始、懐かしいク
ラブ活動の思い出、教授や仲間達の話題等々
で、談笑の花が咲き、時間のたつのも忘れる
有様で、司会者のリードでやっと閉会の運び
となる程の、和気あいあいの雰囲気でした。

最後に、大経大卒業生の誇りを抱き、立派
に社会に貢献することを誓い合いました。
今後は、年1回開催する総会を中心に、趣
味を通じての、ゴルフ・コンペや、新年宴会
忘年会等を通じて、一層の親睦をはかるよう
にしたいと考えております。



全国の卒業生のみなさん、又、先輩の各支部のみなさん、新しく誕生しました尼崎支部を、今後ともよろしく願っています。
なお、当支部の役員は左記の通りです。

- 相談役 磯野 斉(3)
" 小幡 孝三(4)
顧問 高岡 一郎(25) (市議会議員)
支部長 小谷 芳男(24)
副支部長 神代 憲治(27)
" 平沼 勇吉(33) (事務局担当)
幹事 福永 滋(25) 岡村 寿一(26)

- 沢井 隆雄(29) 奥田 征彦(34)
蛭牟田和比古(36) 江村 正道(37)
佐分 重男(37) 鶴田 茂(40)
南 省悟(42) 西山 覚(50)
会計 高木 徳溶(28)
監査 芝 綱雄(15)
荒木 雅之(45)

山本新学長を来賓として 盛会裡に開催

昭和61年度西宮支部総会は、年度末も近い3月14日(土)午後6時から西宮市民会館(市役所南側)を会場として開催いたしました。
今回は、昨年11月、新たに就任されたばかりの山本晴義学長を来賓としてお迎えし開催の運びとなりました。

山本新学長は、かつて野球で有名な西宮市内の報徳学園で教鞭をとっておられた経緯もあり、西宮とはゆかりが深く、西宮支部総会には何をしても出席し、同窓生に親しくあいさつしたいとの御意向を伺っていましたので、支部総会の開催日程について特に配慮させていただきます。
総会は、八木支部長の開会あいさつに始まり、続いて磯野同窓会長より同窓会の近況報告等ごあいさつをいただきました。来賓としてご出席賜りました山本学長からは大学の近況、将来展望についてご懇篤なるごあいさつ、ご報告をいただきました。

西宮支部 副支部長 黒才 洋

わが母校、大阪経済大学も昨春、地上7階の偉容を誇る50周年記念館が竣工し、その設備も誠に多様で、大学に一層の箔をそえることになったのは誠に慶賀にたえません。西宮支部もこの募金活動にいささかの貢献ができたことを嬉しく思います。
支部総会にひきつづき「八木米次を励ます会」を開催いたしました。八木支部長の西宮市長3選に向けて、熱烈な支援・激励があり、いやが上にも盛り上がったことを併せてご報告申しあげます。

新支部長に桐月正邦氏(22)就任 東急イン神戸で華やかに開催

神戸支部 世話人 庄田 公哉

神戸支部は昭和40年4月(昭和23年結成)に改組し、新たに発足して以来、これまで、三好悌彦(6)、長島隆(9)、田中義一(10)、町田達治(12)、そして、田淵栄次(21)氏と、5代の支部長に引き継がれてきました。この間、歴代支部長のご指導、ご尽力のもと、会員一同ますます結束を固め一層の発展を目指してまいりました。

昭和62年度定例総会

昭和62年度定例総会は9月4日(金)午後6時から、JR三宮駅前の交通至便なホテル・東急イン神戸3F「摩耶」の間において開催されました。
当日の出席人員は、関係者の心配をよそに例年の数を上回る64名となり、会場は同窓生であふれんばかりの大盛況となりました。

同窓会本部からは大変お忙しい中、磯野齊会長、比企重副会長並びに陰下嘉典事務局長、大学側より山本晴義学長をはじめ、石井敏雄就職副部長、仲川雅俊野球部監督のご臨席を賜りました。また、西宮支部長の八木米次氏(西宮市長)から祝電をいただくと共に、支部長代理として岡野健治氏(1)、丹有支部からは梶村文弥支部長(8)が特別来賓としてご出席下さいました。

まず、総会は田淵支部長挨拶、ご来賓各位をご紹介のあと、本日の議事、支部長交代の

件に入りました。

田淵栄次氏(神戸市総務局長)はこれまで3年に渡って支部の運営にご尽力いただきましたが、支部活性化のためには、活力ある民間の方のご指導、お力添えが不可欠であるという観点から、先の支部役員会において諮った結果、桐月正邦氏(22)を次期支部長として総会で推挙することとなり、本総会において満場一致で可決、承認される運びになりました。
新支部長、桐月正邦氏は(関西建設機械)他関連会社の取締役社長として、また、全国建設機械リース業界の理事等の役員を努められるなど多方面にわたって活躍されている人格、見識共に優れたお方でございます。

新支部長就任のご挨拶のあと、懇談に移りました。そして、学校の近況を紹介したビデオ「大淀の水は春ゆく」を放映しました。映し出された眩いばかりの近代的な50周年記念館と、各々の学生時代のあれこれを比較、思い出しながら益をかたむけ、旧交を温め、時の過ぎるのも忘れる程でした。特に、今回は14回卒の小松真佐江、大塚園子両女史の参加で一層華やいだ雰囲気となり、会場のコンパニオンたちも色あせてしまったほどです。また、特別ゲストである仲川野球部監督からも近況報告をいただくなど、今回の総会は、こ

なお当日、「励ます会」顧問としてご出席賜りました田中・内海・中川・鯉田・滝野の諸氏には厚くお礼申しあげます。



れまでとは一味違った多彩なメニューとなりました。終わりに、出席者全員で学歌を学生気分にかえり合唱し、名残を惜しみつつ総会の幕を閉じました。

今後とも新支部長のもと、会員相互がよく連携し、母校の発展に微力ながら尽力する所存でありますので、各支部の皆様方におかれまして、今後とも神戸支部にご指導、ご教示を賜りますと共に、これまで支部総会に参加されておられない会員の皆様も来年度は、是非お気軽にご出席下さいませよう、この誌上を借りまして心からお願ひ申しあげます。



結成40周年に向けて建設的な意見を

姫路支部
支部長 永川 仁一

昭和62年度の総会並びに懇親会を、左記の通り開催致しました。

- 一、日 時 10月2日(金)午後6時より 2時間
- 一、場 所 北京閣
- 一、出席者 46名
- 一、来 賓 (大学)浜本教授、黒正就職部主任、(同窓会本部)磯野会長、陰下事務局長

(懇談事項)

- (1)母校に対する緊急問題依頼の件
 - (2)創立50周年募金に関する支部の実績報告
 - (3)母校並びに同窓会の近況について
- 現在、姫路支部には約700名の同窓生が居り、そのうち神崎郡と揖保郡に居住しているものが、それぞれ約75名、合計150名に達しておりますが、毎年これらの人達の出席促進に最大の苦慮をしております。これについて各位のお知恵拝借というところで。

明63年は姫路支部結成満40年になります。何かイベント的なものとか、記念的なものとか、皆様の隔意なき具体的建設的な意見を積極的にどしどし支部宛お寄せ下さいますようお願い致します。

参考までに、支部結成日は昭和23年1月18日でした。



カラオケの競演に沸く 岡山支部総会

同窓会会員のみなさんには、益々ご健勝にてご活躍のことと、心からお喜び申しあげます。

オが、6m×4mの大スクリーンに映写されると、初めてみる若い会員も多く、思いがけぬ盛り上がりとなり、頃合よしというところで、市会議員に当選された山田録二郎氏(11)から、当選お礼の挨拶がありました。

その後、日本一を誇るカラオケコンボで、競演がはじまりましたが、特に永野教授、谷口部長、また、若い会員諸氏の歌唱力は大変なもので時間不足となり、延長戦となりました。

「来年は1000人集まろう」をモットーに予定の定刻9時を過ぎ、学歌斉唱、万歳三唱で盛会裡に閉会しました。

最後に、役員一同、会員各位の今後より一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。



岡山支部
支部長 村上 一夫

本年の課題は、先ず、母校の創立50周年記念事業の最終年度にあたることでした。

岡山支部としましても、3年前に募金事業

備後支部結成総会、盛大に開催

備後支部
事務局 畠 輝雄

昭和46年5月23日、大阪経済大学同窓会広島支部福山分会という長い名称の認知されないう支部組織発会式が、故橋高正博氏(8)、故馬屋原章氏(9)、和泉良映氏(9)、小池勝章氏(32)、岡田吉人氏(33)の努力により、40数名の出席者を得て開催されました。

……月日の過ぎること16年……

同窓会本部比企事務局長、佐々木広島支部長より、「備後の地には是非とも支部を結成してもらいたい」という要請が小池先輩にあり、小池先輩は直ちにこのことを守屋毅氏(26)に相談され、福山市内に在住の同窓生諸氏が数回合をもち、昭和61年10月26日(日)の結成準備会には、広島支部より佐々木支部長(9)、岡村一清氏(9)がわざわざご来福下さり、備後支部結成準備会の誕生を見るに至りました。

明けて昭和62年3月8日(日)午後1時、福山市内の浦の「景勝館」にて、備後支部結成総会が開催されました。

当日は、大学から松原経済学部長、同窓会本部より磯野会長、比企事務局長、広島支部より佐々木支部長、野坂修吾氏(33)、岡山支部より村上一夫支部長(12)をお迎えし、たまたま硬式野球部が近くの沼隈町「みろくの里」で春季合宿(本年度5度目)をしていたので、部長の土井乙平教授、仲川雅俊監督(30)、池西マナージャー(4回生)もお招きしました。

委員会、並びに同窓会本部から募金活動の要請を受けました際には、どの程度に会員の理解協力を得られるものか、また、その目標額は等々、色々思い悩みました。

しかし、結論は「やるしかない」の意気込みで、他支部の状況も考慮しながら私なりに努力してまいりました。

しかし、結果は、はかばかしくありません。推しておりましたが、締め切り間際になって急に盛り上がり、特に、母校愛に燃えた玉島を中心とした西部地区のみなさんには、多大のご協力を得ました。紙面を借りて厚くお礼を申し上げます。

なお、62年度総会は、6月6日(土)午後6時から、新装の岡山ユニバーサル・ホテル12Fのイベント・ホールを借り切って開催し、出席者53名の参加を得ました。

第1部の総会は、定刻に岡本健也氏(23)の司会ではじまり、村上支部長の事業報告・所信表明の後、学校側からご出席の永野教養部長、黒正就職部主任、同窓会本部の比企事務局長、谷口総務部長から、それぞれ学校並びに同窓会の近況説明、募金事業の協力に対するお礼の挨拶がありました。

続いて、支部役員の紹介、意見交換を行い、小野副支部長(35)から、来年の支部総会は、6月4日(土)に開催する予定を告げ、午後7時に閉会し、その後全員の写真撮影を行いました。

第2部の懇親会は、大森喜太志顧問(6)の乾杯ではじまり、色気なしの宴も時間のたつにつれて、和気あいあいの雰囲気となり、当日本部から届けられた初公開の母校紹介のビデオ

また、出席者は4回卒の佐々木聰氏より、49回卒の加藤泰久君まで44名でした。

まず、守屋毅世話人代表の『吾妹子が見し 輛の浦のむろの木は常世にあれど見し人ぞなき』この歌は大伴旅人がこの輛の地で歌われた歌で、万葉集に載っております。ようこそ、この伝統と、伝説の町輛の浦へおいで下さいました……。」という開会の挨拶に始まり、比企事務局長の備後支部結成に至るまでの経過報告の後、支部役員に次の諸氏を選出致しました。支部長 守屋毅(26)、副支部長 小池勝章(32)、幹事 川本静子(14)、奥村光弘(28)、高上安史(32)、枳毅伸也(35)、畠輝雄(36)、横井謙児(37)、平井義正(37)、岡崎正広(37)、外野美代子(42)、河野行宏(48)、阿吹伸二(49)。続いて、磯野同窓会長、松原経済学部長、佐々木広島支部長より大変温かい熱のこもった祝辞をいただき、村上岡山支部長の乾杯の音頭の後、懇親会に移りました。

当日の出席者は初日とは思えない位、お互いに顔見知りが多く、和やかな雰囲気の中、佐々木聡先輩(4)の昭和商時代の懐かしい昔話、応援団OBの井上輝男先輩(31)による「エール」、広島商業高校野球部長野内利夫先輩(30)のスピーチ、吟詠部OBの高上先輩の「黒田節」等々、楽しいひとときを過ごしました。

特に、硬式野球部の仲川監督に対しては、

花束を贈呈し「春季リーグで優勝し、必ず神宮へ行くよう」同窓生一同激励しました。(春季リーグは期待に込めて優勝したものの、惜しくも神宮の切符は逸した。)

何分発足間もない支部ゆえ、支部長、副支部長以外幹事数名という訳で、未だ役割分担、支部の運営等は支部役員と協議の上、早急に確立をはかり、近年、母校志願者が増加傾向にある備後の地に、立派な支部が永続するよう支部会員一同、一致協力して頑張りたいと願っております。

当備後支部の地域は、福山・尾道・三原・府中・因島の5市、瀬戸田・御調・向島・内海・沼隈・神辺・新市・三和・油木・神石・東城・上下の12町、豊松村の一村です。

現在、300数名の会員が確認出来ております。発会通知が届いてない方、転勤で当地へ赴任された方、お知り合いで支部名簿に掲載されていない方、また、当支部の運営に関するご意見、ご希望があれば是非支部事務局までお気軽にご連絡下さい。

(備後支部事務局)

畠直金物内 畠 輝雄

「大淀の水は春ゆく」パートIIを

広島支部 支部長 佐々木 一義

8月30日(日)、広島市の中心、八丁堀にある、地階洋風居酒屋「マザーポーブコーン」で、

本年度の広島支部総会を開催しました。当日は、大学から田所総務部長・黒正就職



ではないのでしょうか。今年「広島カープは全く優勝の可能性なし」です。その分、仲川監督さんに「大経大関六優勝、そして、神宮球場において大活躍されること」をお願いしましたが、大経大の全国制覇の可能性は大いにあり、「大経大を全国優勝させる会」(仮称)を作っては、とも考えております。

最後に、毎日本誌で提案しております「学部増設」(人文科学・語学・情報・法学・国際)などについて、山本学長の都市型大学のよさを認めますので、本気になってとりあげ、実行に踏みきっていただきたいと思えます。「決断は一瞬・迷へば一生」ということわざもあります。山本学長に重ねて英断をお願いする次第です。

静かな温泉でハダカのつきあい

南九州支部 支部長 宮田 順一郎

月日のたつのは早いもので、昨年、宮崎市の大淀川畔にあるフェニックス・ホテルで支部総会を開催してからも一年過ぎてしまいました。

その席上、熊本からかけつけてくれた浜君の「来年は是非熊本で支部総会を開催しましょう」という熱意が実り、今年は、7月25日(土)、熊本県人吉市、人吉温泉「翠風楼」で支部総会を行うことが出来たことを、本当にうれしく思いました。熊本、宮崎、鹿児島から出席された支部会員の皆さんありがとうございました。

いたご苦労を我々支部会員は忘れることはいけません。台風の影響やいろいろの事情で出席が例年より少なかったことは残念でしたが、それをカバーするようにみんな熱心に話しあえたことは、特筆にあたいすると思えます。川くだりもある、日本でも5指に入る、「くま川」のほとり静かに温泉につかり、一年間のアカを洗い流してほんとうにハダカのつきあいが出来ることは、これも同窓会ならではのことでないでしょうか？



師走の支部総会に31名参加 会員相互のふれ合い盛会裡に

福井支部 支部長 内田 甫

濱君の名司会で会は進み、来年は沖縄で総会を開催することを確認しあい、全員肩を組み、学歌を斉唱し、森君の発声で、母校、同窓会の発展を祈り万歳三唱で会は無事終了しました。終わりに、今年の総会開催にいろいろとご苦労をおかけした熊本の浜君、宮崎の大盛君、本当にありがとうございました。来年は沖縄で是非また会いましょう。

昭和61年度、大阪経済大学同窓会福井支部総会、並びに懇親会を左記のように行いました。

日時 昭和61年12月5日(金) 午後6時30分
より
場所 福井ニュー・パレス ホテル

議題 母校、大阪経済大学の創立50周年記念事業について

支部会員各位の協力により、年末の多忙な時期にもかかわらず、多数の会員諸氏の参集を得て、盛大な支部総会が開催されました。当日、大学からは、大槻先生、黒正就職部主任、また、同窓会からは、磯野会長、比企事務局長のご臨席をいただき、大学の近況、同窓会の現況報告等をお聞きしながら、会員一同遙かに母校を偲びつつ、楽しく、有意義な一夜を過ごすことができました。和やかな雰囲気の中で、田安敏男氏(34)の記念撮影があり、会員相互の親睦はより一層深められ、定刻午後7時に始められた会合も、つかの間に時間が過ぎ去り、参会者一同、母校の益々の隆盛を心に念じつつ、午後10時過ぎ閉会しました。なお、総会終了後、長時間に亘りお付き合いいただきました諸先生方、並びに会員諸氏に、その労を篤と謝し心からお礼を申し上げます。また、大学当局並びに同窓会本部のご厚諒に謝意を表します。

かぎりなき母校の発展を祈念しつつ

富山支部
支部長 重松 尚

昭和62年度富山支部総会は7月12日(日)午後3時より富山市の富山第一ホテルにて開催致しました。

発足させ経大の将来について検討(国際化、茨木の土地の活用、社会人生涯教育、地域社会への還元交流、公開講座、学部学科増等)しつつ、将来の18歳人口の減少期にそなえ有言実行で対応したく、ご支援を願いたいとのご挨拶がありました。

更に、黒正主任から例年富山県出身者が45名のところ、本年度は10名と倍増しており、地元就職のための就職指導面でのご依頼がありました。事業報告(高橋努氏(34)、会計報告(小泉俊夫氏(30)、会計監査報告(道正和夫氏(34)等の各種総会報告も承認され、総会も無事閉会しました。

そして、重松支部長の挨拶と「乾杯」の音頭に始まり、待望の第二部の懇親会にはいりました。

終始同窓ならではの和気藹々の明るい雰囲気、話に花が咲きました。当日は、むし暑かったこともありビールの売れゆきも上々、ご来賓の方々をふくめての自己紹介も始まりました。宴たけなわ、黒正就職部主任より会場ホテルに本年度から勤務の坂下祐康君(61年3月卒業)の紹介もあり、会は盛り上がり、時間の経過するのを忘れる程に早く過ぎ去りました。学生気分に戻って、学歌、逍遙歌を合唱し、万歳を三唱し一同別れをおしめ、来年の再会を約しつつ閉会しました。

終わりに、大学・同窓会本部のご来賓、ならびにご参加いただいた支部同窓会員のみなさまに心から感謝いたします。



大学からは初めて当支部総会へお越しの教務部長内海健一教授、昨年に続いて就職部黒正明主任のご参列をはじめ、同窓会本部より



鍋をかこんで思い出話

香川支部
支部長 和田 憲明

香川支部は、3年間に2回総会を開催するという変則的な日程で行われてきています。前回は昭和60年7月に、ピヤガーデンで開催しました。本年は2月21日(土)午後6時、高松「わたや」で、同窓会本部から磯野会長、大学から松尾経営学部長、玉岡事務局長、就職部の黒正主任の4名をお迎えして開催されました。

当日は、高松市内を中心に18名の出席者がありました。同窓会および大学の現況、入試、就職等の報告が行われ、特に、創立50周年事業報告には、出席者全員が注目して聞いていたようでした。鍋を囲みながら、自己紹介をしたり、名刺交換をしたり、懐かしい顔と思

総務部長西本集一常任理事(23)のご臨席をいただきました。富山県内各地区より24名の支部会員の方々が参集されました。

総会は、事務局長の高橋 努氏(34)の司会で始まり、大学・同窓会本部のご来賓の3氏の紹介の後、支部長の重松 尚氏(23)より支部会員はスクラムを組んでやっており、昭和63年度は支部結成20周年であり、支部の事業に今後一人でも多くの会員が参加され、盛り上げ、親睦を深めようと挨拶がありました。

次に、西本総務部長より大阪経済大学の50周年記念館も立派な建物として完成し、大学のシンボルとして教育と研究のために機能しており、新たに同窓会から記念品として新館の入口に彫刻「風に向かって風に立つ」を寄付された旨のご報告があり、また35支部と組織が拡大しつつあり、一層本部と支部の連携を強めようとご挨拶がありました。

そして内海先生から、富山は立山や宇奈月温泉等、先生にはかねてから親しみのある所であり、また、大学と同窓会はタテ糸とヨコ糸の関係のように両者しつかりとやることにより大学全体が盛り上がるものであるとの前提のもとに大学の近況のご報告がありました。まず、記念館完成後、その内部で情報処理概論・情報処理実習等の教育が文科系の情報処理としてはトップクラスのものとして行われ、在学生に活用されている状況及び入試制度の改善や推薦入学(普通科・商業科・スポーツ)の導入の成果の一つとして女子学生も増えつつある傾向、大学に企画検討委員会を



い出話、近況報告等が行われていました。黒川要氏(37)の音頭で学歌、逍遙歌を全員で斉唱し、次回の再会を約束し、散会しました。

「国際ホテル松山」で盛大に開催

愛媛支部
事務局長 宮崎 望

昭和62年度支部総会は、去る9月6日午後2時より、「国際ホテル松山」で開催しました。当日は、同窓会本部から、磯野会長・平尾財務部長・陰下事務局長・大学からは、高城経営学部長・黒正就職部主任にご出席をいただきました。

午後2時過ぎ、この度の松山市での開催にご尽力下さった木村宣義氏(31)の司会で、飯尾貞雄氏(29)の開会のことばが始まり、なくなられた恩師・同窓生のご冥福を祈り一分間の黙とうをささげ、続いて金子卓行氏(30)の音頭と、りて学歌斉唱のあと、真鍋一美氏(32)を議長に選出し議案の審議に入りました。

今年度は、役員改選の年にあたっておりましたが、満場一致で小野茂樹氏(26)が支部長に再選されました。

副支部長以下新役員については、新支部長に一任ということで、役員改選の議はとどおりなく終了しました。

引き続き、小野新支部長が挨拶されましたが、そのユニークな挨拶は、次のようなものでした。

現在の受験生に話を聞いてみると、大学を受験する場合の考え方には3種類あって、

- 1 一流大学に入学して、一生懸命勉強し、一流企業へ就職する。
- 2 そこそこの大学へ入り、そこそこの勉強

最後に、戸田勲氏(30)の閉会のことばに続いて記念撮影の後、渡辺真人氏(30)の乾杯の音頭で楽しみにしていた懇親会の部へと移りました。

少々アルコールの入ったところで、各自の自己紹介が始まり、在学中の思い出話、就職当時の苦労話があるかと思えば、仕事のPRに熱心な人ありで、会場の雰囲気は一気に盛り上がり、和気あいあいの中、あちこちで名

して、ボーイフレンド・ガールフレンドを作り、楽しく4年間を過ごす。俗にエレガント型という。

3 どうでもいいけど、とにかく大学へ行く。現在の受験生の説明では、こういう学生をダサイ学生といい、こういう学生が行く大学をダサイ大学というのだそうです。

そして、腹立たしい限りであるが、我が大阪経済大学は、この3番目の種類に属しているということで、大学当局に対して、早急に将来展望を考えてもらいたい、ということでした。

続いて、磯野会長・高城経営学部長その他の方々のご挨拶がありました。磯野会長は、新支部長の母校愛の熱意に感激するとともに、ダサイ大学を出た支部の会員各位が、地域社会で立派に活躍しておられることは、心強い限りであり、また50周年記念館の建設に際しては、多大の協力を得たことに感謝の意を表されました。

高城経営学部長は、松山へ来るときは気楽な気持ちで来たが、支部長の挨拶を聞いて、大変な荷物を背負ったような気がするが、帰って学長にその意を伝えたい、と挨拶されました。

更に、香川県の瀬戸大橋博の開催に合わせ

刺交換風景が見られ、またたく間に時間が過ぎりました。

最後に、栗谷敬夫氏(35)の音頭とりで逍遙歌を合唱し、久米義隆(8)先輩のご発声で全員万歳三唱して散会しました。

今回の総会を松山市で開催するにあたりまして、木村氏はじめ、多くの皆様方にご尽力いただきましたことに心よりお礼を申し上げます。

「大淀の水は春ゆく」に一同感銘

徳島支部
支部長 河野 昭夫

昭和62年度の徳島支部総会は、秋の気配の感じる9月26日(土)午後6時より、徳島市の中心を流れる新町川の河畔のホテル・サンルート徳島で開催しました。

当日はご来賓として、大学からは経済学部長の伊藤先生、同窓会本部からは谷口副会長、陰下事務局長をお迎えし、支部会員30名が出席して、盛大に、かつ、なごやかな雰囲気の内で開催しました。

さて総会では、ご来賓より祝辞、大学の近況等のご報告をいただいた後、議事に入り、伊藤前支部長に感謝状、記念品贈呈の後、任期満了にともなう役員改選が行われ、次の皆さんが次期役員に選出されました。

支部長 河野 昭夫(25)
副支部長 田中 良昌(26)
山口 勝敏(32)

事務局長 榊原 諒雄(34)
会計 野々宮充三(37)

引き続き、新支部長の挨拶と決意表明が行われた後、大きなスクリーンに経大の歩みと近況のビデオ「大淀の水は春ゆく」が上映され、一同、母校の発展ぶりに感銘いたしました。

会の進行とともに、スピーチやカラオケ、それに数名のコンパニオンが彩りを添え、拍手と歓声が渦巻き大いに盛り上がりました。

また、二次会には出席者の大半が借り切りのスナックに移動し、夜遅くまで飲をつくしました。

なお、今回の会場のサンルート徳島は、同窓生の安宅健氏(37)が支配人をしておられ、大変お世話になったことを、紙上を借りお礼申し上げます。



て、来年は四国4県合同の同窓会を開催しては、との提案が出され、出席者会員の同意が得られ、今後、香川・徳島・高知の各支部と連絡をとり合同同窓会実現に努力することとなりました。



日頃の支部会員各位のご尽力に感謝し、皆さまの二層のご協力、ご支援をお願い致します。



「高知第一ホテル」で盛大に開催

高知支部
幹事 野崎 邦男

今年度の高知支部総会は7月29日(水)午後6時30分から南国土佐の炎天下でのゴルフ大会の後、開催されました。

- 一 幹事の経過報告。
 - 一 横田支部長挨拶。
 - 一 磯野同窓会会長の挨拶並びに現況報告。
 - 一 渡辺理事の挨拶並びに大学の現況報告。
 - 一 黒正就職部主任の就職状況の説明。
- 等レモニーは至極順調に進行し、現役学生5名も交えて、各自の自己紹介・近況報告を終え懇親会の開宴となりました。
- 豪華な、高知第一ホテル自慢の料理に加え、名物・鯉のたたき、皿鉢料理も宴の進行と同時にどんとたいたいられ、つわもの揃いの幹事連も、土佐酒の消費ビツチの早さには、いささかあつけにとられていました。
- しかし、そこは支部長がホテルのオーナー

とあって全員安心。午後十時を過ぎて、学歌斉唱・万歳三唱で、その場はなんとか納まりましたが、名残惜しい連中はそのまま地下のスナックへ集団移動しました。

豪放らしく売りの土佐人の二次会とあって、その賑やかなこと。年1回の支部総会ではありますが、融和の精神は大いに発揮され、深夜におよんでなんとか散会の運びとなりました。

来年は、四国4県も島国ではなくなり、本部とも密接に連絡をとり、支部の発展・充実のために、より一層活動の輪をひろげてゆきたいと思っています。

最後になりましたが、支部発展のためにご尽力いただきました比企事務局長にご臨席いただけなかったことは心ざびしい限りでありました。より一層のご健勝をお祈りします。

感動に満ちた支部総会

丹有支部
支部長 梶村 文弥

全国各地に続々と支部がつくられ、その数が35にもなったことと同慶に存じます。

昭和25年にわれわれの支部が誕生したころは、わずか数支部だったことを思うと、今昔の感じがいたします。

丹有支部は、当地域の3つ4つの高校から大阪経大に学んだ者が中心です。そのためもあって日ごろから網の目のような連携を保つことが出来ておりますことは誠にうれしいことで、役員はじめ会員の皆様のご協力にいつ



も感謝しております。

さて、昭和61年度支部総会は、次のとおり大変な盛り上りをもって開催されました。

とき 昭和62年2月1日(日) 11時

ところ 篠山町・近又樓

出席者 57名(大学・本部来賓4名)

大学からは理事大槻弘先生と就職副部長石井敏雄氏、同窓会本部からは磯野斉会長と比企重事務局長がご出席くださいました。

丹波篠山の名物「ぼたん鍋」を囲んでの懇親会の席上、私も知らぬ間に自発的に集められていた、48名分47万5千円という大金がほんとに寄付されたのです。一同感激と興奮の中にジーンとくるものがあり、みんなが一つに「融和」し一層の連帯感がみなぎりました。

これらの真心の積み重ねによって、支部の記念募金寄付者は、各会や体育部OB会等での拠金者を含めると10名を越えました。ありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

各支部の皆様方、それぞれの支部という点が互いに協調し線で結び、更に学園という固の発展のため面となって支援する工夫と努力を続けようではありませんか。

ご健康とご多幸をお祈りいたします。



浄瑠璃寺を拝観

奈良支部
事務局長 測上 孝

昭和62年度支部総会を9月20日(日)、野尻支部長が副社長として活躍中の、奈良交通(株)本会議室で開催致しました。

同窓会本部から磯野会長、陰下新事務局長、西本総務部長、また、大学から渡辺理事、石井就職副部長をお迎えし、支部会員60名の多数の出席を得て、盛大に、有意義に総会が開かれましたことを報告申し上げます。

野尻支部長は同窓会という場のすばらしさと、会員の皆様がこの場を公私にわたっての活躍に役立ててほしいと挨拶され、出席者一同、大いに勇気づけられました。

例年通り、午前中は総会議事、午後は懇親会で歓談のち、支部長のご好意により、今年度は浄瑠璃寺を見学しました。重要文化財、国宝もあります別名九体寺と称されるこの名刹の住職の名説法に、仏教の世界にしばしの時を過ごしました。

午前10時30分に始まった総会は、午後3時には再会を約し、無事散会しました。

奈良支部総会は例年秋の日曜日に開きます。支部会員1,300名は確認されており、未確認にて案内もれになっている同窓諸兄がおられると思います。皆様方のご協力をもち、名簿を完備したく思っておりますので、ご連絡をお待ち致しております。



三重支部総会に参加して 水上支部長(3)に敬意を表しつつ

比企 重(7)

一口に三重県といっても、JRの特急で約4時間もかかる南北に細長い太平洋に面した特異な県の一つであることは皆様ご存知のことと思います。

この特異な地域に所在する三重県支部を20数年にわたり、維持、運営していただいている水上敏夫支部長(3)には、本部に属する一員としての私は、本当に心から敬意を表する次第です。

北勢、中勢、南勢、伊賀、紀州の5地区に幹事さんを配されての運営ですが、何といても地の利、時間的なことを考えると、その地区に居住している会員だけでも参加してくれることを祈念して、県内の各地区を移動して支部総会を開催される支部長のご努力は、正に母校愛を具現されたものであるとともに後輩への配慮以外の何ものでもないと思えます。

昨年61年11月16日(日)、久しぶりに津市の料亭「光悦」で盛大に開催されました。大学から渡辺達好理事(同窓会名誉会長)、黒正明就職部主任、本部から私に参加してお祝いしました。

第1回総会は名張市赤目四十八滝の料亭「対泉閣」で渡辺同窓会理事長(当時)、比企事務局長が出席して発会した当時のことを思い出し、「ああ、お互いに年をとったな...」

す。

三重県在住の会員の皆さん、もう一度、「わが母校」を思い出していただき、母校の安定した発展を祈念しつつ、「大淀の水は春ゆく豊かな春だ...」と学歌をうたい、スクラムを組んでみようではありませんか...。

水上支部長(3)のご健祥と三重県支部のより強い結束とパワーを発揮されることを祈念しつつ.....

国際都市化してゆく泉南地区

泉南支部 支部長 中川 克己

泉南支部総会を5月16日(土)に昨年同様貝塚市の料亭「木の木」に於いて盛大に開催いたしました。

大学より山本晴義学長、渡辺達好理事、黒正明就職部主任、同窓会本部より磯野齊会長、比企重事務局長等、多数のご来賓のご出席を賜り、岸和田市以南岬町までの同窓生の皆さんと楽しい一時を過ごすことが出来ました。

泉南支部の会員数も500名を越す人数になりました。泉南支部の活動は現在ゴルフ大会と旅行です。今年、第4回ゴルフ大会を泉佐野CCで行いました。第5回大会も11月17日(火)、大阪ゴルフCCに於いて行われます。ゴルフの新幹事には19回卒の北川市雄氏、21回卒の根来良行氏、37回卒の三井健次氏の3氏が勤めて下さることになり、盛大な大会



と回顧するとともに、支部運営の意義と必要性を再認識される反面、本部の果たすべき責任と義務を痛感いたしました。

ただ今回の総会に参加させていただいてうれしかったことは、若い年代の参加者が、いままでと異なり、多かつたことです。Uターン現象の増加している昨今、自分は経大を卒業したんだということを再認識して、母校の発展のためのバック・ボーン的役割の一端を担っていることを自覚して、このような会合に参加してくれる会員が一名でも増えることを祈念しているのは私だけではないと思いま



になりつつあります。また、来年2月には夢千代日記で有名になりました湯村湯泉に旅行の予定です。

泉南支部会員の重里実氏(1)が、泉佐野商工会議所会頭に就任されたので、支部総会の中で記念品を贈り、お祝い申しあげました。関西新空港で急変する泉州(泉南地域)は、現在、地価の急騰が目立っており、空港が開港される頃には泉南地域は国際都市に発展することと思われ、前島の整地もすすみ、ビルが建ち並ぶことと思われ、来年の瀬江には、空港の記事を具体的に書かせていただきたく思っております。最後に、大阪経済大学卒業の同窓諸兄の皆様のご健康とご多幸をお祈り申しあげます。

不死鳥のように蘇った 岡田佐市さん



支部長などの集まりで母校を訪れると、必ずのように聞かれる言葉は、「岡田さん元気にしてはりますか」

である。東海支部長を2回、通算15年間も支部活動に貢献された岡田佐市さん(6)名古屋千種区丘上町2-15である。岡田さん経営の呉服卸商岡田株式会社は、4年前の昭和58年に思わぬ巨額の負債で経営が行き詰まった。呉服業界では全国でも屈指の会社だったためか、全国紙にも大きく報道された。岡田さんの人柄もあって、心配する声と同窓会各支部があがったのも当然である。

岡田さんはいつも「私の長所も短所もお人好し」と自称されているが、今度も先代からの番頭を信用しすぎたためらしい。負債の約3分の1は販売先だった小売店への不良貸し付けで、この店が不渡手形を発行したこと、概要が明るみに出た。順風満帆だった岡田さんにとっては、寝られぬ苦しい何カ月かが過ぎたことだろうが、約半年後の6月、和議が認められると早速、不死鳥のように立ちあがった。

会社の営業権である社長を奥さんに譲り、社員30人とともに、同じ繊維問屋街である長者町で新店舗を開きました。鉄筋4階建の堂々としたビルである。そしてまる4年、30億円あった年商は10億円に減ったが、利益率はまあまあ、もちろん無借金経営である。ご多聞にもれず、岡田さんには貴重な競争体験がある。幹候出身の陸軍中尉として、中蒙、比島ルソン島などの激戦地を歴戦、敗戦後は有名なモンテンルパ収容所に抑留されている。とくに比島では手術後一週間に米軍の上陸を受け、ジャングルの山中を逃げまわった。「あの時のことを思えば、平和な国内で辛抱できないことはありませぬわ」と、例の好人物の笑顔が戻ってきた。現在の岡田さんは帰宅後の音楽鑑賞がなよりの楽しみ。防音装置を施した細長い6畳間にデンと豪華なステレオ装置が収まっている。戦前集めたSP3千枚は戦災で20枚程度に減ったが、戦後買い揃えたLP2千枚と、オープンテープ2千巻、カセットテープ3千2百巻がある。毎日夕食後の8時ごろから約3時間、じっくりパッパハモーツアルトの曲を楽しまれるそうだが、この時間が一日で一番幸せな時、一日の疲れをいやし、没我の境地へ浸ることができるとおっしゃる。

同窓生の皆様から激励され、本当に勇気づけられました。お陰様でもどおり元気に商売に打ち込んでいます。余生はのんびりと願っていますが、こればかりはどうなおりますか。皆様方にくれぐれもよろしくとお礼の伝言を頂いた。(文責・加藤正秋)

華やかに新年会を開催

鳥取支部 副支部長 西山 林一

鳥取支部では、昭和62年度新年会を、1月28日(水)に、ホテル・ニューオータニ鳥取「はまなす西の間」で開催しました。

今回は、参加者が意外に少なく、また、亀井支部長が昨年末藍綬褒章を受章されたので、幹事一同秘かに相談して、会合の席上お祝いする計画をしておりましたが、折り悪しく、その2日前に体調をくずされ入院加療中との連絡があり、ご本人不在で寂しくもあり残念でもありました。席上、出席者から容態を心配する声もありましたが、受章記念の祝宴が度重なったのが原因で、念のため検査を受けようという程度のことと判明して一同安心するという一幕もありました。

午後6時、出席者全員揃ったところで、支部長から寄贈いただいたワインで乾杯の後、懇親会の雰囲気は一気に盛り上がり、昔話に花が咲きました。

同じ下宿にいたことがわかり握手する人、自分の商売・ビジネスのPRに熱心な人、力一杯勉強したかった?のに学園紛争で2年間無駄金を払ったとなげく人、中には、日頃は商売敵でありながら、この日はかりは親しく杯をくみかわす人等々、懇親の目的は十分にはたされました。

最後に、再会を約するとともに、今後は同窓会本部にも援助を要望することを申し合わせて散会しました。

「適塾の流れをくむ」に感銘

北海道支部 新井 義之(50) (初参加)

北海道支部総会について報告いたします(10月9日、(金)午後6時より、札幌第一ホテルにて開催)。

私は経大卒業後、東京、千葉、長野と転勤し、去年、北海道にもどってきました。ここ数年、大学の事などほとんど忘れていたのですが、長崎先輩から連絡をいただき、北海道

支部総会に参加できました。改めて、お礼を申しあげます。

予想はしていたのですが、さすがに参加人数は私を含め、6名と少なかったです。

しかし、はるばる同窓会本部より磯野会長の御出席をいただき、内容のある会となりました。

同窓会支部役員

東京支部 支部長 井阪 健一 尼崎支部 支部長 小谷 芳男 北九州支部 支部長 嶋原 正孝 丹有支部 支部長 梶村 文弥

東海支部 支部長 加藤 正秋 西宮支部支部長代行 岡野 健治 南九州支部 支部長 宮田順一郎 奈良支部 支部長 野尻 忠正

岐阜支部 支部長 坪内 敏男 神戸支部 支部長 桐月 正邦 福井支部 支部長 内田 甫 三重支部 支部長 水上 敏夫

滋賀支部 支部長 野田 邦弘 東播磨支部 支部長 永井 宏 石川支部 支部長 柚木 繁 泉南支部 支部長 中川 克己

京都支部 支部長 深田 稔 姫路支部 支部長 永川 仁一 富山支部 支部長 重松 尚 和歌山支部 支部長 松本 旬弘

北摂支部 支部長 石川 裕 岡山支部 支部長 村上 一夫 香川支部 支部長 和田 憲明 鳥取支部 支部長 亀井 寛

豊中支部 支部長 筒井 英夫 備後支部 支部長 守屋 毅 愛媛支部 支部長 小野 茂樹 島根支部 支部長 渡部弘一郎

大阪市支部 支部長 南部 俊一 広島支部 支部長 佐々木一義 徳島支部 支部長 河野 昭夫 北海道支部 支部長 田中喜三郎

大阪市役所支部 支部長 倉田秀太郎 山口支部 支部長 江村 育己 高知支部 支部長 横田 憲介

昭和高等商業学校から長く、関西私学の雄としての伝統ある大学であることを改めて会長からお聞きしました。

創立50周年記念彫刻を作っていたいた流政之先生も、その彫刻を作るにあたり、「経大は福沢諭吉など著名な偉人を育てた緒方洪庵の適塾の流れをくむものである」といわれたという話を聞きました。正式な適塾の流れではなくとも昭和商高初代校長の黒正巖先生は学びたい者はすべて入学させて文部省を困らせたと聞きます。志あるものに学ぶチャンスを与える思想こそ、適塾の精神そのものではないでしょうか。

改めて、母校のすばらしさに感心してしまいました。私も母校の名をけがさぬよう頑張つて行きたいです。

最後に、北海道に限らず、全国の同窓会員に、支部の集会への参加を願いたいものです。また新たな我が母校のすばらしさをもって、仕事に打ちこめる同志が増えることをお願い申し上げます。



一言、ご挨拶と近況報告をさせていただきます。皆様方の熱意あふれるご協力を得まして、61年、「50周年記念館」が建設され、また同窓会のご寄付による流政之氏の彫像「風に向かつて風に立つ」も62年5月20日、西正門横に建ち、本学の未来像を象徴するものとして、日々私たちに感銘をあたえています。ひ



学長 山本 晴義

本学の将来像を 「企画検討委員会」で

学 園 の 近 況

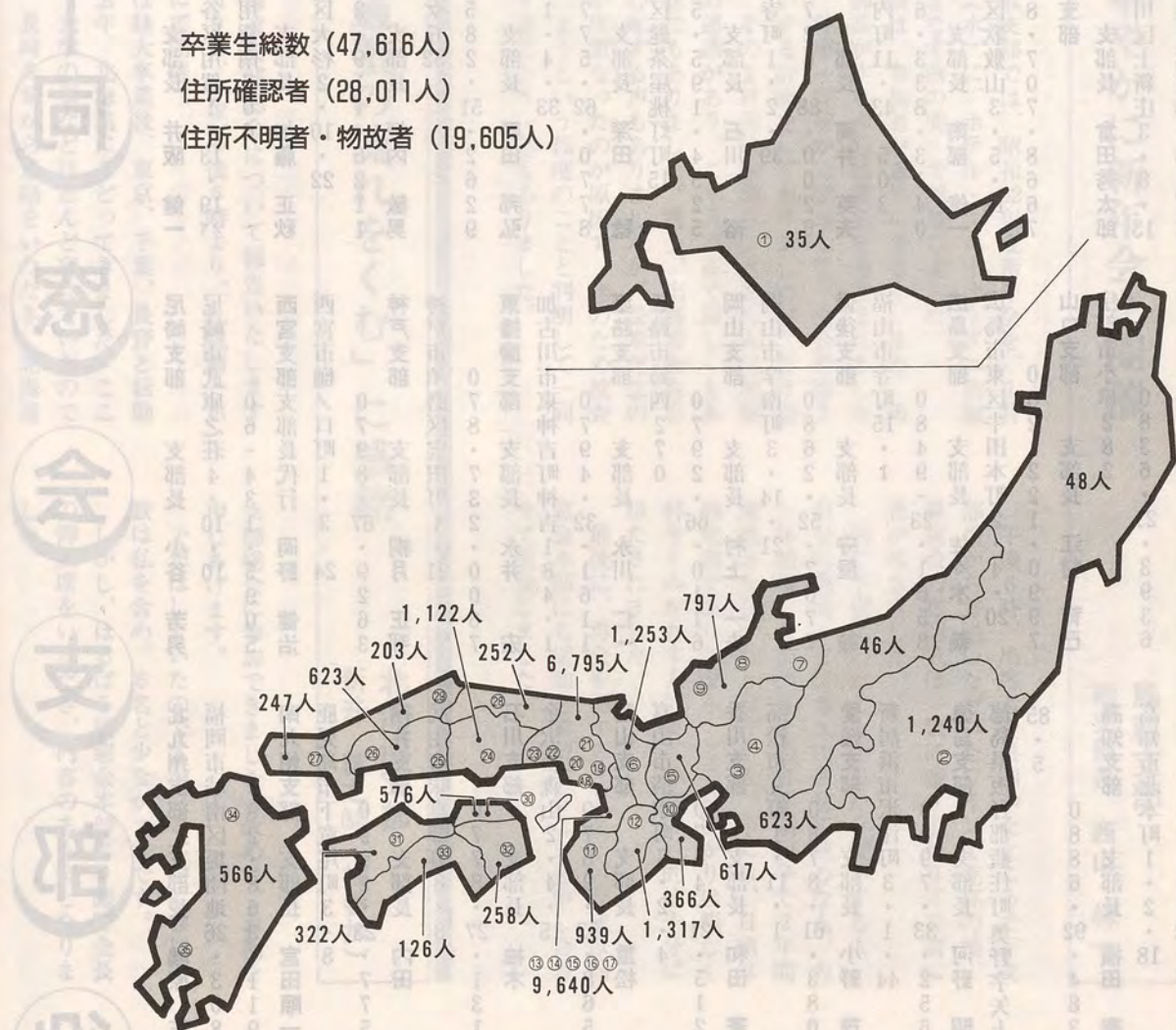
とえに皆様方の母校愛のたまものと厚く御礼申し上げます。
おかげをもちまして現在、社会から要望されています急速な情報化に対応し得る条件がととのい、この記念館の中で、先端的な研究・教育が行われております。また新生をむかえ全学的な融和をもたらすために、4月、万博ホールで新生歓迎フェスティバルを行い、一部新聞にもとりあげられ好評を得ました。ことに硬式野球部は惜しくも全国大会出場は逸しましたが、春季の関西六大学野球に優勝しましたことは経大人の意気を大いに高めたことと思えます。
また定員増にともない、新年度から情報、国際、英語などアメリカ人の先生もまじえた12人の新任教員をむかえ、それに私大では全国はじめての16人の小人数ゼミナール制を実施しました。そのほかILOやオーストラリア、カナダから先生方を招いて講演会、学術交流を行うとともに、本学からは中国、アメリカ、ドイツなどに先生方が留学されました。皆さまもご存知の大阪府立文化情報センター

- 学長あいさつ
- 50周年記念事業
- 人 事
- 教学関係
- 学費改訂
- 62年度入試結果
- 63年度推薦入学(募集要項)
- 63年度入学試験概要
- 施設関係
- 就職関係
- 国庫助成
- 新刊紹介
- 学術講演会・学会
- その他の行事

と共催の公開講座が今年も9月から始まりま
す。お陰さまで第5回を迎え、700名に近い応募を頂いております。
とにかく、広い視野ときめこまかい教学体制充実のために全学努力しておりますが、しかし現在、私達に課せられた課題は数えきれないほどあります。7月、理事会・教授会とも新しい執行部が成立しましたが、これを機会に「企画検討委員会」をつうじて早急に本学の将来像を確認すること、また地域社会の文化センターとしての役割を具体化していくこと、社会人教育や女子教育の体制をつくること、国際交流センターを整備すること……に全学をあげてとりくんでいきたいと考えております。
最近私は社会の第一線で活躍されている5万人弱の卒業生を持つている本学の強味をひしひしと感じております。就職100%の現状がそれを示しています。どうか今後とも忌憚らないご鞭撻をお願い申し上げます。
昭和62年8月

地域別同窓生分布図

卒業生総数 (47,616人)
住所確認者 (28,011人)
住所不明者・物故者 (19,605人)



- | | | | | |
|---------|-----------|--------|---------|---------|
| ① 北海道支部 | ⑧ 石川支部 | ⑮ 北摂支部 | ⑳ 東播磨支部 | ㉑ 島根支部 |
| ② 東京支部 | ⑨ 福井支部 | ⑯ 豊中支部 | ㉒ 姫路支部 | ⑳ 香川支部 |
| ③ 東海支部 | ⑩ 三重支部 | ⑰ 泉南支部 | ㉓ 岡山支部 | ㉑ 愛媛支部 |
| ④ 岐阜支部 | ⑪ 和歌山支部 | ⑱ 尼崎支部 | ㉔ 備後支部 | ㉒ 徳島支部 |
| ⑤ 滋賀支部 | ⑫ 奈良支部 | ⑲ 西宮支部 | ㉕ 広島支部 | ㉓ 高知支部 |
| ⑥ 京都支部 | ⑬ 大阪市支部 | ㉑ 神戸支部 | ㉖ 山口支部 | ㉔ 北九州支部 |
| ⑦ 富山支部 | ⑭ 大阪市役所支部 | ㉒ 丹有支部 | ㉗ 鳥取支部 | ㉕ 南九州支部 |

50周年記念事業

◇50周年記念彫刻「風」の除幕式
62年5月20日(水)午前11時から、同窓会の寄贈により、独特の造形作品で知られる世界的彫刻家流政之(ながれ・まさゆき)氏に創作を依頼していた創立50周年記念彫刻「風」の除幕式が記念館前庭広場において、作家、同窓会、大学関係者、報道関係者等70名が出席して華やかに挙行された。

磯野斉同窓会長、鈴木亨理事長、山本晴義学長、井上賢一後援会副会長、久野晋良教職員組合執行委員長が、グリーンクラブの学歌合唱、吹奏楽総部のファンファーレ演奏の中、除幕の綱を引き、参列者全員が菰樽から杓で酒を新しい彫刻に注いで入魂し完成を祝った。次いで作家へ花束を贈呈した。

彫刻は「Kaze Ni Mukatte; Kaze Ni Tatsuu」のテーマで、歴史ある西学舎正門横にたち、高さ230cm、幅55cm、奥行55cmのクロミカゲ石。昨秋、後援会の寄贈により、先に50周年記念館1階ロビーに設置された「Kuno Ni Mukatte; Kuno Ni Tatsuu」(高さ113cm、幅101cm、奥行50

cmクロミカゲ石)と一対をなす作品。鈴木理事長は、彫刻のテーマについて、昨春「本学の校風は、自由と融和。それをテーマに創作を流さんにお願ひしたら『まるで雲をつかむような話だなあ』とおっしゃった。その雲をつかむ人を作ってほしいとお願ひし、雲に向かつて『風に向かつて』立つ彫刻が生まれた。期待通りの作品は、大学の未来に向かって、学生の心をふるいたたせるシンボルともなるでしょう」と挨拶し、本学の創立50周年を記念する新しいモニユメントの誕生に対し熱い思いを披露した。



前述の後援会寄贈の記念彫刻除幕式は、61年11月11日(火)午前11時から記念館1階で挙行された。それは61年4月17日に流氏が来学、設置場所の記念館1階ロビー・学生談話室の空間が気に入り、半年間の構想を練って制作されたものである。流氏の作品が日本の大学に置かれるのは本学が初めてである。

◆募金報告

昭和62年5月20日以後の状況についてお知らせします。

◆寄付金入金状況(62.10.30現在)

区 分	62. 10. 30現在累計	
	件 数	金 額
企 業	90	67,160,000
一 般	2	60,000
在 学 生 父 母	1,077	19,670,000
卒 業 生	2,762	81,980,612
本学法人役員など	8	11,050,000
旧 教 職 員	30	8,420,000
教 職 員	177	37,400,000
合 計	4,146	225,740,612

●企業
(株)ホンダオート大阪(藤井正由) 50,000

●卒業生
第9回(昭和17年卒) 岡本 楷男 10,000

(個人累計) 20,000
第13回(昭和22年卒) 松岡 啓子 10,000

坂中 良 100,000
(個人累計) 300,000

第19回(昭和28年卒) 岡野 伸一 30,000

第20回(昭和29年卒) 村上 弘 100,000

第21回(昭和30年卒) 久保田喜八郎 10,000

第25回(昭和34年卒) 水納 敏也 100,000

川村 理哲 30,000

第27回(昭和36年卒) 松田 英志 20,000

第31回(昭和40年卒) 西岡タミ枝 30,000

第33回(昭和42年卒) 山仲 義秀 10,000

三村 烈明 50,000

第35回(昭和44年卒) 御器谷和彦 30,000

鈴木 敏郎 3,000

就任月日は、昭和62年7月10日付

昭和62年7月8日

学校法人 大阪経済大学

◆名誉教授授与

昭和62年3月末をもって退職されました倉辻平治、玉置保両先生に大阪経済大学名誉教授(第13号第14号)の称号が4月1日付で授与された。

倉辻平治先生は昭和24年5月1日、本学に着任され、57年の定年まで主に経済政策の講座を担当されるかたわら、経済学部長、大学院委員長、図書館長などの重職を歴任された。専任教授退職後は特任教授として本学の発展に大きく貢献された。

玉置保先生は昭和44年4月1日、本学に着任され、57年の定年まで主に労働法の講座を担当されるかたわら、理事、学長、経営学部長などの重責を歴任された。専任教授退職後は、特任教授として本学の発展に大きく貢献された。

人事

◆役員の変更について

公 示

このほど任期満了に伴う役員(理事・監事)の改選が行われ、左記のとおり新体制が発足した。

(敬称略)

1、寄付行為第6条第1項第1号の理事(学長)

山本晴義

磯野 斉

色川幸太郎

大槻 弘

岡本 正

香川一男

同第3号の理事(学識経験者)

鈴木 亨(理事長)大隅健一郎

泉谷勝美

入江 正

大西正文

4、監 事

萩原市郎

望月 清

昭和62年7月29日

学校法人大阪経済大学

- 第38回(昭和47年卒) 司城 孝志 10,000
- 第41回(昭和50年卒) 高塚 邦夫 50,000
- 第42回(昭和51年卒) 酒井 俊明 5,000
- 第43回(昭和52年卒) 田中 憲 10,000
- 第46回(昭和55年卒) 河谷 悦治 30,000
- 第48回(昭和57年卒) 井上 貴之 10,000
- OB会
松本ゼミ剛友会(代表植村祐三) 50,000
- 教職員
山名 修三 200,000
有馬 博子 100,000
三宅 律子 100,000
久保田 諄 200,000
西野 証治 200,000
西山 豊 30,000
松岡 憲司 30,000
徳永 光俊 30,000
以上

卒業回生別・支部別入金額累計は別掲(62ページ)



◇経済学部・経営学部（第1部）

（単位円）

内 訳	新学費	旧学費
入 学 金	200,000	150,000
授 業 料	450,000	320,000
施設設備資金	110,000	80,000
入学年度年額	760,000	550,000

◇大学院

（単位円）

内 訳	新学費	旧学費
入 学 金	200,000	150,000
授 業 料	450,000	320,000
施設設備資金	120,000	90,000
入学年度年額	770,000	560,000

◇経済学部・経営学部（第2部）

（単位円）

内 訳	新学費	旧学費
入 学 金	60,000	60,000
授 業 料	140,000	100,000
施設設備資金	18,000	15,000
入学年度年額	218,000	175,000

学費改訂

◇昭和62年度学費改訂

昭和62年度以降入学の経済学部第1部学生、経営学部第1部学生、経済学部第2部学生、経営学部第2部学生、および大学院学生の入学資金ならびに学費がつきのとおり改訂された。

⑨入学金は入学の年度のみ徴収する。

◇松村文武教授に学位授与
松村文武教授に昭和62年1月23日付で京都大学経済学博士の学位が授与されました。

◇新任

62年4月から、左記の方がたが着任されました。今後の活躍が期待されます。

- 経済学部 助教授 小川 雅弘 (国民経済計算論)
- 経済学部 講師 橋本 紀子 (計量経済学)
- 経営学部 教授 田 潤 進 (経営学総論)
- 経営学部助教授 重本 直利 (情報管理論)
- 教養部 助教授 野々村 博 (体育実技)
- 教養部 講師 宋 仁守 (発展途上国経済論)
- 教養部 講師 植田 健男 (教育行政学)
- 教養部 講師 片山 麻美子 (英語)
- 教養部 講師 加藤 普章 (政治学)
- 教養部 講師 楠葉 隆徳 (科学史・自然科学概論)
- 教養部 講師 山本 正

教養部 講師 (歴史学)
Constance Ann Watanabe (英語)

62・4・1付

◇退職

62・3・31付
永い間どうもご苦勞さまでした。助教授 瀬戸 賢一 (依願)
中尾 茂夫 (依願)

◇海外出張
山本 恒人 教授

行先 中国

期間 62・4・1〜63・3・31

目的 調査研究

行先 アメリカ他

期間 62・4・1〜63・3・31

目的 調査研究

行先 ドイツ

期間 62・4・1〜63・3・31

目的 調査研究

行先 ニュージールランド

期間 62・5・9〜62・10・31

目的 調査研究

行先 アメリカ他

期間 62・6・30〜62・10・1

その他短期出張者
16人(省略)

◇国内留学

吉田 秀明 助教授

行先 東京大学
期間 62・4・1〜63・3・31

◇役職者一覧 (62・11・1現在)

- 学 長 山本 晴義
- 理事 鈴木 亨
- 経済学部長 伊藤 武
- 経営学部長 高城 寛
- 教養部長 永野 仁
- 大学院委員長 松本 剛
- 教務部長 内海 健一
- 入試部長 土井 乙平
- 学生部長 岡本 昌夫
- 就職部長 松原 和男
- 図書館長 門坂 正人
- 体育館長 浜田 幸策
- 広報部長 西野 証治
- 日本経済史 鈴木 亨
- 中小企業 山本 晴義
- 産業界経済・経営 山本 晴義
- 産学所長 玉岡 晴義
- 事務局長 田所 浩
- 総務部長 田所 浩

62年度入試結果

◇特技(スポーツ)推薦

61年11月7日に実施された標記推薦入学選考の志願・合格者状況は左記のとおりです。

1 志願者・合格者状況

	経済学部	経営学部
志願者数	33	82
合格者数	33	33

2 合格者の種目別内訳

柔 道	5	バドミントン	2
剣 道	4	サッカー	9
陸上競技	6	ラグビー	11
競技スキー	1	バスケット	
硬式野球	9	ボール	3
硬式庭球	1	バレーボール	3
軟式庭球	4	ハンドボール	5
卓 球	3		

準硬式野球は志願者なし

◇普通科・商業科推薦

61年11月30日に実施された標記推薦入学選考の志願・合格者状況は左記のとおりです。

1 志願者・合格者等状況

種別	志願者数	受験者数	合格者数	入学手続
経済	130	130	130	21(5)
経営	110	110	110	30(4)
合計	240	240	240	51(9)

()は女子内数

◇62年度入試結果

2月9日・10日の両日実施された62年度入試の志願者・合格者等の状況は次記のとおりです。

62年度の志願者合計は1万4351名で、前年度と比べ、1990名の増加(16.1%)でした。1・2部別で見ると、第1部は1848名の増加(16.9%)、第2部は142名の増加(9.9%)となっています。特に経済学部第1部においては顕著で1359名(24.9%)の増加となっています。

教学関係

◇入学定員増認可について

昭和61年5月26日に恒常的定員増、経済学部100名、経営学部100名の申請を行い、昭和61年9月29日には期間付定員増(62・67年)、経済学部50名、経営学部50名の申請を行った。中でも期間付入学定員増申請は申請までに教員充足の決定が得られず、専任教員採用計画書によって申請受理された。10月31日、専任教員3名の採用が決定され、個人調査等関係文書を整理し、11月11日差し替えに出向し、申請はすべて完了した。

文部省の大学設置審議会と、私立大学審議会が各々12月17、18日に総会が開かれ、62年度の新設大学、学部増、学科増について塩川文部大臣に答申された。

61年12月23日、本学の恒常的定員増、期間付定員増が申請どおり認可され、文部大臣の認可書が手渡された。

これで62年度から経済学部第1部入学定員は400→550名に、経営学部第1部入学定員も400→550名に、合計300名の定員増が図られる。

教科	外国語	国語	選択科目 (二科目)
科目	英語 I・II・II C	国語 I・II	簿記会計 I・II 地理 日本史 世界史 政治・経済
配点	150	150	150
時間(分)	70	70	70

- 合格発表日
昭和63年2月19日(金)
- 出願手続等
昭和63年1月7日(木)～1月22日(金)

- 試験日
経済学部(1部・2部)
63年2月9日(火)
経営学部(1部・2部)
63年2月10日(水)
- 試験地
大阪(本学他) 金沢 名古屋
姫路 広島 高松 福岡
- 試験科目・配点・時間

- ・設備名 冷暖房及び換気
- ・空調方式 中央式 冷温水ファンコイル方式(1 F 経済史事務室等は単独エアコン方式)
- ・監視制御 コンピュータ制御

◆A館空調設備工事
62年9月9日(水)夏期休暇中1カ月の工期で着工していたA館空調設備工事が予定通り竣工しました。併せて、天井、壁の塗装工事が行われたため、教室内は明るい雰囲気になりました。

この工事は、教室空調整備計画にもとづき、60年実施されたC・D館空調工事に続くもので、これによって、本学の教室は、B館5教室を除いてすべて空調設備が完備されることになりました。

施設関係

(2)検定料 25,000円
※入学案内(要項・願書等)について
代金は700円(郵送請求の場合は送料共1,000円)。

◆61年度就職状況
例年になく厳しい選考の中で、優良企業への就職が決定しました。61年度の特徴としては、上場会社への就職者が60年度にまして多かったです。上場会社への就職者は20名(前

就職関係

◆B館の教室改装完成
61年、1部学生数の恒常的定員増及び期間付定員増の申請を行い、合計300名の入学定員増が62年度から認可されました。3月31日、新しいカリキュラム編成に伴い語学等小人数授業が増加するため、B館の中教室2室(各157席)を小教室4室(各63席)に改装する工事が完成しました。

旧B22号教室は新B21、22号教室に、旧B24号教室は新B24、25教室に、また、旧B25号教室は新B26号教室に生まれ変わりました。

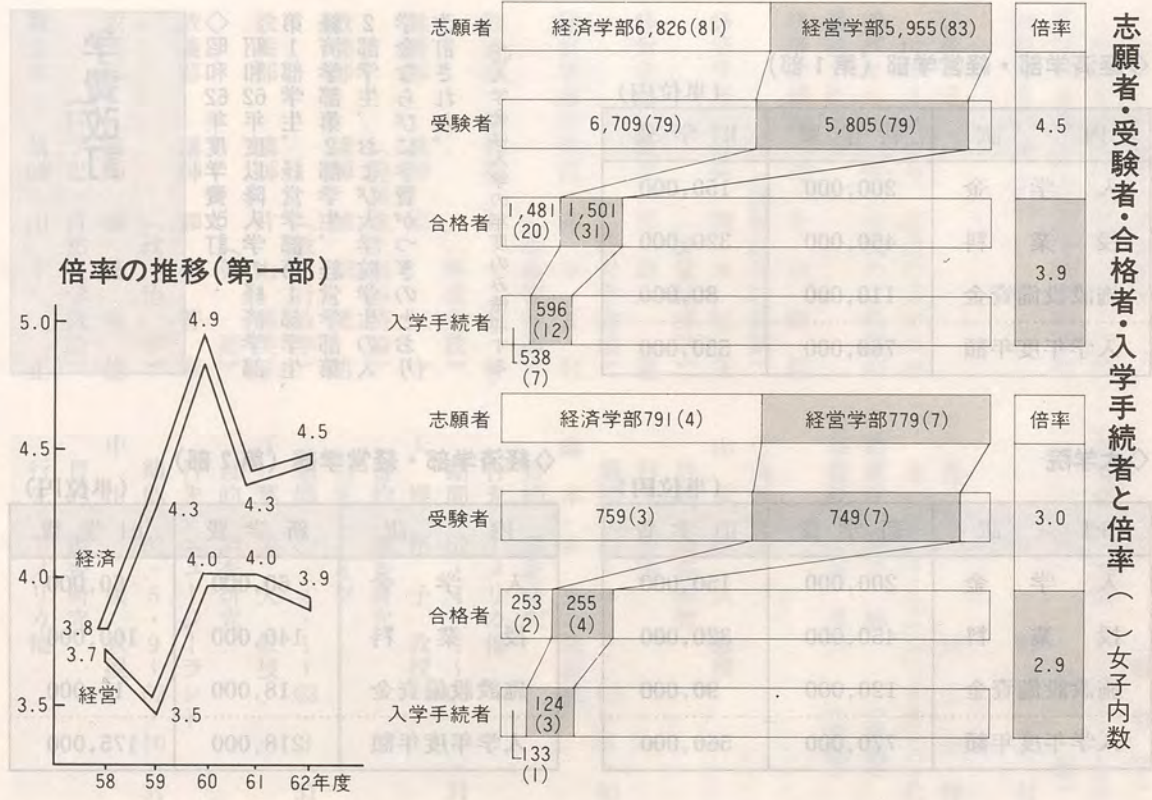
◆普通科・商業科対象推薦
出願期間 62年10月19日(月)～10月23日(金)
選考日 62年11月6日(土)
合格発表 62年11月14日(土)

◆普通科・商業科対象推薦
出願期間 62年11月24日(火)～11月27日(金)
選考日 62年12月6日(日)
合格発表 62年12月12日(土)

◆産業セミナーと懇親会
就職部では、近畿2府4県の優良企業の人事担当者にお集まりいただき、標記セミナーと懇親会を次のとおり開催しました。

就職説明会
(第1回)
開催日 62年4月17日(金)
テーマ 就職活動を始めるにあたって
講師 (株)リクルート 事業推進課長 三原 速男氏
(第2回)
開催日 62年7月3日(金)
テーマ 優良中小企業の見分け方
講師 大阪中小企業投資育成株式会社 室長 福原 脩二氏 次長 坂田 晃氏

◆就職説明会
(第1回)
開催日 62年4月17日(金)
テーマ 就職活動を始めるにあたって
講師 (株)リクルート 事業推進課長 三原 速男氏
(第2回)
開催日 62年7月3日(金)
テーマ 優良中小企業の見分け方
講師 大阪中小企業投資育成株式会社 室長 福原 脩二氏 次長 坂田 晃氏



63年度 推薦入学選考日程

◆特技(スポーツ)推薦
出願期間 62年10月19日(月)～10月23日(金)
選考日 62年11月6日(土)
合格発表 62年11月14日(土)

◆普通科・商業科対象推薦
出願期間 62年11月24日(火)～11月27日(金)
選考日 62年12月6日(日)
合格発表 62年12月12日(土)

◆63年度入学試験概要
1 募集学部・学科・人員
経済学部 第1部 経済学科 550名

7月8日(水) 大阪市 東洋ホテル
大阪・三重・滋賀・京都・奈良・和歌山・富山・石川・福井・大分各府県の高専対象

6月24日(水) 岡山市 岡山タミナルホテル
広島・岡山・山口・島根各県の高専対象

7月2日(木) 神戸市 神戸東急イン
兵庫県の高専対象

6月23日(火) 高松市 高松グランドホテル
香川・高知・愛媛各県の高専対象

◆推薦入学説明会の開催
入試部では、普通科高専対象の推薦入学説明会を、推薦依頼校20校を招き次のとおり実施しました。

6月23日(火) 高松市 高松グランドホテル
香川・高知・愛媛各県の高専対象

6月24日(水) 岡山市 岡山タミナルホテル
広島・岡山・山口・島根各県の高専対象

7月2日(木) 神戸市 神戸東急イン
兵庫県の高専対象

7月8日(水) 大阪市 東洋ホテル
大阪・三重・滋賀・京都・奈良・和歌山・富山・石川・福井・大分各府県の高専対象

「現代世界経済をとらえる」
 東洋経済新報社 62年1月 247ページ
 定価 1,400円

千葉勇夫著
 「行政指導の研究」 法律文化社
 62年3月 284ページ
 (大阪経済大学研究叢書 第15冊)
 定価 4,500円

行政法学に「法による行政」という原則があります。行政を法によって拘束し、行政の恣意を抑止しようという原則です。今ではこれが「指導による行政」によって置き換えられ、現代行政の特色をなしていると言っても過言ではありません。行政指導という言葉の起ころは多分マスコミからだと思えますが、日常の用語にも使われるほど生活に深く大きな影響を与えてきております。しかし私たちはそのことに殆ど奇異の感を持っておりません。ところが行政指導といっても多種多様であって、現実の法律の不備を補って私たちの生活の安定や良環境の維持に資するもの(たとえば地方自治体による宅地開発規制の指導など)がある一方では、他に単なる行政の便宜の

ためだけの、あるいは特定の産業界との癒着からの、国民の「お上意識」を利用した、結果において私たちの権利や自由の侵害につながるものがあります(たとえば石油カルテル形成の指導など)。行政指導はいわば両刃の剣といった性格を持っております。この書ではこういった善玉と悪玉の選別を前提にしなが、国民・住民の基本的人権を守っていく上で、行政指導にどのような法的拘束を加えていくことが必要かという観点に立つての検討を試みました。新聞記事を拾うことなどを日課としながらできるだけの行政実例を収集し、殆どもうら的に集積された判決例の分析を心掛けましたが、理論的な説明という点ではまだまだ不十分どころが多く残ってしまいました。

山本晴義著
 「現代思想の焦点」 勁草書房
 62年5月 159ページ
 定価 2,300円



開催日 62年5月12日(火)
 場所 ホテルプラザ
 講演 日本経済のゆくえと今後の課題
 日本経済新聞大阪本社
 経済部長 鞍田 暹氏
 出席者 195名



就職講座

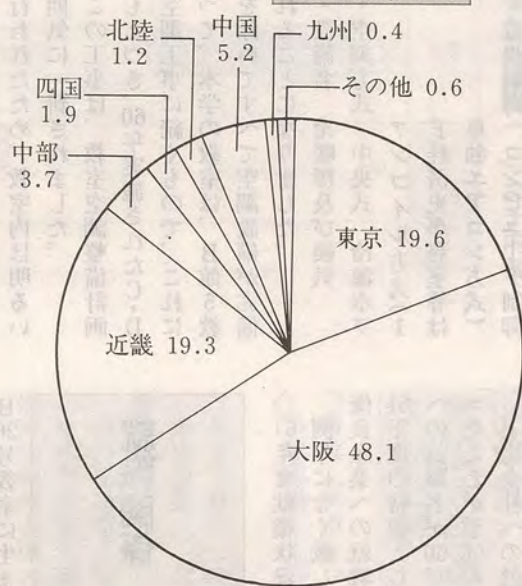
(第1回)



就職部では、昨年に引続き、長尾晃氏(8)を講師に迎え、面接の心構えとして、話し方や聞き方などの指導があり、有意義な講座でした。

開催日 62年5月21日(木)
 開催日 62年6月12日(金)
 テーマ 優良企業にパスする為の対策と採用基準
 講師 (株)アイベック
 人事研修部長 小野沢 利邦氏

地域別就職状況



国庫助成

私立大学等経常費補助金
 昭和61年度
 61年11月19日付で申請していただいた標記の件について、62年8月28日付で確定通知がありました。
 (確定額) 410,616,000円
 (海外研修派遣補助金を含む) 1,528,000円を含む
 前年度比14.4%増

新刊紹介

谷口明丈・塩見治人・溝田誠吾・



学内刊行物
 「藤田敬三教授追悼論文集」
 (大阪経大論集 174号) 61年11月
 故藤田敬三先生一周忌のご命日に発行し、ご霊前に捧げました。
 同書はA5判64ページ、5部構成で論文27点、追悼の記13点。

「経済史文献解題」昭和61年版
 日本経済史研究所編 清文堂出版
 61年12月 460ページ

シンポ「行財政改革を考える」
 61年11月6日(木)午後2時から5時まで「行財政改革を考える」民間活力論の虚像と実像」と題した、第2回経大生のためのパネルディスカッションがD16教室に

業種別就職状況



宮崎信二共著
 「アメリカ・ビッグビジネス成立史」 東洋経済新報社 61年10月
 322ページ
 定価 3,900円

山田裕康・風呂本淳子共訳
 アレクシス・デヴオー著
 「言いわけしないで」―ヒリー・ホリデイの歌―
 国文社 61年12月 173ページ
 定価 1,300円

松村文武・杉本昭七・関下稔・藤原真雄編



本学で開催された
 学術講演会・学会

当日は学会を代表してまず山本晴義学長よりあいさつがあり、続いて重森暁教授の総合同会によって活発な報告と討論が行われ、予定終了時間を30分も超過しました。参加学生約300名。

最初に重森教授より「行財政改革の概況とシンポの運営について」の説明があり、引き続き次記の基調報告が30分ずつ行われました。

おいて行われました。
 当シンポは大阪経大生会主催によるもので、60年に実施した「日米経済摩擦を考える」に続く2回目にあたり、学生会員に対する学会の積極的な取り組みです。

開講状況は次のとおりです。
〔定員および申込者数〕
当初定員 150人 申込者数 651人
〔出席者数〕
延人員 1097(92)人 ()は女性内数
第1日 235(25) 第2日 215(20)
第3日 161(12) 第4日 171(11)
第5日 155(14) 第6日 160(10)
〔アンケート結果〕
①アンケート結果
②アンケート結果
③アンケート結果
④アンケート結果
⑤の項目、アンケート②は毎週配布で⑥の項目



から10月17日にかけて第4回公開講座を行いました。

居 勤	居住地・勤務地 (%)						合 計
	大阪市内	大阪府下	京都府	兵庫県	奈良県	他不明	
大阪市内	43	4	0	3	0	10	60 (23.9)
大阪府下	61	31	1	3	0	14	110 (43.8)
京 都 府	3	0	0	0	0	3	6 (2.4)
兵 庫 県	28	3	0	17	0	9	57 (22.7)
奈 良 県	11	0	0	0	2	2	15 (6.0)
他 不 明	1	0	0	0	0	2	3 (1.2)
合 計	147 (58.6)	38 (15.1)	1 (0.4)	23 (9.2)	2 (0.8)	40 (15.9)	251 (100.0)

居住地・勤務地	年齢 (%)						合 計
	不明	60代	50代	40代	30代	20代	
不明	2	55	52	50	36	56	204 (81.3)
60代	(0)	(1)	(0)	(4)	(5)	(17)	27 (10.8)
50代	0.8	21.9	20.7	19.9	14.4	22.3	136 (54.2)
40代							22 (8.8)
30代							8 (3.2)
20代							28 (11.2)
合 計							261 (104.1)

職業	職業別による知った方法 (%)									合 計
	新聞記事	新聞広告	ちらし	阪急ポスター	地下鉄ポスター	市バスポスター	告知板ポスター	人に誘われて	他・不明	
自営業	12	4	0	5	2	1	0	1	2	27 (10.8)
会社員	44	21	6	18	19	9	1	4	14	136 (54.2)
公務員	8	4	0	3	3	1	0	1	2	22 (8.8)
主婦	2	1	1	3	0	0	0	1	0	8 (3.2)
学生	0	5	7	2	1	0	2	2	9	28 (11.2)
他不明	11	10	3	6	1	0	0	3	6	40 (15.9)
合 計	77 (30.7)	45 (17.9)	17 (6.8)	37 (14.7)	26 (10.4)	11 (4.4)	3 (1.2)	12 (4.8)	33 (13.2)	261 (104.1)

※重複回答あり 除数は251

◇第5回公開講座概要
日本の社会は21世紀にむけて歴史的な転換期にある。急テンポで進む情報化・国際化の波。経済大国・債権大国となった日本。しかし、長引く円高不況、産業空洞化と失業の増大・・・わたしたちの先行きはますます不透明になりつつある。いま求められているのは、「豊かさ」とらえなおし、創造していくことである。
次々と打ち出されてくる諸「改革」はこの期待にこたえうるだろうか。「四全総」による地域社会への影響、産業空洞化がもたらす雇

合 計	受講後の感想 (%)					
	非常に役に立った	まあまあよかった	難しかった	もっと専門的に	その他・不明	重複回答あり
877	431	268	115	41	22	877
104.5	51.4	31.9	13.7	4.9	2.6	104.5

◇第4回公開講座アンケート結果
「いま 日米経済摩擦を考える」をメインテーマに、61年9月5日

◇日本文体論協会第50回大会
61年11月8日(土)9日(日)の両日、本学の50周年記念館を会場にして、日本文体論協会第50回(全国)大会が開催されました(参加者約100名)。
大会は8日、三つの研究発表(本学の谷行博助教授も発表)があり、続いて両日にわたって「翻訳の文体をめぐって」というシンポジウムが行われました(第一部 外国

◇学術講演・懇談会の開催
62年4月27日(金)午後3時から5時半まで、記念館7階会議室において左記の学術講演・懇談会が開催されました。
講演 開発援助と工業化—タ

●62年5月19日(火)午後0時半から2時まで、記念館4階大会議室においてガバン・マコーマック氏(オーストラリア・ラ・トロップ大学)の「南(ダウン・アンダー)から見た新太平洋時代」と題する講演が行われました。
学長のあいさつの後、会場を埋めた教職員・学生約30名は、流暢な日本語で語りかける講演内容に熱心に聞き入っていました。
その後、記念館7階会議室に場所を移し、午後2時から3時半ま

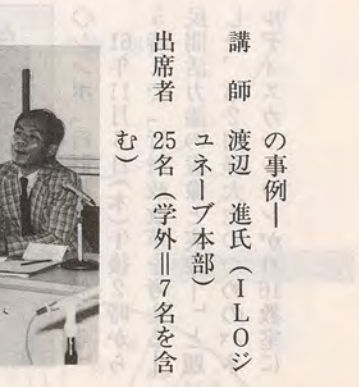
「公企業改革の国際比較—国鉄問題を中心に」
上田 慧(本学教授)
「税制改革と民間活力」
鶴田 廣巳(本学教授)
「行財政改革を考える」
伊東 光晴(京大教授)

◇工業経営研究会創立大会
62年4月11日(土)、本学を会場として工業経営研究会の創立大会が開催されました(参加者約60名)。
大会は二つの基調報告と田杉競氏の記念講演が行われ、設立総会・役員会および懇親会等が盛會裡に開かれました。
当学会は6年前に15名で発足した「現代工業経営研究会」に端を発し、このたび約130名の会員を擁する学会として設立されました。今後の発展と活躍を期待したいと思います。

●62年5月19日(火)午後0時半から2時まで、記念館4階大会議室においてガバン・マコーマック氏(オーストラリア・ラ・トロップ大学)の「南(ダウン・アンダー)から見た新太平洋時代」と題する講演が行われました。
学長のあいさつの後、会場を埋めた教職員・学生約30名は、流暢な日本語で語りかける講演内容に熱心に聞き入っていました。
その後、記念館7階会議室に場所を移し、午後2時から3時半ま

文学作品の日本語訳、第2部『源氏物語』の各国語訳。
なお、開催期間中、同記念館6階の情報処理実習室で「日立翻訳支援システム」のデモンストレーションが行われました。

の事例—
講師 渡辺 進氏(ILLOJ ユネーブ本部)
出席者 25名(学外17名を含む)



で研究者だけによる懇談会が松村文武教授の司会で行われました。(学内8名、学外3名)
◇その他の学会
関西中小企業研究会
日本経営学会(関西支部会)
日本商業学会(関西支部会)
土地制度史学会(近畿支部会)
日本中小企業学会(西部学会)

本年度はじめておこなわれた新入生歓迎フェスティバルは、人生の最も大切な時期に大学生活をはじめめる学生諸君が、それぞれのキャンパスライフを創りだすために役立てようと企画されたものです。午前中は教職員、クラブ学生との交歓が、午後からはフィルムによる大学紹介が行われ、一日も早く新入生が学生生活に溶け込めるよう配慮がなされました。特に、学長はいさつの中で学生生活の大切さを新入生に訴えられました。



協力をした「ちゃらんぼらん」OBコンビ、ゲストの笑福亭鶴瓶さんは、お笑いのなかで、先輩としてきめ細かく新入生に語りかけました。

◇イギリスはレトロか!?
今回で4回目をむかえた「春のTalk and Talk」は、「イギリスはレトロか!?」ヨーロッパ見たまま感じたまま(留学体験談)と題し、62年5月27日(水)50周年記念館4階視聴覚教室にて帰国直後でまだ留学中の券囲気が漂う渡辺泉、小林龍一両先生に体験談を座談会風に語って頂きました。毎回ゲストの先生と趣向を凝らし、企画するのですが、今回は学生の協力も得ようということになり、司会は独立総部の文化放送局(須崎隆二君)経済3年、石原明彦君(経営3年)、広報・宣伝のポスター作成は広告研究会(部員19人全員で作成)の皆さんにも参加してもらいました。

内容はイギリスの印象、物価比較、大学の様子、専門の研究のことなどを、留学中の写真をスクリーンに拡大して説明され、熱の入ったものになり、会場も学生、教



◇久保(富岡)きみ様が記念館に絵画を寄贈
このたび旧職員でもあり、黒正先生のお手伝いを長い間してこられた久保(富岡)きみ様から、自作の油絵20号を記念館に寄贈されました。鎌倉に在住の久保さんは、たまたま岡山への旅行の道すがら、本学に40年ぶりに立ち寄り、62年2月27日(金)11時30分、理事長室において鈴木理事長、山本学長に



絵画を披露、贈呈されました。理事長からはお礼の感謝状をさし上げました。

絵のモチーフはヒレネ山脈の東南、ボナギユールにある13、14世紀封建領主の城、フランス革命時に破壊されたのが今も現存しているとか。主婦業の傍ら絵筆をもち始めて8年の久保さんが、メルヘン調に構成された作品で、61年1月製作。題して「残照—ボナギユールの廃墟—」。昨年5月、銀座で開催の個展に出品した作品、プロから一応の評価を受けられたもので、思い出深い経大の記念館にと贈られました。(86ページ参照)

用不安、円高不況のなかで行政・公共部門の果たすべき役割などを考えてみよう。

高齢化時代の家族とくらし、生涯にわたる豊かな教育、それらを保障する税制・行財政機構の在り方にも目をむけよう。

新しい社会像を求め、わたしたちの手で21世紀にむけたライフスタイルを探ってみよう。

メインテーマ
『豊かになるか 日本の社会』
21世紀のライフスタイルを求めて
日時 昭和62年9月18日(金)
10月23日(金)
午後6時30分～8時30分
場所 大阪府立文化情報センター
スケジュール
9・18(金) かわる産業、変身する国土 森川 滋
9・25(金) 産業の空洞化と雇用の調整 和歌山大 佐野 稔
10・2(金) 変えられるか、日本経済のしくみ (内需拡大と公共部門の役割) 重森 暁

10・9(金) 「家族の危機」を迎えて (高齢化社会の諸問題) 土井 乙平
10・16(金) これからの教育を考える (臨教審答申と生涯学習を軸に) 滝内 大三
10・23(金) どうなる、くらし・税金・財政 鶴田 廣己

◇62年新聞紙上での本学記事 (抜粋)
1/2 1600人迎え歓迎フェス (読売)
4% ちゃらんぼらんじゃあかんよ OB漫才師招き新入生の歓迎会 —大阪経済大イキナ催し (朝日)
5/9 関六 大経大6季ぶりV (読売 朝日 毎日 サンケイ)
5/21 流さんの影刻除幕 大阪経済大50周年記念 (朝日)
5/23 自由と融和のシンボル (読売 夕刊)
5% 酒井投手 (大経大)がMVP



5% 図書 現代思想の焦点 (山本晴義)
1% 本末転倒だった税 寺にも果たすべき責任 重森暁教授 談 (朝日夕刊)

その他の行事
新入生歓迎フェスティバル開催
「創りだそうマイキャンパスライフ」のスローガンのもとに、62年4月25日(土)、万博記念公園で左記のプログラムによりおこなわれました。

記
9:00 大学よりバスで万博へ
公園東の広場
10:00 クラブ出演
11:00 開会宣言 総合司会 ち
やらんぼらん
11:20 実行委員長挨拶
11:15 スケジュール説明
昼食・歓談
11:50 マスゲーム 吹奏楽部
12:00 バントントワーリング
12:00 ゴミの処理(全員)
ホールへ移動
12:30 万博ホール
12:35 学長挨拶
13:00 「大淀の水は春ゆく」
13:30 経大紹介フィルム上映
14:35 漫才 ちゃらんぼらん
14:50 鶴瓶フリー・トーク
副実行委員長 閉会の辞 指導

支部別入金額累計 (単位: 円 62.10.30現在)

支部名	累計	
	件数	入会額
東京	190	13,896,000
東海	44	1,588,000
岐阜	20	790,000
滋賀	37	750,000
京都	106	2,996,000
大阪市役所	36	1,068,000
大阪市	254	7,130,000
北摂	49	1,256,000
豊中	63	1,618,000
西宮	157	4,089,000
神戸	130	3,063,000
東播磨	72	1,409,000
姫路	49	990,000
岡山	133	2,057,000
広島	80	2,250,000
山口	25	660,000
北九州	56	981,000
南九州	27	1,150,000
福井	41	765,000
石川	27	425,000
富山	25	535,000
香川	44	702,122
愛媛	37	725,000
徳島	29	515,000
高知	18	360,000
丹有	85	1,115,000
奈良	111	2,600,000
三重	36	1,025,000
南	27	1,670,000
和歌山	98	1,494,000
鳥取	10	135,000
島根	21	333,000
北海道	5	335,000
未支部分	620	21,505,490
合計	2,762	81,980,612

卒業回生別集計 (昭和62年10月30日現在)

卒回	累計	卒回	累計
1	1,080,000	28	705,000
2	720,000	29	925,000
3	3,630,000	30	1,463,000
4	330,000	31	1,179,222
5	790,000	32	1,693,000
6	1,670,000	33	1,696,000
7	3,190,000	34	1,225,000
8	1,550,000	35	1,447,000
9	3,110,000	36	1,398,000
10	5,410,000	37	1,241,000
11	4,093,000	38	955,000
12	1,815,000	39	854,000
13	2,370,000	40	805,000
14	1,240,000	41	461,000
15	1,329,600	42	426,000
16	745,000	43	468,000
17	1,330,000	44	337,000
18	920,000	45	532,000
19	12,060,000	46	611,000
20	760,000	47	444,000
21	1,523,000	48	471,900
22	1,250,000	49	458,000
23	1,875,000	50	402,000
24	940,000	51	1,132,000
25	1,130,000	52	558,000
26	1,085,000	他	50,000
27	1,315,000	OB会	2,832,890
計			81,980,612

募金事務局から

50周年募金活動については、「募金活動NEWS」No.1～5 ('85.10.9～'87.5.20)でお知らせしてきました。ここで一応募金は終了したものの、まだまだご協力が続いていますので、その後の集計金額ならびにご芳名を記載しました(50,51ページ)。
 なお、免税措置につきましては、'88年10月まで取り扱いはできるようになっています。

「後輩のためにご尽力を」

ゼミの卒業生諸君お元気ですか。小生この春までの学部長を終え、落ち着いて研究しなければと思っておりましたが、6月からまた就職部長をすることになりました。慣れぬ仕事ですが頑張っています。そこでお願いを一言、「諸君の後輩の就職のために一層のご尽力を」なお、時には元気な顔をみせて下さい。

松原 和男 先生

法然院にて恩師を偲ぶ

敬友会 (藤田ゼミOB会)

故藤田敬三博士のゼミナリスト有志が、去る6月27日(土)午後、洛東獅子谷「法然院」に参集し、今秋11月29日三回忌を迎えられる故博士を偲んだ(参列者17名)。
 参会者は方丈にて休憩、懇談の後、紫陽花に飾られた本堂で法要を務め、引き続き境内

での墓参を行ったが、若き新住職の次の言葉が印象的であった。

「……藤田先生は無宗教とお聞きしていますが、ズッシリとした、当墓地の重しのような墓石の下で、きつと、皆様方教え子がこのようにお集まりになっていることを苦笑しておられることでしょうか。……」

境内を散策したのち琵琶湖畔の宿泊地に向かったが、マイカーに分乗しての洛北、途中越、琵琶湖大橋のドライブも楽しかった。そして展望風呂で汗を流した一行は深夜遅くまで昔話と近況報告、更に再会と今後の敬友会運営について話し合った。翌日はそれぞれ比叡山、湖北方面へとドライブを楽しみ解散した。

敬友会では『同窓会名簿』で240名を把握しており、不参加だった会員からも多数のお返事をいただいた。名簿不掲載の会員からのご連絡を待っている。

敬友会事務局 波根 伸俊
 (母校庶務課勤務)

先生の近況

大河小説に挑戦

平 實 先生



今日は！御無沙汰しています。小生のゼミで勉強された諸君、また小生の講義を聴いていただいた諸君も多いことと思います。皆さん御元気で活躍しているらっしゃいますか。

小生も経大を完全にリタイアしてからは、もっぱら文筆の仕事に打ち込んでいます。経済学関係の堅い論文もさることながら、いささか柔かいエッセーの執筆に余念がありません。エッセーを書いているときは、小生にとって愉しい充実した時間が続くのです。

他に文芸ものとして二つの短歌結社と同じく二つの俳句結社に加入して、作歌、作句に励んでいます。特に短歌は小生が最も熱を入れているもので、青年時代から何冊かのノートに書き溜めておいた約

ゼミのテーマは「経営診断」

浜本 泰 先生

浜本ゼミOB諸氏お元気ですか。日々ご精進のことと思います。ゼミ現役も頑張っております。また、関西学生経済ゼミ大会、日本学生経済ゼミ大会には、毎年参加しておりますのでご安心下さい。最近のゼミのテーマは「経営診断」です。

OB諸氏のご健勝とご奮闘を祈ります。

ロンドン大学留学

渡辺 泉 先生

昨年(1986年)4月から今年の3月まで、ロンドン大学で1年間留学生生活を送ってきました。膨大な史料が、驚くほどの完全さで保管されているのには、さすがにイギリスだなあと感心させられました。

なにやかにやで、すっかりイギリス好きになっちゃいました。特別、外国崇拜主義者というわけではないのですが、日本の余りの喧嘩さと日本人の余りのモラルの低さに、未だに逆カルチャー・ショックから抜けきれません。心に余裕をもって生きたいものだとしみじみ感じています。

体のほうも、別段、異常はありません。研究も少しずつですが進めています。皆さんの活躍を祈ります。

先生の近況

3千余首の中から整理して、『薔薇の宴』および『生の奔流』と題する二歌集を出版しました。今年中に第三歌集『天衣無縫』を出す予定で、いま着々と準備中です。

それ以外に、相当、長編にわたる大河小説を書く積りで、2、3年前から構想を練っていますが、仲々まとまりません。だからこの方は当てにしないで下さい。幻の大河小説に終わるかも知れませんが……。

諸兄たちの御健勝と御活躍とを切にお祈り申し上げます。また会う日まで、さようなら！

「来春よりは人と遊ばん
駄句求め」

田中 健一 先生



田中ゼミ卒諸賢には、益々御健勝で各界に御活躍の趣、大慶至極です。昨年度も広報部長の要請があつて、昭和26年度から60年度までの、非常勤講師・専任教授・特任教授の勤務年数を合算、「大経大三十五年間の回顧から要望へ」を、菁莪と愛学心のゆえに苦言的に原稿用紙25枚にわたって御掲載を希ったのですが、個人的寄稿には長文すぎるの理由で没書さ

報告、講演、原稿の日々

松村 文武 先生

卒業生の皆さんお元気ですか。本年度のゼミは、I部3、4年は共に20名、II部4年1名、計41名となっております。本年はカリキュラムの改善があり、88年度ゼミからI部16名ゼミということになりました。ゼミ教育がより充実したのになると期待しています。

小生の近況としては、周知のように国際経済問題が依然として焦点であるため、報告、講演、原稿等に追いまわられています。学位問題が済みましたので小休止したいのが本音なのですが……。

さて悲報を一つ、82年3月卒の北川純夫君(本ゼミ第4期生)が今年6月に亡くなられました。本誌を借りてご報告申しあげると共に、慎んでご冥福を祈りたいと存じます。

最後にOBの皆様のおますますのご活躍を期待して筆をおきます。

信州、黒姫高原へゼミ旅行

竹林 祐吉ゼミ

わが竹林祐吉ゼミナールは、今年5月下旬に2泊3日のスケジュールで、信州、黒姫高原へゼミ旅行に行ってきました。夜のカラオケ太会などでは、いつもの授業中の静けさと

はうってかわって、声援に混つての暴言も飛び出し、異常なまでの盛り上がりを見せました。

また、翌日の濃霧の中でのソフトボールは、バッターボックスから外野手を、どこや、どこやと目を皿にして探してかすかにみつけ出せる有様で、特に外野の守りは悲惨で、大乱戦になり思い出深いものになりました。この旅行で一体感といったようなものが生まれたように感じました。

就職活動のほうは、決定の人もいますが、最低とりあえず行き先はあるといった状況です。残りの学生生活、有意義に過ごしたいと思えます。

前川 崇司(4年生)

ゼミ旅行は青函トンネル

稲原 康雄 先生

かつては交通ゼミの名物とも言われたゼミ旅行も、此頃は下火になってきた。学生と私との年齢差が開き過ぎて話が合わなくなったせいもあるが、海国男児が今では空には強いが海には弱くなったせいでもある。しかし昭和61年12月21日出発、青函トンネル記念館を目指した旅は、鉄道研究会の内貴幹事飯田補佐の御膳立て総勢19名、国鉄最後の渡道とあって盛大であった。

青函連絡船羊蹄丸は乗客寥寥、静かな冬の海を片道6、600の燃料を費して津軽海峡を縦断した。木古内までは既に8割がた新幹線なみの複線電化が完了していたが、そ

先生の近況

れたため、かえって老生の消息にご心配かけ、お問合せ戴いたり恐縮に存じております。

本学新規約にかにより、77歳で非常勤講師も勇退となりましたが、44年、49年頃の役職等によるガタガタ病体から、55年特任教授以降の諸職務解放後は、文字通り健(康)一番に回帰して、お陰様で体重も恒常的に64kgを保持しつつ、関西大学(商学部)・金蘭短期大学で非常勤講師を続けさせて戴いておりますから、何卒ご安堵下さい。

然し、老生も昭和8年京都大学卒直後から、既に教壇生活55年を経験し、学究的業績は顕著なもの多く残し得ませんが、教育者的功烈を自是自矜して、本学年度限りを超時に引退し、58年頃からの夢——愚息(仏文学大学教授)や孫二人と同居し、4年の名古屋市居住後、51年間愛住の芦屋・西宮地区から、来年3月初め出身地富田林市に近い八尾市に転住の上、余生を「残した研究物の整理」、「趣味的な我流俳人生活」、「ナツメロ愛吟」、「仏門帰依」、「教え子を訪ねての旅遊」等に明けくれないと望んでおります。教育者勤労自体の意義を見出していた教職生活に終止符をうち、現場の教え子と切り離されると、やはり一抹の淋しさは拭えないと思えますが、幸い、大経大の図書館側も教職課程教職員らも、研究続行に好意的な御協力を願えますので、より意欲的

れより先の松前線は廃線準備完了といったロ
ーカル路線、国鉄の乗り納めにふさわしい趣
があった。

青函トンネルとは、水面下140メートル、海
底下100メートルを貫通する54キロメートルの
要塞線である。これは列車が走る本坑だけで
はない。工事中も完成後も本坑を補助する作
業坑があり、更に先進導坑があり、それ以外
に何本かの試掘坑がある。それは、平和的文
化国家としては、海洋調査実験の海底基地と
して世界に開かるべきものであろうが、行政
的軍事的手段としての通路の歴史的な意義に
思いを致せば、中曽根首相がレーガン大統領
に三海峡封鎖を約束した不沈空母日本発言の
根拠が理解されよう。今春、東芝機械のNC
旋盤輸出コム違反事件でソ連潜水艦のスク
リュー音が問題となった時、改めてゼミ旅行
が回想された。

過去をふりかえり、 定年後を展望

井上 清 先生

本年度の小生のゼミは、3回生と2回生(教
養ゼミ)の2組で、4回生は担当していませ
んが、就職状況は昨年なみか、少しましとい
ったところでです。

永かった本学での小生の現役勤務も、やっ
と本年度末をもって終わり、定年を迎えます。
したがって本年度は小生にとって40年の現役
勤務のしめくくりの年度として、過去をふり

かえり、定年後を展望する意義ある年度とい
えます。何れ又、皆さんに激動の40年を語る
機会があるかと思っています。現在、幸い
一昨年来、健康を回復・維持していますので、
次々トライしてみたいことが多く、希望のあ
る毎日を過ごしています。しかし日本経済の
姿は、円高2年で「構造調整」、大企業の多国
籍化、産業「空洞化」、人べらし「合理化」、
倒産・失業の増大、地価狂乱、マル優廃止、
コム事件、外為法改悪等みじめなものです。
しかしそれでも歴史の発展法則に基づき、日
本経済に作用している「深部の力」を掴むこ
とができるなら、明るい展望がひらけてきま
す。そこには敗北主義はありません。元気で
頑張りましょう。

新役員改選

北里 武三ゼミ

9月6日の日曜日、北里会恒例の総会が阪
急長岡天神駅近くの「あら八」にて盛大に行
われました。

出席者は、北里先生ご夫妻をはじめ、泉谷・
松本両教授、比企同窓会副会長のご参加を得
て、総勢25名で総会及び懇親会が開かれまし
た。

先生ご夫妻共々大変お元気で過ごされてお
られます。また、先生から「私は、毎朝4時
に起きて大日如来(太陽)を拝み、毎日を家
内と座して過ごしています」。そして、水野南
北の仏教本の教えとして「人それぞれに天祿
が与えられている(分限が出来ている)ので

先生の近況

えさせられました。

小生は本年3月で特任教授を退任、ゼ
ミナールはもっていませんが、講義の方
は週2回非常勤で担当しています。

ゼミ卒業生の諸君から、過去12年間続
いて中断の格好になっている倉春会を早
く再会してほしいとの便りを時々もらい
ます。小生としては、これまでの形式に
こだわらず、たとえ10人前後の人数で
もよい、気楽に集まれる会を、ゼミ卒業
生の2、3の人たちに音頭をとってもら
って開けたらと期待しています。

テニス13年、長唄10年

鯉田 勝巳 先生

ゼミも昭和60年で
なくなりりましたが、
金曜日の経営分析は
夜2時限開講してい
ます。



一度同窓会を開催して語り合い、ゼミ
名簿を完成したいと思っていますので、
新住所、電話等近況をご連絡下さい。
私はテニス13年、長唄10年にもなりま
したが一向に上手になりません。
健康に気をつけてがんばって下さい。

恒例の北陸、金沢ゼミ旅行

松本 剛 先生



1、ゼミ生は3、4回生とも20名。3回生
のゼミ旅行は3年続けて北陸、金沢です。こ
れは幹事が2万5千円という予算で行けるこ
ろをいろいろ考えた結果です。3年連続同
じところというのも、交通費高騰という世情
の反映です。

2、新卒業生から仕事ぶりを伝える葉書が
届きます。次は、ある大学の職員として仮採
用になったA君の作品です。いい作だと思
いませんか。

薄手なる湯呑みの湯茶の熱さにも
お茶くみとともに慣れはじめたり
3、ゼミ同窓会については別のページに記
事がありますので、見て下さい。

先生の近況

に没頭できるのではないかと期待し感謝
しております。それが、老生の『エデュ
ケートピア(教育理想郷論)』として最終
著書となりましょうか。

翻りますに、わが国の経済は高度成長
から低成長時代に入り、他面、高齢層
のウエイト高まり、いわゆる逆ピラミッ
ド型社会に移ってきたといわれる客観情
勢の今後、第一線で活動なされるゼミ
生諸賢よ、どうか人間としての生甲斐を
真剣に考えられ求められつつ御健闘あり
たく、ひたすらに諸賢の御自愛・弥栄を
お祈りいたします。また、コンパ・空桶
会を楽しませて下さい。

来春よりは人と遊ばん駄句求め

「倉春会」再会へ

倉辻 平治 先生



今年の夏、北信州
の方へ出かけてきま
したが、妙高・黒姫
山麓の人口2千人位
の小さな町のスパーで、カブト虫の雌
が一匹200円で売られていたのには驚
きました。東京あたりの大都市ならとも
かく、こんな田舎町にまで、自然と子供
たちの生活との隔離がコマースヤリズム
の手で進められているのかと、改めて考



加入者名 北里会 宛ご送金下さい。
住所変更その他ご不明等ございましたら
左記までご連絡下さい。
越川 昇

○60・61・62年度の運営費として3、00
0円を徴収させて頂きますので、何卒、
ご理解いただきましてご協力下さいませ
ようお願い申し上げます。
○運営費につきましては、郵便振替にてお
願い致します。

リラックスした剛友会総会

松本ゼミO B会

第2回『剛友会』総会が、立派な50周年記念館が完成したこともあり、4年振りに昭和62年1月15日(成人の日)、同窓会ホールにて開催されました。

松本剛先生の卒業生も20回目を数えることになり、卒業生の職種もバラエティに富んできました。当日は、ただハガキによるお誘いの連絡のみでしたが、各地より約40名の出席者があり、同窓会本部より比企事務局長のご出席をいただきました。また、生協からは心のこもった準備をしていただき、カラオケに始まり、リラックスした雰囲気の中に女性を交えての楽しい一刻を過ごしました。

また、出席者全員の賛成のもと、わずかでしたが、記念館完成のお祝いとして寄付をさせていただきます。

次回総会は連絡を密にして、5年位先に盛大に開きたく思っております。

微力ながらもますますの経大の発展と、同窓生の皆様のご多幸を、陰ながらお祈りいたします。

植村 祐三(32)

ゼミ短信



体育会

トビックス

●少林寺拳法部

関西学生少林寺拳法演武大会

自由組演武・藤木(4)、坂本(4)組

優秀演武賞受賞

●硬式野球部

関西六大学野球春季リーグ戦

優勝

●軟式野球部

全日本軟式野球選手権大会

近畿六大学準硬式野球春季リーグ戦

優勝

●ハンドボール部

西日本学生ハンドボール選手権大会

第2位

●卓球部

関西学生卓球選手権大会

坂本(3)、水田(3)組 第2位

●バドミントン部

関西学生バドミントン選手権大会

62・5

森山(2)、藤原(1)組 第4位

●カヌー部

全日本学生カヌー選手権大会

富山(3) SK-1、1チム 第2位

62・8

●重量挙げ部

西日本学生ウェイトリフティング選手権大会

団体総合 2部 第2位 1部復帰

62・6

淀都五大学

総合定期戦

伝統ある淀都五大学総合定期戦も本年24回を数え、期間は5月23日～6月6日の2週間にわたり、熱戦が繰りひろげられました。今回もさらに連続優勝を目指し戦いましたが、例年優勝する種目を落とし、他大学にせまられる苦しい戦いになりました。だが後半の頑張り、第9回大会以来、連続16回、通算22回目の優勝を果たしました。

硬式野球部

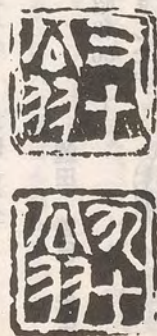
我々硬式野球部は、今春の関西六大学リーグ戦において、優勝するこ

数え年90を記念して

岩井 茂 先生



小生おかげ様で元気に過ごしています。去る8月27日に満89歳になりました。視力は衰えておりますが、数え年90を記念して次の様な印を刻しました。ご笑覧下さい。



読書もままならず

岡村 正人 先生



今から回顧しますと、大阪経済大学で特任教授として、やさやかな講義をしていくときが、最後の花でした。只今、同志社で大学院の講義をしていますが、その準備に必要な程度の読書しかできないのが現状です(目も少し悪くしているため)。本来気の弱い私ですので、できるだけ気力を強くするように努めております。

とができ、部員一同全員が本当に心から喜んでいきますし、また応援して下さった皆様にとっても感謝しております。ただ残念で悔しかったのは、リーグ戦では優勝しましたが、関西代表決定戦で奈良産業大学に延長19回の

末、惜しくも負け、全日本大学選手権に出場することができなかったことです。そういう悔しい経験をステップにして、部員全員が秋季リーグ戦に向けて日々練習に励んでおります。



卓球部

海外遠征

8月15日から18日までの4日間、関西学生卓球連盟チームの一員として、学連としては初めての海外遠征でもある台湾遠征に参加させていただきました。

このチームは男子5人、女子4人のチームで、関西選手権で上位に喰い込むことができたので、自分も運よく選抜してもらえました。15日に大阪空港から台北に夜8時頃到着、16日・17日は台湾のチームと団体戦を行いました。最近台湾は、世界一でもある中国を破るなど、力をつけてきているの

を胸を借りるつもりで試合に臨みま
した。

16日は栄工チームとの対戦で、こ
のチームには台湾のナショナルチ
ームのメンバーが2人入っており関西
学連は3セット取っただけで0-9
で敗けてしまいました。

17日は合作金庫チームと対戦、ナ
ショナルチームのメンバーは1人で
昨日の敗けを忘れ、新たな気持ちで
臨んだのですが、3-6と近畿大学
の選手が3点取っただけで敗けてし
まいました。

自分は0勝3敗とチームに貢献す
ることができず、非常に残念でした。
しかし、この遠征に参加して、台
湾の人達や文化と触れ合うことが出
来て、大変良い勉強になったと思
います。

軟式庭球部

全日本学生第4位

今年8月8日から兵庫県神戸ロー
ンテニスコートに於いて、第42回三
笠宮賜杯・全日本学生軟式庭球選手
権大会が開催されました。

そして我が軟式庭球部、玉置良行
(4)・北川靖規(2)組が見事第4位にな

りました。

今回、玉置・北川組はまず1回戦
はシードされており、2回戦国学院
大学の日高・秋山組と対戦し5対4
で勝ち、3回戦も中央大学の徳野・
奥田組に5対4で勝ちましたが苦し
いスタートでした。

4回戦、5回戦からは二人共しり
上がり調子を上げ、5対3・5対
2と連破し、この辺りから玉置・北
川組の快進撃が始まりました。

そして6回戦では法政大学の石
井・阿倍組と対戦し、玉置のストロ
ーク・サーブが大当たりし北川のシ
ャープなブレイクで、強豪を5対2で
下しました。

その後7回戦におきましては、こ
れまた強豪の日本体育大学の吉野・
村井組と対戦しました。

この試合では玉置の超人的なパワ
ーテニスで相手を圧倒して5対1で
楽々と勝利を収めました。

この試合で玉置・北川組は観客を
大いにわかせて、大経大の名を全国
にとどろかせました。

次の準々決勝の相手は早稲田大学
の神崎・小野寺組でこのペアはアジ
ア学生軟式庭球選手権のチャンピオ
ンでした。

しかし、玉置の持ち前のパワーテ
ニスと北川の正確なブレイクでポイン
トを稼ぎ3対1とリードしたのです
が、そこから逆転を契り結局最後は
3対5で惜敗しました。
それにしてもとてもすばらしい試

合でありました。

我が軟式庭球部は部員一丸となつ
て、今後より一層の成績を上げるよ
う努力して行く所存です。

ハンドボール部

西日本ハンドボール
選手権大会準優勝

「ヒー」というホイッスルの合図
で試合が始まります。

その時から、汗と涙を流して頑張
ってきた成果を発揮するのです。

そして成果を発揮出来るチームこ
そ勝利に導かれていくのです。

我々、大阪経済大学ハンドボール
部は、その試合に日頃の成果を発揮
できるように一日一日頑張っており
ます。

時には恨み、怒り、そしてその悩
みからぬけ出そうとし、そしてその
怒りを発散しようとして怪我をする
こともありま。

我がハンドボール部は、過去2、
3年前まで2部に低迷しておりまし
たが、猛練習を積み、強い精神力を
養い、パワーアップして春季リーグ
戦には3位、6月に行われた新人戦
で優勝、そして西日本大会には堂々
と2位に入賞することができました。

ベスト4にかける中部大学戦には、
今まで以上に全員で盛り上げていど
み、試合は前半・後半とリードして

終わってみれば大差がつき勝ちまし
た。

その勢いで決勝戦にいどんだので
すが、精神的に一本の糸が切れてし
まい、大差で福岡大学に敗けてしま
いました。

しかし、その敗戦を無駄にせずに、
これから秋季リーグ戦、全日本学生
選手権には、クラブ全員で頑張っ
ていきます。

我々、経大ハンドボール部は創立
以来、先輩方の造りあげて来られた
伝統を守るため、そしてこれからも
この伝統をより一層偉大なものにす
るため4回生が引つ張っていき全員
で頑張っていきたいと思っております。

自動車部

関西学生ラリー選手権大会第3位

去る昭和62年6月6日の夜間から
7日早朝にかけて開催された全関西
学生ラリー選手権第一戦(淀都総合
定期戦ラリー)が奈良・三重県下で
行われました。

当日の天候は良く、絶好の試合日
和と思われたが、夜半過ぎより各所
に於いて濃霧が発生し参加選手にと
っては苦しい戦いとなりました。

我が経大自動車部からは松本・美
濃部組を初め3台がエントリーし強
豪各大学と骨肉の競技を展開しまし

バスケットボール部

わがバスケットボール部は、現在
4回生2人、3回生7人、2回生4
人、1回生3人の計16人で活動して



おり、来年は、創部40周年を迎えよ
うとしています。
昨年度の成績は、ここ数年間に於
いて最も悪い成績に終わったので、
今年は、成績向上へと新たな気持ち
で取り組み、6月の西日本学生では
ベスト16に入りました。これからも
この調子で、日々邁進していきたい
と思います。

独立総部

ワンダーフォーゲル部

わが部の部員は3回生5名、2回
生3名、1回生6名の計14名であり
ます。また引退している4回生5名
も時には活動に参加し活気ある活動
を行っております。

わが部の部員も一時期に比べかな
り減少し、また学生ワンダーフォー
ゲル全体においても減少しており、
活動の内容についても考え直さねば
ならない点も出てまいりました。

ワンダーフォーゲルは山だけにな
く野も海も活動範囲であり、またそ
の中で多種多様な活動もできるとい
う他の部にはない特色があります。
この利点を大いに生かしこれからも
この伝統ある部を盛りたててまいり
ます。

夏合宿も無事終了し、大雪山のす
ばらしい自然を満喫することができ

ました。これからの秋、春合宿も充
実できるように精進してまいります。
最後にOBの方々には昨年度中本
当にお世話になりました。この場を
借りて御礼申し上げます。



芸術会

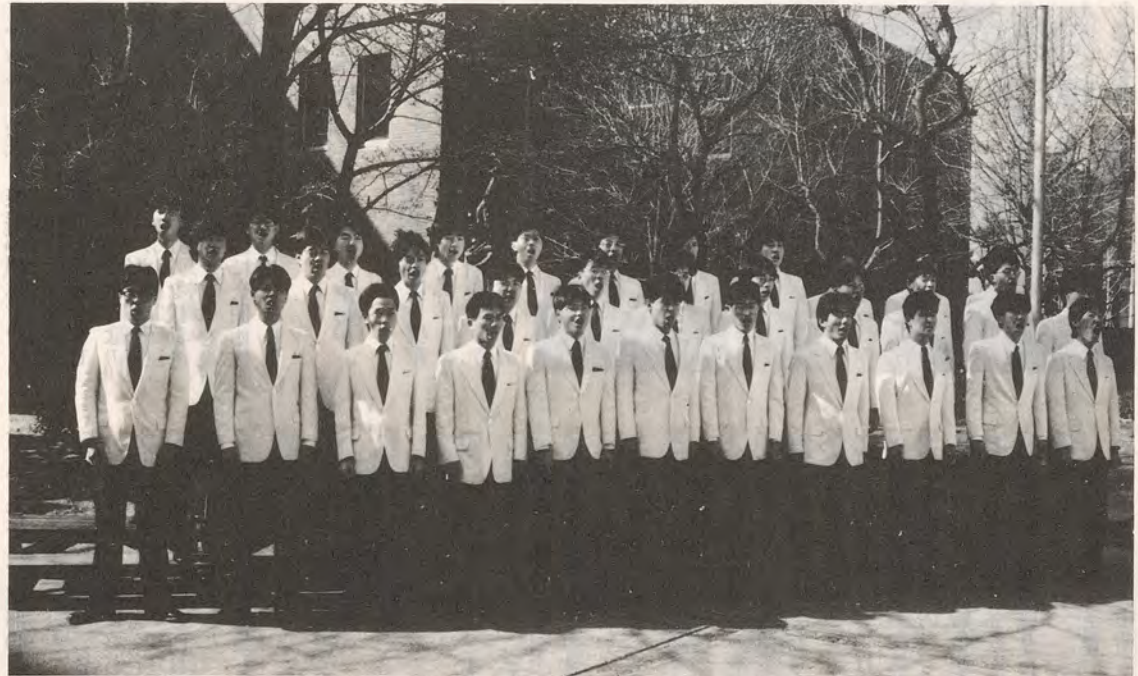
芸術会本部は、芸術会系12クラブ
の中から選出された総勢18名によつ
て運営されています。活動内容とい
うのは芸術会系の各クラブの統括と
各クラブの活動を円滑に進めるため
に手助けを行っています。その他に、
芸術会本部の主催で音楽系6クラブ
の合同演奏会である「MUSIC FES-
TIVAL」や、演劇研究部、映画研究
部の合同発表会である「こくつぶし
の夕べ」などを行っています。芸術
会本部員は、自分の所属しているク
ラブと両立しながら芸術会の為に、
みんな一生懸命にがんばっています。

グリーククラブ

わがグリーククラブは現在総員70人
という経大一の大所帯で活動してい
ます。

昨年は関西合唱コンクールにおい
て、創部以来初めての金賞を受賞し
ました。

今年は夏のジョイントコンサート
において大成功を収めましたし、ま
たコンクールに向けて意欲的な活動
をしております。なお、12月10日(木)
には、尼崎市総合文化センター・ア
ルカイックホールにおいて第23回定
期演奏会を開く予定です。部員一同、
諸先輩方の教えを引継ぎ、技術の向



学術会

英語研究会

ESSの活動はサークルの中... 20数名の部員はいつも、はつらつと活動を行っています。ESSとは English Speaking Societyの略です。

また我々ESSは関西ESS連盟(KIEF)に加盟して... 今後、こういう他大学との交流をいっそう深め、大学の雰囲気をつぶらしく作りかえていこうと日夜努力し続けております。

活動は大きくスピーチ、ディスカッション、ディベートの3つの部門に分けられます。1週間にイブニングと呼ばれる放課後の活動が3度ありますが、この3部門はそれぞれちがった場所で活動を行います。その中でもディベートは、多くの大会も含み、3つの部門の中でも特に大会の準備など忙しい部門で、イブニングの活動が終わってから合宿することがよくあります。

来年からは活動の幅をいっそう広げようと、新しくドラマ部門、ニュース部門を設置しようという話も出ています。専門学校時代から続いて長い歴史をもつ我々ESS、それだけにい

上、部員同志の融和を通して人間性の向上を目指し、今後もがんばっていきますのでよろしく願います。

'87芸術会の活動

- 4月 新入生歓迎祭
5月 芸術会、新入生歓迎コンパ
6月 ミュージックフェスティバル
7月 グリークラブフジョイントコンサート
9月 芸術会リーダーズキャンパ
10月 マンドリンクラブ定期演奏会
11月 ギタークラブ定期演奏会
12月 グリークラブ定期演奏会
2月 芸術会リーダーズキャンパ

経済学研究会

私達経済学研究会は、従来から諸先輩方が少数ながらも常に世の時事を鋭くみつめ、学生が出来ること... 意欲的な活動をしてきたサークルです。しかし、近年学生生活の指導にあやまりがあるのか、部員の定着率が思わしくなく、現在に至っては3年生3人のみとなりました。今、考えてみると、私達上級生が下級生にとって魅力的な存在でなかったのかもしれません。しかし、モラトリアム期に生きる私達が、社会に出るまで猶予されたこの期間に、本来やるべき、考えるべき事柄を忘れてしまっていることも事実ではないかと思えるのです。

唯物論研究会から名前は変わりはしましたが、私達のサークルの本質は、今も昔も変わっていません。それを受け継いでくれる者がいないことを悲しく思います。又、私達のサークルのOBの方々に対しては申し訳なく、胸が痛みます。しかし、私達残された3人は何とか経済学研究会の名を、唯一真の対話の場であるサークルBOXを存続させるために、これからの残された短い期間、これまでどうりの活動を続けて行きたいと思っています。

社会福祉研究会

今年のスローガンは、わかり易く、それでいて内容の濃いものを、として「信頼・努力・自己変革」としました。そのスローガンのもとに、今年度の学定では、障害者問題を見ていきました。そして、学祭では、学定を生かして、更に、大きく、深くみて行くのではないかと話し合い、学習に取り組んでいます。

現在、私達の倶楽部の部員数は12名で、ここ2、3年部員の減少が続いており、厳しい状態となっております。が、それが各部員の発憤材料として、学習会や活動に精を出しています。

OBの方々、お暇ができましたら、BOXにでもきて、お声でもおかけ下さい。そして、いろいろな話を聞かせて下さい。楽しみにしております。

将棋部

現在、わが将棋部は4年生4人、2年生6人、1年生5人の計15名と一昔前に比べると質量共に薄くなつたことは否めませんが、その分を週2回の研究会の実施や、部内公式戦へのレーティング制導入など、趣向を凝らすことにより補い、62年度春期一軍戦ではBII級で優勝し、BII級昇級を果たすなど、着実に日頃の努力の成果を発揮しています。

ただ少人数であり、上位者と下位者の差が開き過ぎていくこと(まだ初心者の方の域を脱しきれない者が5、6名いる)が悩みですが、とにかく今後は悲願であるA級昇級を目指し、頑張りたいと思います。

なお、OBの方々はいつも合宿とOB戦への御案内状を出していますが、音信不通の方がかなりおられます。お心当たりの方は是非御一報願います。

ユースホステル研究会

我が部は現在1回9名、2回8名、3回8名の総勢25名で活動しています。

証券研究部

マネーブームと呼ばれ数年が過ぎ、現在株式市場の暴落があるんではないかと囁かれていますが、今こそが本場の財テクのチャンスではないでしょうか。我が証券部では関西証券連盟会春秋期セミナーに向けての週一日(月曜日)の勉強会、また研究の成果を試すべく優勝者が賞品をもらえるシミュレーションを行っております。そして、春、夏に部員全員で旅行に行き、各種のコンパも用意して楽しく頑張っています。

速記研究部

1回生14人入部、そのうち2人が女性というおまけがついて、我が速記研究部は現在22人で活動しています。

こんなに人数が増えたのは、うちのクラブとしては大変珍しいことで、昼になると足の踏み場もなくなるくらい部室はにぎわっています。9月8日、11日のハードな合宿も無事消化し、10月25日の関西新人戦

広告研究部

広告研究部は部員数25名の少数ながらも精鋭を集め、広告理論の研究だけにとどまらず、その理論の実践として、各社員1人1作品の広告パネルの制作と、パロディパネルの制作を課し、大樟祭に展示、アンケート調査することによって客観的な目で広告を評価しています。

その他、イベントを企画し、情宣活動やマスコミとの接触を通して、広告の実験を学んだりしています。

そして、学内の活動においては、「キャンパスだより」や「大樟祭パンフレット」の表紙製作、毎月、生協発行の「SPOT」を企画、製作し、その他各種学内紙やポスター作成の類繁な依頼を受け広研一同奔走



しています。過去からの良き伝統を残し、肩の張らないAT HOMEな雰囲気大切にしながら、「やる時はやんのが広研族や！」をスローガンにし、学術会の雄として活動しています。

II部、総部会の 「二ころ」意気

- 1 「各サークルがこれだけ頑張っているんだ。それはI部のサークルほどではないかもしれない。しかしI部に負けじと頑張っている」と言うこと。
- 2 その頑張っているということ、「もともとI部、II部、特にII部の学生に知ってもらいたい」と言うこと。
- 3 そして「もともとみんながサークルのメンバーに加わってほしい」と言うこと。期待しています。

バスケットボール部

ワイルドキャッツも、創部以来5年がたとうとしています。今年のナイトリーグ(神戸大、大教大、立命大、大市大、大経大の2部のバスケ

昭寿会

昭和61年10月15日、神戸市営の舞子ピラで恩師武田長太郎先生を迎えて開催。

舞子ピラは天下の名勝地、舞子の丘陵地に聳え立つ8階建の白亜の殿堂、本土との架橋も真近い内海の向こう淡路島とは指呼の間にある。

夕暮近く、開会に先立ち小幡君



部の総あたり戦)において、わがバスケ部は、V4を達成しつつあります。夏の大阪府クラブチームトーナメントでは、3回戦で敗退しましたがこの経大祭においては、11月3日におこなわれるソフトボール大会を主催し、経大祭の成功へ貢献したいと思っています。火、木、土の夜8時9時の短い練習時間ですが、積極的にがんばっていきたいと思います。また、先輩から受けついでチームワークのよさを後輩に伝え、部の存続に努力したいと思っています。

少林寺拳法部

わが少林寺拳法部は部員数4名にもかかわらずガンバツテおります。一度見学に来て下さい。火、木、土と体育館で練習しております。

中小企業研究部

部員数3名と言うことにもかかわらず、毎週1回金曜日に部会を開き、経営情報を交換し合っています。

オンチコーラス部

いらつしやいまほり！何かとおさわがせなオンチコーラス部です。時代の流れについていく

ことのないコンサートもアコースティック・ギターで行っています。春には新1年生歓迎会でクラブ紹介としての歌の披露。あまり聞いてくれませんでした。そして5月の「唄声喫茶」コンサート。おもしろかったです。冬には、恒例の森ノ宮小ホールでの「歳時記」LIVE。'86には、お客さんがいっぱい、いっぱい来てくれました。約10名の圧力でおもわずカンコーヒー買ったしまいました。そして初のバックバンドで、代々伝わるクラブ愛唄歌「上新庄」を歌いました。ステージに似合う白い布にかすみ草。きれかったです。そうです。オンチコーラス部は、いつまでたってもフォークソングを歌うクラブです。

会計学研究部

私たちII部会計学研究会は、II部のサークルの中でも最も歴史が古く、今年で25周年をむかえ、4年ぶりの機関誌を発刊し、これを機会に機関誌を続刊していきたいと思っています。普段の活動は日商検定合格を目指す。普段の活動は日商検定合格を目指す。そして夏は合宿を行ったり、コンパを行って部員間の交流を深めています。

第4期生会

の司会で、ここ1年の内に相次いで世を去った同期の平田、棋田、森元の3君に黙禱を捧げ冥福を祈る。

引き続き宴たけなわとなり、カラオケ奏でる中、各人得意の喉を披露し、酔う程に夢幻の境を行く心地。

1902年生まれの武田先生は

「昭八会」修善寺の集い

第14回 8期生同窓会

し下さい。

久方振りに再会の喜びを分かち合い、お互いに盃を傾けながら、秋の一夕を心ゆくまで歓談で済ませた感激は決して忘れられせん。戦前―戦中―戦後と激動の世の中を雄々しく生きぬいてこられた諸兄にお会いして過ぎ去った昔をしのび、現在の生きざまを語り合い、更に、明日への生きしるべを掴み得たことは、何としても最大の収穫でした。

同窓生28名、同伴者2名、計30名をお迎えしての本年度8期生同窓会は、久し振りに(5年目)東京昭八会が担当いたしました。去る10月5・6日、中伊豆、修善寺温泉で盛會裡に終了いたしました。遠路はるばるお忙しいなかをご参加頂き本当に有難うございました。私ども世話人としては諸兄に少しでも喜んで頂きますよう、微力ながら努力をして参りましたが、いたらぬところが多々あったかと反省いたしております。不行届き

九友会（昭和商高第9回卒の同期生会）が今年は岡山地区在住の者の世話で9月26・27日に塩飽本島の本島荘で持たれました。

26日（土）午後1時に岡山駅に集合し、バスを利用して備中稲荷に参拝、商売繁盛・家内安全を祈願し、吉備の古墳群特に備中国分寺を車窓の右に左に眺めつつ倉敷美観地区に至り、倉紡発生の跡地のアイビススクエアや白壁の家・美術館・考古館・大原邸等を心ゆくまで見学して、水島臨海工業地帯を鷺羽スカイラインより眼下に眺めつつ下津井に関西急行フェリーで塩飽水軍の本拠地本島の塩飽本島荘に入った。

同窓会より公私ともに御多忙の磯野会長を迎え東京・各古屋・京都・奈良・神戸・広島より20数名が集い和やかな雰囲気の中潮騒を聞き乍ら、会長より大学の近況や同窓会の状況を聞き、一同元氣一杯の乾杯、引き続き楽しい宴会に入りました。約2時間余り、思ひ出話に花をさかせ、カラオケで青春の思い出の演歌や織田君の素



き、第2の人生をより充実したものにしたいものです。願わくば「寿而康、動中静、忙裏閑」健康第一にゆとりのある人生を送ろうでは

ありませんか！
来年の集会を楽しみに、諸兄のますますのご健勝とご多幸をお祈りいたします。

本会開催にあたり同窓会本部よりのご芳志ならびに都合わるく参

加出来なかつた同期の諸兄より多くの近況を寄せられましたこと本紙面をかりて厚くお礼申し上げます。

世話人 岡田 清



大阪経済大学第11期生会 於 山中荘 S61.11.21

山陽道ウォッチング

九友会

晴らしいハーモニカ演奏と賑やかな時を過ごし最後に学園歌を大合唱して一応閉会。

連絡不十分でこの会に出席できなかった早崎昌一君・赤沢七郎君・左近太郎君らを囲み夜の更けるのも忘れてそれぞれのグループで語り明かしました。

盃を交わし、なごやかに談笑

第11期生会

翌日は構築工事中の世紀の大事瀬戸大橋を観光船で、また鷺羽山の展望台より架橋全体をつぶさに見学しました。昼食を三大権現の由加山蓮台寺光明殿で精進料理を味わい、黄金の波打つ備前平野

の中を岡山駅へ。なおこの会へ出席されることを楽しみにしておられ急逝された藤綱亮三君のご冥福をいのりつつ来年も元気に広島での再会を約して解散。

（世話人 富山義正）



例年は丹波の篠山で、ポタン鍋をつつこうと集まるのだが、今年、畏友、関田庄司君が第18回日展の洋画部門で「特選」の賞に輝いたので、その祝いを兼ねようと、梶村君のきもいりで、神戸ニューポートホテルに会場を設定した。

わざわざ広島から駆けつけてくれた富永君、病気を押して写真をうつしまわってくれた石森君、柴田秀一、柴田真典の両君が、初めて出席した柴田安治君の両手をあげて、三柴田そろいぶみと大はしやぎ。

宮武、市川、浅野、木村、林、沢田、伊藤、大橋、梶村、関田、琴野、佐藤、河田、石垣、山本、長尾、田中らの諸君と、同窓会からは、事務局長の比企先輩のご参加をいただいて、23名になった。

宴半ばで関田君の「特選」の弁に耳をかたむけた。画家へは46歳からの転向とか、美術大の出身でもないのに、彼の非常に特種な世界で名をなした努力に出席者一同深い感銘を覚え、今後ますますの彼の活躍に期待しながら、再び杯を高くにあげて祝福をしたのである。

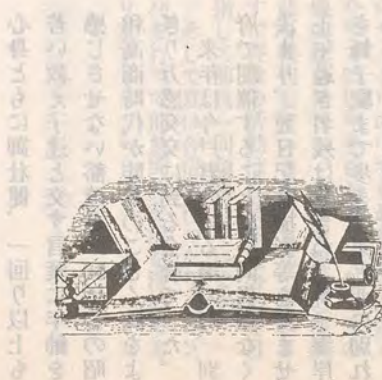
それぞれが一言自己紹介をしながら宴は盛大な盛り上りの内に終わった。

「手を折りて、うち数ふれば、なき人の、数えがたくも、なりにけるかな、良寛」

これから、出来るだけひんぱんに会おうと、別れざわにはしみじみと思うのである。

「元気でね」と。

世話人 長尾 晃



第6回「ぼたん会」

第8期生京阪神有志の会

出ました。盛会裡に終始した今年の会合も気がつけば早くも21時となり、全員再会を楽しみに、名残を惜しみながら、みやげを手に手に家路につきました。

40年の再会を祝す

ひとみ会—大阪—第13期生



62年10月13日、私たち「ひとみ」は千里万博公園内の迎賓館におきまして、卒業40周年記念同窓会を開きました。出席者29名。公園の緑のはえる木立の中、さわやかな秋晴れに恵まれ、閑静でゴージャスな雰囲気の中で再会を喜びあいました。少々足場の不便な点は幹事の誠意でカバーするつもりでした。玄関口で車から降り立つ一人ひとりを迎えていて、悲喜こもごもの40年の歳月を思い、しみじみ感慨深いものがありました。小浜から山脇(田中)さん、四国から津田(小橋)さん、香港からは渡辺(松井)さんといった遠来の友人も参加していただきました。

謝し、この紙面で心からお礼申し上げます。
出席者
井上 豊 伊藤 俊 岩谷 宣治
大島善男 河津 實 坂上 光一
榊原二郎 武田 正 土屋謙一郎
宮脇和夫 村田吉司 山田録二郎
桑津 昇 筒井英夫
桑津・筒井記

寸劇「月形半平太」を 美男美女が熱演

第12〜15期合同同窓会



隔年に開催していた4期(12〜15期)合同同窓会は、好評のため今年からは毎年開催することとなり、今回は15期の当番であった。

昭和62年7月11日(土) 大阪ガーデンパレスで43名が出席、午後5時30分集合、幹事松川君(15)から、「多数のご参加により盛況な同窓会となり感謝します。楽しいひとときを……」の挨拶があり、席は番号のくじ引きで決められ、やがてパーティーとなった。

恒例の余興に移り、15期の趣向を發揮して、中山の司会でまず男女のペアが決められることになり、男が「乙女の姿」と読めば、女が「しほし」と読めば、1ペアの出来上がり、男「あの子可愛いや」女



「カンカン娘」まで20組のペアが出来上がった。ペア対抗のジャンケンで勝ち進んだ百野先輩(12)和田澤先輩(13)組の寸劇「月形半平太」熱演の一幕に一同爆笑、時の経つのも忘れ、和気あいあいのうちに来年の再会を約し、午後8時散会した。

幹事 中山 隆(15)

60年生きてきて、そのうちの僅か3年(それも戦中戦後をはさんだ特異な学生生活)でしたが、大切な青春の密度の濃い年月を共にした友と、40年を経てここにお互いの健康を祝し、自庭からさげてきたフジツギ・コエビソウ・シロアジサイ等の卓上花の香りと、一寸贅沢な雰囲気でお料理を楽し

おしゃべりは最良の若返り法

ひとみ会—東京—

62年10月17日、東京でのひとみ会は新橋、「木曾路」で集まりました。7名の出席ではありましたが、小駒さんの協力をえて、「何か一言」をまとめました。入学・動員・終戦・戦後といったものです。色々話の中で上新庄駅から学校までの道すじ、菜園になったグラウンド、まともな窓ガラス1枚もないという荒れた校舎、それでも思い出は懐かしいものです。新幹線を通るとき、いつも車窓から大阪経済大学の立派な校舎を見せて貰っています。卒業して40年、そろそろ健康を気付かう年齢になりました。1年に1度、クラスメートに会ってのおしゃべりは最良の若返り法、そんな気がします。



東京でのひとみ会、大変楽しい集いでした。(文責 西村豊子)

む幸わせを感謝いたしました。今回ご病気で欠席された方も、皆みなさま尚一層健康に留意し、次の機会にはぜひ、お目にかかれませう祈っております。
なお、次の幹事は山脇(田中)・山村(上田)・中守(宮沢)・池田さんが引受けてくださいました。
幹事 岡本博子

誇らかに 経大黎明会を名乗る

17・19期会

同期生会にも、それぞれの回によって色々なポリシーがある。この17・19回は経専最後の卒業生と経大最初の1回生に依るグループである。新制大学への昇格には、学校当局と共に体を張って頑張った勇者達の集まりである。だからこそ人一倍の愛校心を持ち、我々こそが経大を生み出したのだという誇りを持っている。

前おきが長くなったが、6月20日午後3時より、同窓会ホールに集まった人々の発言は実に熱気に満ち、愛校心にあふれたものであり、その姿は、40年前の青春の再現ともいうべきものであった。会は型通り鈴木理事長、山本学長の挨拶で始められ、磯野会長の乾杯



続いて来賓の藤原先生、倉辻先生、井上先生、稲原先生、井手先生、と懐かしい先生方のお話を聞き、最後の中村先生のお話の頃には最高のムードとなり、中村先生の憂校の真情あふれる熱弁に、幹事がひやりとする一幕もあって、会場は熱気に満ちて来た。ここで元自治会委員長の牧田君の登場となり、

り、最近の卒業生には経大という名に誇りを持っていない者が多いのはどうした事か? 学生達に誇りを持たず教育をお願いしたいと、経大の発展に祈りを込めたコメントが行われた。続いて磯野会長からも同様の発言があったが、このあたりはメートルも上っていて、笑いと拍手に包まれる、なごやか

のとなった。ここで当日、長年の懸案であった会の名称を決定する為、投票が行われ、「経大黎明会」が拍手と共に決定された。一部から「右翼の団体と間違えられないか」との冗談も出たが、我々の年代の者には何となく郷愁をさそう様な、歯切れの良い名称ではなからうか。

はたち会

第6回はたち会の同窓会は、昭和61年12月7日、大阪市北区梅田の本むさし会館に於いて、一年振りに開催いたしました。

毎回のことながら、出席者を出来るだけ多くの願いで、西山氏を世話係に、種々お世話をお願いしまして出来る限りの努力をしましたが、今回は今迄の最低人数の6名（東孝義・打出清・喜多久男・宮崎勝行・沼田壮一・吉村忠一の各氏）の出席に終わり、いささか淋しい感はありましたが、はじめの出席という人もあり、近況と



「山に集まる会」への誘い

緑の風薫る5月3日、六甲山高座の滝に集合、ロックガーデンを風吹岩まで登った。久しぶりに汗ばんだ姿でカメラにおさまり、水本氏がリユックから取り出してくれたビールをのどを潤わした。



山に集まる会

30年前、ホームグラウンドとしてトレーニングに励んだ懐かしい山に集まる会の発会式風景である。卒業後の職業も異なり、勤務地、住居の関係で果たして何人が集まるかと世話人でも疑問であった。

久しぶり友と酒をくみかわし、ときのたつのも忘れ欲談するうちに閉会の時が来てしまい、またの再会を確かめ合い、お互いの健康と発展を誓いながら散会しました。

松田 英志



第20期生会

んなが食われて了ったせいに違くない。7階の大きな窓に、夕陽が迫る頃、同窓会ホールは学歌と追遙歌の響きに包まれ、それは、経大の未来を、誇りと自信を持って誇示するかの様に夕焼の空へ広がっていった。

山中良夫

「澁江27期会」総会

懇談パーティー

澁江27期会

将来をともに語り合い、実に楽しい一日を過ごしました。午後3時過ぎ、またの再会を約束して無事おひらきしましたが、特に、吉村氏の発言で、今迄の出席者を考えると延40名近くになり、

9月19日(土)、27期卒業生が母校、同窓会ホールに集い、第3回大阪経済大学「澁江27期会」の総会、並びに懇親パーティーを開催しました。



今回は一同に出席出来る平日を特に選び、全員の出席を目指して運動を起こすことを約束しました。皆さんの顔合わせを楽しみにしております。

「亀甲船の会」発足す

経大朝鮮文化研究部OB会

だが、30数名の応募があり、15名の出席が予定された。高座の滝まで下山して早速に懇親会に合流、30回の卒業生梅本氏の経営による旅亭大悲閣のお世話で鍋を囲んで昼食会、なんせ何年振りか「お、珍しい」「元気だったか」という調子だから、髪の変色もあり、頭髪の本数も貴重になった顔を懐かしみ、壮年から熟年への歳月の重みを語る友の近況がお互いの心に沁むひとときでした。

桑田 利夫(19)

次回は秋の京都、愛宕山に集まり、清滝あたりで楽しいひとときを共に過ごそうではないかと一決、再会を約して散会した。

「山に集まる会」は、経大OBと関係ある方ならどなたでも歓迎。世話人会事務局担当の桑田()までご一報下されば次回からご案内申し上げます。

大経大の朝鮮文化研究部の卒業生が1986年12月に、OB会を結成した。朝鮮文化研究部は、その名が示すように、朝鮮(韓国を含む)を研究するクラブで、そのメンバーも、必然的に、朝鮮人学生が参加して活動してきた。

この度、大学を卒業後10年近く過ぎた我々は、精神的にも少し落ち着きを見い出せる世代になった。そこで、同窓生であり、同胞というよしみを更に深めたいと考え、OB会を発足することにした。OB会の名前は、1592年、

豊臣秀吉の朝鮮侵略を打ちまかした朝鮮民族の英雄・李舜臣將軍の戦艦・亀甲船にちなみ、「亀甲船の会(コウブクソンの会)」とした。我々は、亀甲船の名に恥じないような立派な会にしたいと思っている。またOB会の活動でもって、在学中の朝鮮同胞学生・朝鮮に関心をもつ人々に支援の手をさしのべたいと考えている。

(連絡先) 会長 具 新会(19)

クラブ創立 25周年を祝う

一部会計学研究会OB会

62年1月、会計学研究会の25周年記念パーティーを、桜の宮のりパークホテルで開催した。これまで10・15・20周年と、それぞれの行事は、大学の同窓会ホールなどで簡単に催してきたのであるが、今回はクラブが創立して4分の1世紀という大きな節目を迎えるので、少し、リッチにホテルで祝うことにした。30名を超す参加者があり、なかなか盛況であった。パーティーでは、クラブの創設者をはじめ、今日まで25年間の部員・OB会相互の労をねぎらうと共に、今後もクラブの継承、発展のために、この記念すべき歴史を顧みることにした。

今回現役諸君が記念誌を発刊するので、OB会も資金の援助ならびに原稿を各歴代部長が責任分担した。OB諸氏は学問から離れているので、各自の活動分野での苦心、経験等の現況報告を混えて書いてもらい、これを記念誌に掲載してもらった。

もちろんこれまでOB会と現役諸君とは、年に2回会う機会を設

けており、1回は泊旅行で、もう1回は学習会をしてコミュニケーションに努めている。以前は、家族ぐるみで能勢の山で栗拾いをして遊んだのであるが、子供達も成長したので最近ではゴルフに変わってしまった。

クラブ当初からのメンバーも白髪まじりになり、集まると懐かしい昔を回顧する年代になってきた。この25年はOB会にとって、人生の教訓であり、各々の立場を乗り越えて共通の話題で語れる当研究部の存在に喜びを感じている。次の30周年に向かって、現役諸君と一泊旅行で、楽しく学び、遊ぶをモットーとして今後のスケジュールを考えている。これが、生涯学習だと思っているからである。

会長 小山 由彦(2)



後輩の援助を

昭和商剣道部OB会

卒業後離ればなれになっていた昭和商剣道部OBの諸兄をさがし、昭和商剣道部OB会をここまでにしていただいた、7期の紀伊氏、8期の梶村氏より受けついで、昭和61年度OB会は昭和61年11月24日に開催されました。

本年度は例年と趣を変えて、懐かしい母校、剣道部道場に集合、剣道部現役の選手、大学OBの人達の若々しい元気な稽古で迎えていただき、遠き思い出にひたり、道場に正座もしました。その後、新築の香りする50周年記念館の同窓会ホールにて一年振りの会合をもちました。何分卒業以来40数年ぶりに初めて母校を訪れた人が大半で、懐かしさ一杯、毎日汗にまみれて剣道していた様子を思い出しました。

現在の剣道部OB会は、昭和商OB会と大阪経大OB会の二つがあり、別々にその会合をもつていたのですが、今後は双方の話し合いにより、大阪経大剣道部OB会として一つにまとめ、剣道部後輩の強力な後援をしようという議



第24回WV部 OB総会

ワンターフォーゲル部OB会

案が出て、全員一致の賛成がありました。現在の大学OB会とも協議して一本化されることになれば幸いです。

日本経済界の大御所、一部上場会社の社長、副社長、銀行の副頭取等名士が集まっていたが、皆一様にこのような人達と友達として同席できることに喜びと誇りを感じた次第です。

今回の出席者12名、他に大学OB会より師範、会長、副会長、監督諸氏のご出席があり、有意義な集いをもつことが出来ました。

種々懇談の後、場所を変えて、上新庄駅近くの寿司店に席を移し、一献汲みかわし想い出話につきぬ一時を過ごしました。席半ばに提案があり、「各先輩のカンパにて現

役剣道部員を励まそう」と全員心よく賛成、金一封を贈ることが出来ました。今後は先輩らしく、今まで出来ていなかった後輩の援助に尽力したいと思えました。本年度の世話役は10期の北之坊氏を長とし、11期の村田氏、12期の百野氏等のご尽力をいただきました。

大学OB会の諸氏、剣道部現役選手等も休日のご出席をいただき感謝申し上げます。

なお、同窓会本部には大変お世話になり、同窓会ホールの使用については心よくお世話いただき、また、過分の祝金をいただきましこと、茲に記し一同と共にお礼を申しあげる次第です。

村田 義治(1)

雨らしい雨も降らないうちに早や7月を迎えました。OB諸氏にはますますご健勝で、各界に於いて活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、去る6月20日、21日と、我々が現役最後の想い出の地である、追出しコンパ会場の摂津峡、

小川亭の麓、高槻「かじか荘」にて、OB総会が盛大に行われました。多忙にもかかわらず、多数のOB諸氏が参加され、久し振りに昔の話や、現況等の積もる話に花が咲きました。総会は定刻前の5時30分より、神田会長の挨拶で始まり、昭和61年度活動報告(前岩



委員長)、会計報告(飯田)が承認され、続いて昭和62年度活動予定

会計予算案も全会一致で承認されました。質疑応答の中では、活動内容、会費徴収方法、山小屋建設等活発な意見が交され、会費徴収の一案として、同窓会作成のテレホン・カードを会員全員に無料配布をして少しでも還元しようと、OB会として200枚を購入。すでに郵送させていただきます。

総会終了後7時より大広間にて懇親会。国西氏の音頭で始まりましたが、仕事の関係で遅れながらも4、5名の方がかけつけてきてますます盛り上がりました。自己紹介やカラオケ、踊り等いろいろ飛び出し、最後は逍遙歌でしめくくりましたが、まだ物足らず室に帰って夜の更けるまで友好を深めました。

翌10時、「かじか荘」前にて解散式を終え、明日からの仕事に励むと同時に再会を約して、OB総会を無事終了しました。

飯田 徳政(3)

「会計からのお願い」
今年度は、会員の方々の交流をより深めるため、種々活動予定を組んでおります。
年会費5,000円は必ずご送金下さいますようお願いいたします。

寄多郎会ホテル・ レークビワに集う 24〜27回卒業柔道部OB会

去る4月18日(土)、19日(日)の両日、第3回会合を琵琶湖大橋東畔のホテル・レークビワで行いました。「寄多郎会」とは、経大柔道部に在籍し、苦楽を共にした24回卒から27回卒の仲間たちの会合です。

今年は26回卒生が幹事で、天然自噴温泉である志賀の湯で疲れをいやした後、6時30分から逸見氏(26)の挨拶と乾杯で楽しい宴会に入りました。今年も三輪氏(26)のご令室「喜多郎会のマドンナ」のご参加をいただき、一輪の花が咲いた和やかな雰囲気の中、湖国の味で舌づつみをうちながら心ゆくまで祝杯をあげました。

宴たけなわ、年齢は既に50歳前後でも、話はやはり学生時代の話に花が咲き、お互いの目が輝いていました。もちろん、柔道の話が中心ですが、家族、仕事、将来のことなど……夜の更けるのも忘れて話はずんでいました。一方では、囲碁に興ずるもの、吉田氏(25)の趣味の彫刻による観音像を鑑賞するもの……いずれにしても柔道

を通して苦楽を共にしたものの集いであることを今更のように痛感した次第です。いつの間にか琵琶湖畔に朝がおり、朝の温泉につかり、身を清め、一同そろって1200年の歴史を今に伝える比叡山・延暦寺を訪れ、文化と歴史を満喫し、大津市内で昼食後、来年も元気で再会できることを約して散会。



「寄多郎会」の諸氏、来年もぜひご参集下さい。



上野 允也(24)
源 幸夫(26)

OB会には ゴルフコンペも

日本拳法部OB会

新緑が目にも痛い大経大の運動場の片隅で、同好の仲間が集い練習を開始したのが昭和33年春。集まった仲間はたった3人。これが大経大日本拳法部の産声である。

その後、友が友を呼び、仲間が仲間を誘い今ではOB会員数184名を数えるほどの大世帯に成長した。来年(昭和63年)は産声をあげてから30周年になる。早いものだ。この間に全日本学生選手権大会優勝2回、全関西学生選手権大会優勝1回の輝かしい足跡も残している。OB会は定例で年2回開催される。その他「大樟会」という名のゴルフコンペも組み込まれている。今年の大樟会は10月12日に春日台



CCで開催され参加人員も20名の大コンペとなった。来年は30周年であり現役学生と同窓生の交流の場として大盛会とすべく着々と準備を進めている。

縦横のつながり 益々充実

商業建築研究懇話会

大阪経済大学創立50周年記念館落成おめでとうございます。母校のますますのご発展を心よりよろこび申しあげます。

当商建懇話会も、発足以来満7年を迎え、会員数は20名とやや小集団ですが、第8回の卒業生から48回卒業生までの縦のつながりがあり、それだけに一層会員相互の融和と親睦がはかられ、初参加の人も例会の終わりに10年来の知友のように親しくなり、本年も1月に総会、7月に例会を大阪市内で開催し、各会員間で建築情報の交換を行い、引き続き各企業のカタログの配布や製品説明がありました。時間の関係で7月例会は、大和シャッター(株)、ミクロ情報サービス(株)の2社が説明を行い、次回は三晃塗装、西川造園、ABC商會が会社説明を行います。行事終了後食卓を囲み夕食を共にしながら、母校や友人の近況等を語り合ひ、時間の過ぎるのも忘れる程でした。

来年は観光、ゴルフ等を兼ねた一泊旅行をとの希望が各会員より



あがっており、是非実現させたいと考えております。また、建築に関係のある情報がありましたら、是非当会にご連絡のまであらゆる業種の同窓生がおります。

市政向上の 行政マンサント

川西市役所大樟会

わが川西市は、昭和40年代半ばから人口急増都市であったが、ここ数年は増加率が鈍りはじめ、大阪国際空港離陸コース直下の騒音被害を受ける地区以外でも人口減少地域が現れた。市内のニュータウンでの住宅建築もペースダウンをしているように見受けられる。大阪近郊の都市に共通することだが、地価問題や、渋滞などの交通問題も大きな原因のひとつである。

当会の今年の大きなニュースとしては、7月の市議会議員選挙で会員の井上武彦氏(44)が4期連続当選され、市議会副議長の要職に就かれたことだ。氏のますますの活躍を期待するものである。さて、我々の会はこれまでと変わらず、会員相互の親睦を図り自己研鑽に努めることにより、行政マンとして市政向上の一翼を担うことを主目的としている。活発とはいえないが、今後とも息の長い

活動が続けていきたい。
幹事 竹本 勇(35)
前田 耕作(24)



第1回日立大樟会開催

日立大樟会

「日立グループに勤務する同窓生の集まりを一度、開催しようではないか」との、日立金属株田中取締役(9)のご発案で11月6日(金)夜、大阪、梅田のニューミュンヘンで第1回目の日立大樟会を開催した。

日立グループに勤務している同窓生で判明している18名の内、日立金属株田より田中取締役、中西部長(23)、石井氏(40)、五光商事株田より辻本名古屋営業所長(31)、中西部長(32)、角脇部長(34)、日立ツール株田より小笠原課長(36)等14名が東京、名古屋、広島より集まり、大経大時



代の思い出、日立グループに入社した経緯、近況などを予定の時間をオーバーし、語り合った。また、

サッカー部、中興の榎本氏(11)急逝す



終戦後の学校は荒れ果てていた校舎には、米軍機からの爆撃を避けるため迷彩色がぬられたままで、周辺はいも畑、食糧難の折からたまには我々も無断でご馳走にありつけた。まことにすさんだ時代で、

「サッカーのような呑気なものをようやうやってるなア」と言うような昭和22年ではありませんでした。しかし学校の伝統とそれに加えて諸先輩の有難さを痛感したのはそれからでありました。

戦前から昭和と高商とを言えば、関西サッカー界では総合大学をも凌駕する実力の持ち主でした。その諸先輩が関西サッカーリーグの4部から出発する我々のチームを指導にみえたのです。その先頭に立つてコーチをされたのが、今は亡き佐野督之助氏(5)とその愛弟子榎本能一氏であります。

チームが弱い時にはなかなかコーチには来てもらえないものですが、榎本先輩にはお仕事の間に抜けてはグラウンドに姿を見せたいだけ、相当な高等技術を指導していただくと共に、フットボールの叱咤激励を受け、戦前の伝統を教えられ、それを引きつぐ精神力の必要性を口やかましく、厳しい練習の中で体で教育を受けたものです。

試合の時にはグラウンドの隅々に迄鳴り響くような大声でドナられたのもしばしばでした。先輩の中には軍隊気分抜けやらず、ピンタの飛ぶこともザラではありまし

たが、それにひきかえ、榎本先輩は心底優しい指導ぶりです。現役選手にははなはだ思えたもので、そして経大サッカー部も1部リーグで優勝する迄に成長した昭和30年中頃は、本当に榎本先輩の声と共にサッカー部が大きくなったように思われる時代であったと思います。

OBになった我々とサッカー談義に花を咲かせ、夜の更ける迄三の宮のアチコチで飲み歩き、明るいお酒で本当に楽しい思い出が今でも忘れることが出来ません。

ところが、身心共にサッカーで鍛えたあの頑丈な体が、突然昭和62年10月12日午後3時51分。急性呼吸不全の為不帰の客となられました。ああ惜しむべき好漢、サッカーの虫、榎本先輩、行年62歳、現サッカー部員は言うに及ばず、我々OBも榎本先輩の死を心に銘じ、関西学生サッカー界の中心的存在になるべく努力することを誓前にお約束し、日々練習に、そして伝統を守る重要性を改めて認識するものであります。

なお御遺族は 奥様 嘉子様、長男、悠太郎君(24歳)であります。

遠方の方には時間ギリギリまでお付き合いたいただき、予想以上の盛りあがりの内に、今後も同窓生の絆を深めることを誓いあい散会となった。

今後の日立大樟会の方針として、1人でも多く日立大樟会のメンバーを増やしていきたい。

一、毎年、同窓会総会に全員出席し、続いて、日立大樟会を開催することになりましたのでご報告致します。

国代 公寛(37)
(日立金属株岡山営業所営業課長)

久保(富岡)きみ著 『清くただ独りに』—我が半生の記



昭和62年5月 発行
頒価 1,800円

久保さんは、故黒正先生の秘書を務められ、昭和と高商・女子経専時代に本学の図書課にも勤務されていきました。

昭和9年からの黒正先生との出会いに始まる様々な人々たちから、久保さんの人生に心の糧として、如何に大きな庇護と支えを与えられていったことか。久保さんの30年間の自分への総決算を通して、これら先達の方たちに心から感謝の意を捧げんとして、このたび自費出版されました。

購入ご希望の方は—大阪経済大学協書部へ
06・327・6373
著者住所

(文責前田)

伊藤音七郎著(6)『逆流の時』



昭和62年8月15日発行
これは／巨大なる精神社会／帝国陸軍に対し／無言の抵抗をし

つづけた／一等兵の／物語である。の巻頭言に始まるこの本は、伊藤氏の自分史の一端であり、青春の一コマを主人公伊達一等兵に托して、満6年余の軍隊生活時の若き日の思惟を綴られた一文であります。共感のある方に一読をお勧めいたします。

宛先 イトー・フレンズ出版部
大阪市天王寺区悲田院町 3-17
(文責前田)

14期生・全員集合!!

卒業40周年記念クラス会を開催します。ぜひご参加下さい。

昭和63年5月29日(日)に金沢で卒業40周年と、ほとんどの方が還暦を迎えられることを記念してクラス会を開催いたしますので、皆さん/今からご予約の中に入れて

ておいて下さい。なお、詳細につきましては改めてご連絡申し上げます。

柴田・小松記

卒業50年の感慨

福井 尚吾(3)

母校益々のご発展よろこびに耐えません。卒業50年を同級生と喜びあうと共に、戦塵にたおれ、鬼籍に入ったクラスの者の追悼会を瑞光寺で行い、宇治・花やしき・山宣の旅館で生者の宴席をもち、生のつかの間の光輝を6月中旬に享受しました。小生、若い学生とともに日本と世界の21世紀の運命を語りあえる日々を送っていますが、休暇に欧州に出かけたり、東南アジアを歩いたり、独・佛・西・ハンブル・中国語の語学の勉強を続けております。昨春、アフリカのモロッコを一週間訪ねました。今後、中南米とオーストラリアを訪ねたいと思っています。

「楽しく生きる」

山邊 富巳生(4)

約30年の教職生活を終えて、第二の人生航路に入ってから、既に10年。昨今では「楽しく生きる」を目標に、健康を保持しながら、ボケないように、毎朝食前の一時間の散歩、朝食後は新聞を読み・見るに約2時間半、その後は旅行の計画、夜は殆どどの時間をテレビで費やしています。楽しく老いてゆくつもりだが、何かと不満の多いのがこの世の常。人の欲には限りがない。願いは一つ、ノーマア・ヒロシマ。

母校の発展によせて

山田 宗男(5)

この度、母校の創立50周年に当り、立派な記念館の完成しましたことを心から喜んでおります。大阪経大のシンボルとして、また卒業後、即戦力となる学生の教育施設としてフルに活用されることを希望します。

私は、現在、年金生活者で、仕事から開放され、なにか緊張感がぬけたような気がします。しかし、健康に留意して散歩を日課としています。同窓生のみなさん、お互いに連絡をとりあい、母校の発展に協力しましょう。

毎年発行される「澱江」を心待ちに楽しみにしています。

人生は自己表現の場

長尾 晃(8)

30年のサラリーマン生活を離れ、60歳から「人間関係と自己表現」のコンサルタントを始めて7年になる。これが母校と結びつくとは……職員の方々の研修のお手伝いをさせていたったり、4回生に、毎年2時間ほど「面接の自己表現」というテーマで講演をさせていただいたりしている。人生でのパフォーマンス、自己表現が下手で、人生で損をしている人は多い。「人生は自己表現の場である」。年をとれば、益々これが大事なのである。

先生と呼ばれて45年

岡村 智(10)

昭和18年9月に卒業(戦時特例繰上卒業)した私は、大阪市立第七商業(現淀商高)で教職のスタートをきり、その後、郷里に帰って、昭和56年3月定年退職しました。その後、引き続き岡山市立中央公民館で、社会人対象の「簿記講座」

を開設、今日に至っておりますので、先生稼業が遂に45年になりました。卒業証書と共に受領した「教員免許状」の有難さをつくづくと感じている今日この頃です。現在、岡山県下では、後輩諸君が約30名同職で頑張っております。それが、50名になり、100名になるのが私の夢です。母校のますますの発展を祈ります。

さかんな同窓会活動

中張 幹三(12)

昭和59年3月、高校を退職。その後、非常勤で県内の高校に勤めています。倉敷市玉島の在住ですが、玉島地区は百余名の同窓生がおり、地区としての同窓会活動もさかんです。創立50周年記念事業にも、地区同窓生から浄財を集めて応分の寄付をさせていただきました。地区でも、年数回の会合をもち、親睦・融和・情報交換などしています。

また、卒業生で県内高校勤務のもの、そのOBの集まりである「黒樟会」があります。現在30数名です。旧構内の樟の大樹と、創立の師、黒正先生の名にちなんでの命名です。毎年一回会合をひらいて、親睦と意見・情報交換などをして連携を深めています。来年の会合には、是非、大学当局

北から南から

からもご出席をお願いしたいと思います。

二つの会合でいつも話題になるのは、母校の現況についてです。

関・関・同・立につく老舗である母校の地盤沈下についてです。

新しい文科系学部の増設、郊外など新しいキャンパスへの移転など、抜本的な対策を考えてほしいと言っているのが大方の意見です。

できれば「澱江」に母校の将来計画等を掲載していただければと思います。

同窓会の発展を祈って

本間 洋子(14)

仕事の都合で岩国の地へきて以来、30年余の月日がたつてしまいました。来年は、いよいよ私も定年、その上、私達14回生の卒業40周年に当たります。来年こそは、今までお目にかかれなかった方々も一緒に盛大に同窓会でお会いしたいものです。大学ならびに同窓会のますますのご発展をお祈りします。

懐かしい江口の渡し

福岡 久二雄(16)

一昨春秋、定年となり、現在編集局校閲部の嘱託で頑張っています。夜勤が多く、昼はほとんど家でゴロ寝か読書。休日には、50坪余の土地で家庭菜園にいそしんでいます。来秋には、新聞社を退社、年金生活にはいります。その後は、毎日が日曜日、久々に

晴耕雨読の日々

加藤 正和(17)

20回卒の「はたち会」の面々も定年を迎えて、一つ終わったという感じと、これから何かをとの、あせりにも似た気持ちで、落ち着かない日々ではないかと思えます。幸か、不幸か、私には、自営ゆえ定年はありませんが、長男・長女とも結婚していませんので、家業のブティックを引き継いでくれるのは何時になることやら、現時点では見当

花のシルバー・エイジ

花宮 両一(20)

創立50周年にふさわしい記念館も見事に竣工し、益々の母校の発展を心から喜んでおります。卒業後、郷里の福井へ帰り、高校の商業科教員になってから33年の歳月が流れました。片田舎といわれる福井でも情報化の波は確実に押し寄せ、今迄の状況は大きく様変わりしています。どこで働くにしろ、これからの舵とりは大変だと思えますが、自分なりに方向を見失わないよう頑張りたいと思います。困難にぶつかったときは、いつも経大で学んだ数々のことを思い出しては心の支えとしています。「澱江」が、豊かな情報の交換の場となり、ますます充実することを念じるとともに、みなさまのご活躍を心からお祈りします。

油絵にいそしむ

西丸 全一(18)

新幹線の窓から母校の発展振りを垣間見ながら、いつしか齢、六十路に近く……。昨年、旧友の鮫島圭君が名古屋に転動してきて、やっと「ヨッ、ヨッ」と言いあい得た始末……。小輩、相変わらず零細な生協で苦闘しながら、下手な油絵を描き続けています。

情報化時代の舵とり

吉田 勲(20)

もつかない状況です。顧客の方々と共にシルバー・エイジを生きてゆこうと思っています。

面影そのまま

植田 信博(2)

母校を創立して30余年。永年勤めた会社も今年定年退職。現在、短大専門学校で教鞭をとっております。現役中、忙しいことを理由に同窓会は欠席。希望よりも、反省しており、久方ぶりに母校を訪ねたのも昨日のことでした。面影そのままの校庭の楠木の端にそびえたつ「50周年記念館」に時代の移り変わりを感じました。

国際社会と我が母校の発展

田所 聖(2)

貿易は、相手国との関係において得意の分野のものを輸出し、かつ輸入することにより、相互に経済発展をより高めることを基本とし、天然資源の乏しい我が国は、原料を輸入し、加工の上、製品化して輸出する加工貿易を柱として発展し、以後、技術力の向上と、貿易構造の変化から、ただ単なる加工貿易型の貿易構造から、更に良質な工業製品を各国に供給し、相手国も、また、良質な製品を享受する機会が増える一方、輸入を拡大することにより、相手国の供給力を高めることができ、更には資本提携・技術援助など、あらゆる分野での経済交流を進めつつも、なお、不透明な諸問題をかかえる我

が国経済の現状の中にあつて、母校が、学問の府として名実ともに飛躍的な発展を遂げたことは、まことに喜ばしいことであります。

今後は、今一度原点に立ちかえり、黒正イズムの浸透、恩師・諸先輩の築かれた自由の校風と共に、より良いものは常にこれを取り入れ、切磋琢磨して、更なる発展を希望しつつ、30有余年の歴史をかえりみて、深く感慨にひたつてゐるのは私一人ではないものと思ひます。

母校のますますの発展を望んでやみません。

東京生活26年

吉原(広瀬) 千代乃(2)

卒業以来28年が過ぎ、そのうちの26年が東京生活で、母校に立ち寄ることもないまま月日が経ちました。が、会報などから淀川の大学周辺も激しく変転し、発展していることを知り、うれしくも淋しくも思っております。

東京支部のみなさんととは、先日、会合があり、それぞれに成功された様子を押しうれしく思いました。私は、一主婦にとどまっただけに至っておりますが、すこぶる健康でテニスを楽しみ、地域社会のボランティア活動に微力をそそいでいる現在です。

豊かな熟年に向けて

大川 享(2)

関西から上京して10年を過ぎても、やはり言葉なまりは直らないままに、関東人に負けないように頑張っております。

低成長期に入った昨今、会社も個人も、金入りが悪くなっています。しかし、生き甲斐のある人生を送るために、仕事以外に大切にしたい家庭と、なにかの趣味を持って熟年を乗り越えようと考えております。

大阪へ帰る

花岡 任有(2)

昭和36年3月、母校卒業と同時に現在の会社に就職しまして、早や26年の歳月がたちました。

とを祈願してやみません。

同窓生に出会う

米田(向日) 喜美子(2)

卒業して早や16年が経ちましたが、同窓生のみなさんお元気ですか。今年の8月に和歌山に引越してまいりまして、家を購入する際に利用した販売事務所の責任者の方が偶然にも同窓生の方でして、主人共々おどろきました。

このように、各業界で同窓生の方が活躍しておられる様子を見て大変頼もしく思っております。

また、橋本市は、私のゼミナールを担当していただきました倉辻先生のお住いの地でもあり親しみを感しております。

同窓生のみなさん、身体に気を付けて頑張ってください。

専業主婦に徹す

黒野(竹入) 未鈴(2)

みなさまお元気ですか。早いもので、母校を卒業してからももう15年程の歳月が過ぎました。

私は、二部生でしたので、あの頃の忙しかった毎日の生活、今では、よ

この度、再度大阪本社へ帰ってききました。新しい職場で、あらためて新入社員のつもりで頑張っております。

「山水会」理事長に就任

水木 佳宣(2)

今回、社会福祉法人「山水会」の設立が認可され、精神薄弱者・身体障害者通所(50名)授産施設として運営することとなり、小生、その理事長に就任いたしました。

施設の広さも1,040㎡になり、8月初旬に入札・建設にかかり、来年2月に完成・4月1日より開園の子定をしております。

我が母校、大阪経済大学も、益々発展されますことを祈念すると共に、今後とも、ご指導の程よろしくお願いいたします。

くあれだけ仕事と学校を両立できたものだなあ」と、我ながらびっくりしています。

今、私は専業主婦です。少しばかりの仕事はしていますが、ほとんど子供と主人の為に時間を費しております。

私は仕事よりも、まず家庭、家庭を明るく、平和に保つてゆくこと、家族の健康管理(心身両面)をすること。せいたく料理ではなく、栄養のバランスのとれた、自分で畑で作った野菜を使った料理。それらを家族に食べてもらうこと。

これこそ、今の私の仕事だと思っております。そして、それにプラス社会参加の仕事も少ししております。

母校訪問

澤谷 敏行(2)

今年の5月に、10数年ぶりに母校を公務で訪問しました。

その節は、中小企業経営研究所の方々に大変お世話になりました。紙面を借りてお礼を申し上げます。

新しく建設されました「50周年記念館」も見学させていただきました。募金活動によって、このような立派な記念館が建設されたことに感心させられました。

大学関係者のみなさんならぬ努力がうかがえます。

私の勤務先も、まもなく百周年を迎えますが、母校にならって、この

北から南から

思い出

海老名 崇夫(3)

近況をとの便りをいただき、卒業後23年にもなると改めて時の流れの早さを感じました。

在学中は、柔道部に籍をおき、数々の思い出がありますが、懐かしいのは苦しかったことばかりで、昨今では考えられませんが、当時は、体育館に畳を敷くことが練習のスタートでした。

大阪在職中は、出張の行き帰りに新幹線の車窓から、母校の校舎の移りかわりを眺めたものでした。

昭和55年から、福岡・東京と転動しましたが、いずれの地にも同窓会支部があり、大先輩・懐かしい方々とお会いする機会を得ましたが、当地には支部がなく、さびしい思いをしております。

最後に、母校と同窓会の益々の発展を祈念します。

母校に望む

佐藤 和夫(3)

東京生活も4年目。4年間かかってまいった仕事の種がようやく芽ばえてきた今日この頃です。

広告業界で生きてゆく以上、東京という舞台は最高の場所のようです。

北から南から

ような立派な記念事業ができることを願っております。

母校、大阪経済大学の一層の飛躍発展を期待しております。

お腹の出張り具合

中谷 照之(41)

卒業後、はや12年の歳月が過ぎました。2年前に結婚し、現在は一児の父親です。

学生時代は野望もあり、チャレンジ精神も旺盛でしたが、いつの間にか現状にとどまりと漬かった生活になっていました。

昨年、簿記会計研究部のサークル活動の同期生と一泊旅行をしました。みな、昔の面影そのままでした。ただ、お腹の出張り具合が中年の域に達していることを除いては。

母校遠くへありつゝ

重尾(永田) 清美(41)

母校を卒業して十余年。今や専業主婦としての毎日を安穩として暮している。

表面上の生活とは裏腹に、精神的な苦悩ははかり知れないものがある。

の友達は、今が子育ての真最中のよう、私も二児の母親として、毎日育児に専念しております。

わが家の新しいニュースとしては、主人がワープロなるものを購入してきましたので、子育ての合間に少しずつ勉強しています。(専業主婦を卒業して、再就職するとき困らないためにと思っております。)

今年の年賀状は、ワープロでどうぞとがんばっております。

信州でペンション経営

橋内 賢裕(44)

現在、信州は北志賀高原で「ペンション・メルローズ」を営業しています。

冬はスキー、春・夏・秋はテニス・ゴルフなど、是非、同窓生の方々のご利用をお待ちしています。

気長にと思えど

松野(南) 文子(47)

卒業後、二年間のOL生活、そして結婚、退職。

今は、二児の母親です。子供とつ

男女雇用機会均等法が制定され、女性の社会進出が際立つ。種々の問題をかかえてはいるが、アウトサイドにいる自分にとっては何とも羨ましい限りである。

在学中のファイトはいずこへ。こどものための犠牲は、我が人生にプラスかマイナスか、現在ジレンマに直面している。片田舎にあって、同級生であった夫との生活が唯一の救いである。二人で酒をくみかわし、議論すれば深夜になることも。

他人からみれば、我々夫婦は新鮮であると言われる。うれしい限りであるが、この機会に、今一度自分の本領を発揮し、人生の再出発を期してみたい。

最後に、夫と知り合った母校への愛着は捨てがたくも、如何せん遠くにおいて……

今後のご発展・ご活躍をお祈りする。

強いクジ運

小松 正樹(42)

小生、相変わらず姫路の片田舎、御着郵便局でくすぶっております。

当局で、既に6年、ぼつぼつマンネリ化しかけていますが、幸い来春3ヵ月程研修を受けることが内定し、気分一新できそうです。

月に一度ほど、大阪まで本屋をのぞきに出掛けますが、学校まで足を

きあうときは「気長に、ゆったりした気持ちで」と思いながらも、つい、イライラして怒ることもあります。

毎日子供をみていると、あらゆる可能性があるとつか、いろんな才能がぎゅぎゅつまっているという感じがします。子供の能力の発達には、全く驚いてしまいます。

今の私は、主人と子供のことで、一喜一憂する毎日です。なつかしい学生の頃を思い出しても時々あります。

大阪は第二の故郷

南野 澄夫(40)

金が無く、時間的余裕のみあった学生時代。なんの利害関係もなく、心を開く友達が多く出来た大阪を、第二の故郷と思っている。

山口に帰り、両親と同居しながらの社会人、それなりの友人も出来たが……

子供も10ヵ月に成長し、親となり初めてわかる親の恩。今からが私の正念場、一歩先を考える人間となり、大経大OBとして社会に貢献する人間となるべく努力せねばならない。

私と、大阪をつなぐのは、友人、そして新聞の片隅にある、母校の野球、その他のスポーツの活躍記事。頑張れ後輩。

のばす元気がなくなつて久しくなります。

私は、統計学を落してしまいました。たが、無作為抽出というところで、「瀬江」への投稿は3回目になり、当選確率のよさに驚くとともに、このくじ運、宝くじにものり移ってほしいと願っています。

挫折の後に

松尾 雅芳(43)

日頃は、大学生活を思い出すこともなく、仕事と生活に追われておりますが、寄稿依頼を受けて久しぶりに学生の頃を懐かしく思い出しました。

私は、現在、61年度公認会計士2次試験に合格し、ビッグ8の一つである、プライズ・ウォーターハウス日本事務所である青山監査法人に勤務しております。

このような会計のスペシャリストとしての仕事に憧れたのは、大学入学当時と、前の職場であった交野市農協入社後6年目でした。

入学当時は、税理研究会という、資格取得を目的とするサークルに入りましたが、途中で挫折し、その後は、学生生活を色々エンジョイしておりました。

2度目に決心した時は、恩師渡辺泉先生とご相談をし、2度目の受験

OB間の連携を

門柳 朋久(40)

卒業して4年、下町のナポレオン「いいちこ」を販売する営業マンです。

社会人になってから感じたことですが、母校の卒業生同士の横の連携が弱いのではないかと思います。もつとOB間の連携を深めるべきだと思います。

最後に、在学生・OBのみなさんのご健勝を祈ります。

チャレンジ精神を大切に

上野 範男(40)

「世界の女性を美しく」を合言葉に、現在、ボディ・ファッションのトリップで忙しい毎日を送っています。

日本、いや世界の社会状況、経済状況が刻々と変動してゆく様子を肌で感じる社会人生活の中で、大経大で学んだことが基礎となり、自信となっています。

「青春時代、何をやっても無駄なこととはひとつもない。チャレンジ精神で頑張れ大経大生」とエールを送ります。

で幸運にも合格しました。

現在、主に会計監査を担当しておりますが、将来は、国際税務や、マネージメントサービスの仕事にも挑戦したいと思っております。

最後に母校大阪経済大学の益々のご発展をお祈りします。

個性のある大学に

西 隆司(44)

青雲の志をもって卒業して10年目を迎えますが、気分的にはさほど変わってはおられません。

しかし、社会情勢は相当変わりました。母校を訪ね、見聞する機会もないままですが、現在は、個性のある大学に人気があるように思われます。

同クラスだった、中筋君や、中江君とは時々会っております。

母校が、今後、個性のある大学としてより発展することを望んでおります。

ワープロに挑戦

西川(橋本) みゆき(44)

最近、ときどき大学時代の友達と文を交換しておりますが、ほとんど

円高不況の波

広部 正淑(40)

長年、慣れ親しんだ大阪の地を離れ、当地の信用金庫へ入って4年目となりました。

ここ湖北では、近年、トライアスロン等のイベントも行われ、有名になりつつあります。

しかし、円高不況の波は、この片田舎にも確実に押し寄せており、地場産業の縮小も衰退の道を辿っています。

在学当時はそれほどでなくても、卒業後は、母校のことにはやはり関心を持つようになります。

ESSのみなさん、一度会合を開きましょう。

今後の母校の益々の発展を祈ります。

地方都市をリード

石田 直征(40)

涙、涙の卒業式から、早や1年半、やっと社会の厳しさがみえてきた今日この頃です。

山口といえば、西の端。流行にしても、最新情報にしても、東京や大阪に比べて、かなり遅れてやっています。

私が住んでいる徳山も、まだまだ保守的な町です。こういう地域では、私達百貨店マンが、情報提供の中心的存在として頑張らねばなりません。私自身も、大阪在住時に身につけたセンス(?)を生かして、地方都市徳山をリードしてゆきたいと思っています。

夢のような日々

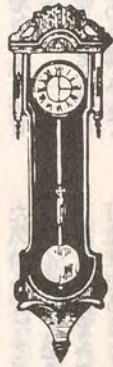
西田 幸二(副)

多少、仕事にも、一人の生活にも慣れ、日々営業活動に励んでおります。昨年までの学生生活が夢のように思え、また、今の生活が不思議でなりません。ゼミO B会・同窓会などには参加したいと思っています。この「ムトウ」という会社は、かなりきびしいようにも思えますが、後輩に希望者がありましたらご連絡下さい。

宗教活動と私

阿部 孝康(副)

40年代末に卒業後、偶然新宗教に足を踏み入れ、数年間宗教活動に専心しました。在学中は宗教論の様な講義も少なく、もう少し宗教そのものに参加しておれば、人格形成上いくらか寄与するものがあつたのではないかと思います。ここ2年程活動の場から身を引いておりますが、やっと宗教学らしい輪かくが理解できる様になりました。現代は宗教の時代であるといわれ、当時教えていたいた山本晴義先生も宗教学についての著書を出版されていることを「学園だより」で知り、懐かしく思います。現代に是非宗教学の講座を設けて、現代における宗教の役割とか、ある程度中立的立場に立つものが設けられれば、と思います。一種の社会教育でもあり、その面の充実を望みます。山本晴義先生の著書も読ませていただき、少しでも人間としての成長の糧として、今後の自分の進むべき方向をさぐらせていただきましたと思います。



どうりてんちをつらぬく

道理貫天地

A5サイズ 282頁

黒正巖先生の思い出

永年あたためていた黒正先生の思い出記を、同窓会の記念事業として62年11月3日発行。

◆頒価 一冊2,000円 (送料込)

◆購入方法

郵便振込
銀行振込
いずれの場合も同封振込用紙をご利用下さい。(郵便局または、三和銀行本支店をご利用になれば払込手数料はいりません)
現金書留

〒533 大阪市東淀川区大隅2・2・8
大阪経済大学同窓会
思い出記係宛

◆問い合わせ先

大阪経済大学同窓会事務局
06・328・2431(代)

◆発行にあたり

母校創立50周年記念を祝して、本会広報部が中心になって編集しました。当初、日本経済史研究所編の『黒正巖先生遺稿集』と姉妹

本年は、統一地方選挙の年でありましたので、当支部の特別会員2氏を紹介いたします。

(大阪市役所支部)



①大阪市議会議員 物部秀恒氏 (25回卒)

氏は去る4月に行われた統一地方選挙において、港区で大阪市議会議員に見事トップ当選されました。

今回で連続2期目ながら、公明党幹事、文教経済委員会委員、環境対策特別委員会副委員長と市会の中核として活躍され、地元港区においては、バイタリティー溢れる明るい人柄と熱心な日常活動で区民の信頼を集め活躍中であります。



②大阪市議会議員 寄吉哲司氏 (30回卒)

氏も同じく4月の統一地方選挙において、母校の地元東淀川区で当選され、連続3期目の大阪市議会議員となりました。民主党市民連合副幹事長、民生保健委員会副委員長、環境対策特別委員会副委員長の要職に就かれ、46歳の若さに伴う行動力と人当たりの柔らかさで地元区民の敬愛を集め頑張っております。



つた池田善雄君(36回卒)は最終校正を終え、この本の出来上がりも見ず、心に残して昇天されました。旧制の方には先生の在りし日の面影を思い起こしていただくよう、若い方にはあの校庭に凜然とおおす胸像の、黒正先生の神髄を一人でも多く知っていただきたい。ご購入をおすすめいたします。

◆61年度版『同窓会名簿』
頒価 一冊6,000円

◆オリジナル・テレホンカード

61年度総会で作成しました「オリジナル・テレホン・カード」、好評です。ご希望の方は、1枚800円でお分けします。まとめてお買上げの際は10枚で1枚進呈いたします。購入方法は、名簿、テレホンカードとも『道理貫天地』と同様です。

異動のあつたときは
ただちにご連絡ください。

- ◆住所変更 ◆呼称変更
 - ◆勤務先変更 ◆所属部課
 - ◆役職異動 ◆電話番号変更
- ◆名簿作成調査票をご利用のうえ、本部へお届けください。
- とくに、官公庁、金融機関、損保関係、国公立学校にご勤務の会員のご協力をお願い申し上げます。
- ◆コンピューターシステムの名簿をご利用ください。
- 同窓会会員名簿は、現在、同窓会独自でシステム化したコンピュータによる管理体制を採用しておりますので、
- 1、郵便番号による都道府県市町村別会員名簿作成
 - 2、ゼミ別会員名簿作成
 - 3、卒業回数別会員名簿作成
 - 4、クラブ別会員名簿作成
 - 5、業種別会員名簿作成
 - 6、封筒用漢字ラベル作成
- などのアウトプットが可能です。会員の皆さん、大いにご利用ください。

学 歌

作詞 秋本吉郎 (元本学教授)
作曲 柴田南雄 (放送大学教授)

- 1. 大淀の 水は春ゆく ゆたかな春だ
芽立つ葦原 緑が泌みる
この若さ 希望は明るい 蒼穹かけて
永遠の青春 みなぎる学園
大阪 大阪経済大学
- 2. 大樟の 蔭は裕々 夏風そよぐ
学徒師弟が 幹負いもちて
諸汗に 確かと植えた 融和の象徴
繁れ自由の 花さく学園
大阪 大阪経済大学

学 園 歌

作詞 黒正 巖 (昭和高商初代校長)
作曲 水野康孝 (元本学教授)

- 1. 商都の東北澁江に 臨みて高く聳り立つ 我等が昭和学園は
産業日本を双肩に 担うて進む若人の 力の糧の広野原

逍 遥 歌

作詞 中村行男 (16回卒)
作曲 松川圭一 (15回卒)

- 1. 此处 城北に迎えたる
紺碧淀の春の夢
惜春の賦のただよえば
薫風静かに流れ来て
逝きし苦節の十余年
歴史は吾等に教うなり
- 2. 水や濁れる人の世に
真理求めて遊ぶ子の
友愛久遠に変わるまじ
汝が悲しみに我は泣き
吾が喜びに君や舞う
惜みて励め我が青春を



事務局長就任のご挨拶

陰下 嘉典

会員の皆さんは、それぞれ各界においてご活躍のこととお慶び申し上げます。

私は、この度、長年に亘り同窓会のためにご尽力いただきました、比企重氏(7)のあとを受け、同窓会事務局長に就任いたしました。

ふり返りますと、昭和高等商業学校が、大阪女子経済専門学校となり、昭和21年5月、同校が廃止され、大阪経済専門学校となった昭和22年3月同校に入学し、昭和28年3月、大阪経済大学を卒業しましたが、当時の母校は、戦時中のいまわしい面影が随所に残り、加えて学制改革に伴う旧制専門学校から新制大学への昇格運動の最中で、昭和24年2月に大阪経済大学経済学部が認可され、一部の学生は専門学校から大学へ編入し、一時は専門学校と大学が併在するという激動期でありました。

その当時の同窓会は、今にして思えば会員数は勿論、財政的にも想像もつかぬ程貧弱で、窮乏したものであったと記憶しております。

しかし、当時の同窓会長渡辺達好氏(3)(現名誉会長)はじめ、幹事であった磯野 斉現会長(3)、広田 実現相談役(1)、山上善彦現監事(2)、比企 重現副会長(7)(前事務局

長)、故世良鍊次前会長等の諸先輩が、母校を愛し、後輩を思う一心から、時には募金活動に東奔西走され、更には、いささかなりとも基金をとということで私費を投じて同窓会の運営にあたられ、そこには、諸先生方の献身的な努力のあったことはいまでもありません。これら多くの諸先輩の努力によって築きあげられたのが今日の同窓会の姿であり、また、母校の雄姿ではないかと思えます。

30数年ぶりに見る母校は、外観のみならず、その環境の変化に目を見はり、また、情報化社会に対応し得る教育機器の充実ぶりに感嘆させられました。

私も、同窓会事務局長などという大役を、安易な気持ちで引き受けた訳ではありませんが、母校の発展、充実ぶりを目の当たりにして、今後の同窓会の一層の発展、充実のために誠心誠意努力したいと決意をあらたにしております。

しかしながら、何分にも浅学非才の身でありますので、諸先生方はじめ諸先輩ならびに会員各位のご指導、ご鞭撻をお願いいたします。ご挨拶とさせていただきます。

編 集 後 記

▼62年度は久しぶりに母校で総会、当日は青春時代に戻った顔、顔……でした。▼50周年記念館、彫刻「風・雲」未見の方、ぜひ母校を訪問下さい。▼尼崎、備後支部が本年度誕生、これで支部総数35、休眠、胎動支部の奮起が期待されます。▼「道貫貫天地」(黒正巖先生の思い出)を出版、同書は母校の建学史としても好評、購読をお勧めします。▼テラックス版「澁江」、本年もお届けできました。澁江購読料にご協力下さい。▼昨年に続き2度目の師走発行、元旦までにお手元へと頑張りました。ご意見をお聞かせ下さい。▼数々のご投稿ありがとうございます。止むなく割愛した方には心から深謝します。

でんこう 澁江1987

- 発行日 昭和62年12月15日
- 編集 広報部
- 発行所 大阪経済大学同窓会
〒533 大阪市東淀川区大隅2-2-8
電話(06)328-2431
- 印刷 凸版印刷株式会社
〒553 大阪市福島区海老江3-22-61
電話(06)454-3256



經
市